



2024年度 拠点事業年次報告書

熊本大学 半導体・デジタル研究教育機構
教授システム学教育実践力開発拠点

〒860-8555

熊本県熊本市中央区黒髪2丁目39番1号

電話：096-342-2895

ウェブサイト：<https://www.gsis.kumamoto-u.ac.jp/sharing-hub/>

目次

目次	1
教育関係共同利用拠点の7つの取り組み	2
共同利用拠点事業①	3
共同利用拠点事業②	29
共同利用拠点事業③	38
共同利用拠点事業④	44
共同利用拠点事業⑤	57
共同利用拠点事業⑥	80
共同利用拠点事業⑦	89

教育関係共同利用拠点の7つの取り組み

本拠点は、教育関係共同利用拠点として認定されています。

拠点名称：教授システム学に基づく大学教員の教育実践力開発拠点

共同利用分野：大学の職員（教員を含む）の組織的な研修等の実施機関

期間：令和5年度から7年度

教育関係共同利用拠点として、教授する力のうちの授業実践力（デリバリ）に対するノウハウを身に付けることに留まらず、デリバリの基盤となる授業設計力（デザイン）あるいはカリキュラム設計力を身に付けるための授業設計、教育評価、授業改善のための分析手法、改善手法等を体系化したオンライン教材、ワークショップ等の開発・提供といった活動を行っています。

延長が認められた令和3年度以降は、新たにFD担当者向け履修証明プログラム、LTテクノロジーを学習するワークショップ等を追加した上で、7つの取組として提供しています。

<7つの取り組み>

1. インストラクショナル・デザイン公開講座
2. 「IDポータル」による情報提供並びに支援ツール・実力診断
3. 「教授システム学専攻公開科目」による学修機会の提供
4. FD研修講師・大学教育設計コンサルタント派遣
5. 大学教員志望者のための教え方講座（教育改善スキル修得オンラインプログラム）
6. FD担当教職員向け「FD活動デザイン講座」
7. ポストコロナの教育とFDを強化するテクノロジー活用セミナーパッケージ

上記7つの取り組みは、本拠点内の各部門が協力し、運営しています。

共同利用拠点事業① 公開講座

本センターでは、インストラクショナル・デザインに関する
公開講座を各地で開催しています。

本年度の取り組みの概要

公開講座の内容を周知し受講者募集するウェブページ（<https://www.gsis.kumamoto-u.ac.jp/koukaikouza/>）の閲覧状況を把握できるアクセス解析ツールとして、昨年を導入したGoogleアナリティクス4（GA4）での計測を引き続き行っています。

以下に示すデータはGoogleアナリティクス4からのものとなります。今後も、こうしたデータを参照し、参加者増加に資するウェブコンテンツ改善に活かす方向で進めてまいります。



The screenshot shows the website for the 2024 GSIS public lecture at Kumamoto University. The header includes the university logo and navigation links: ホーム, ID入門/応用編とは?, AIラーニングテクノロジー活用とは?, プログラム, 講座の様子, 参加者の声, 書籍紹介, 参加申込. The main banner features a photo of a lecturer and the text: 教え方教えます, 2024年度 熊本大学 GSIS公開講座, インストラクショナルデザイン 入門編/応用編. Below the banner are links for 入門編/応用編 詳細 and AI・LT活用はこちら. The main content area is titled 'GSIS公開講座 インストラクショナルデザイン入門編/応用編とは' and contains introductory text about the course. A '重要' (Important) box at the bottom provides details about the lecture format, including online and on-site options, and a note about the lecture schedule.

重要

今年度は、入門編はZoomによる同期型のオンライン研修、応用編はZoomによる同期型オンライン研修と会場研修の形で開催いたします。オンライン版ID公開講座は、単なる現地集合型講座の「改善の策」ではなく、オンラインならではのメリットを活かして構成されます。各種オンラインツールを用いて、グループワーク等の協調的な学びを多数導入して、ディスカッションと個人の考察の往還を促します。また、学びの可視化も期待できます。オンラインでの協調的な学びを体験いただけます。また、会場研修では対面ならではのメリットを活かした学びを体験できます。

また、オンライン開催は地域にとらわれず参加できますので、ご予定に合わせて日程をお選びいただけます。なお、ご要望の多かった平日にも開催いたします。

※講座終了後に、オンライン、開催時は30分～1時間程度、会場開催時は講座を終了して2時間程度、質疑応答の場を設けます。受講者の皆様、講師の皆様、ご参加ください。

図：インストラクショナルデザイン公開講座ウェブページ

表：インストラクショナルデザイン公開講座ページ訪問のきっかけ（参照元）
（2024年4月-2025年3月）

	セッション
Organic Search	3,038
Direct	2,256
Referral	1,044
Organic Social	269
Organic Video	11
Email	10
Unassigned	11
合計	6,639

表：月毎のサイトへのアクセス数

月 (2024年)	インストラクショナルデザイン		AI	
	ページビュー	アクティブ ユーザー	ページビュー	アクティブ ユーザー
4月	253	184	-	-
5月	210	148	-	-
6月	239	156	-	-
7月	911	597	545	333
8月	841	500	474	305
9月	824	523	226	125
10月	844	517	67	54
11月	574	335	67	52
12月	284	218	31	24
1月	277	190	29	25
2月	246	173	22	17
3月	282	201	18	17

表：公開講座受講者募集に関するPR施策

投稿日時	内容
2024年4月22日	Facebookページ：YouTube紹介、熊本大学公開講座インストラクショナルデザイン応用編（東京）レポート
2024年7月17日	ウェブサイトお知らせ：2024年度GSIS公開講座 募集開始(参加申込について)
2024年7月17日	Facebookページ：2024年度熊本大学GSIS公開講座の募集を開始しました
2024年7月17日	researchmapプレスリリース：2024年度 熊本大学GSIS公開講座 募集開始！（オンライン／現地開催）
2024年7月17日	IDマガジン：【ご案内】2024年度 熊本大学GSIS公開講座「インストラクショナルデザイン入門編／応用編」および「AI・ラーニングテクノロジー活用」の受講者募集のお知らせ
2024年7月18日	桐蔭学園トランジションセンターtulipメーリングリスト：【主に高大社】2024年度熊本大学GSIS公開講座の申込受付を開始！
2024年7月18日	広島大学高等教育研究開発センターからのお知らせ：2024年度熊本大学GSIS公開講座の申込受付を開始！
2024年8月8日	桐蔭学園トランジションセンターtulipメーリングリスト：【主に高大社】締切間近！ 2024年度 熊本大学GSIS公開講座 ＜AI・ラーニングテクノロジー活用＞
2024年8月8日	広島大学高等教育研究開発センターからのお知らせ：締切間近！ 2024年度 熊本大学GSIS公開講座 ＜AI・ラーニングテクノロジー活用＞
2024年9月17日	researchmapプレスリリース：【熊本大学】事前学習用eラーニング公開中！ 2024年度 熊本大学GSIS公開講座 ＜インストラクショナルデザイン入門編／応用編＞
2024年9月17日	桐蔭学園トランジションセンターtulipメーリングリスト：【主に高大社】事前学習用eラーニング公開中！ 2024年度 熊本大学GSIS公開講座 ＜インストラクショナルデザイン入門編／応用編＞
2024年9月17日	広島大学高等教育研究開発センターからのお知らせ：事前学習用eラーニング公開中！ 2024年度 熊本大学GSIS公開講座 ＜インストラクショナルデザイン入門編／応用編＞
2024年9月20日	Facebookページ：事前学習用eラーニング公開中！ 2024年度 熊本大学GSIS公開講座 ＜インストラクショナルデザイン入門編／応用編＞
2024年10月24日	桐蔭学園トランジションセンターtulipメーリングリスト：【主に高大社】残席僅か！ 2024年度 熊本大学GSIS公開講座 ＜インストラクショナルデザイン入門編＞
2024年10月25日	広島大学高等教育研究開発センターからのお知らせ：残席僅か！ 2024年度 熊本大学GSIS公開講座 ＜インストラクショナルデザイン入門編＞
2024年10月25日	Facebookページ：GSIS-TV、インストラクショナルデザイン公開講座秘話



図：インストラクショナルデザイン公開講座受講者募集のFacebookページ投稿



図：インストラクショナルデザイン公開講座受講者募集のResearchmapプレスリリースでの告知



インストラクショナルデザイン公開講座秘話

GSIS-TV
チャンネル登録者数 172人

チャンネル登録

7

共有

保存

...

図：インストラクショナルデザイン公開講座の魅力を伝えるYouTube動画
(<https://youtu.be/qTnFAAJVnio>)



図：インストラクショナルデザイン公開講座の魅力を伝えるYouTube動画を告知する
Facebookページ投稿



図：インストラクショナルデザイン公開講座応用編の様子を知らせるYouTube動画
(<https://youtu.be/megPIbc5JBU>)

教育関係者、企業における研修・教育担当者、医療関係者、日本語教師等、教育・研修を担当する幅広い層を対象に、インストラクショナル・デザイン（以下、「ID」）を紹介・学ぶ機会を提供する公開講座を2011年より実施しています。講座は、IDの基礎用語10個を学び、ARCSモデルの活用事例をワークで学ぶ入門編、および入門編で学んだID基礎用語をベースに、参加者同士のワークを中心に参加者自身の事例を改善し、IDを使う練習を徹底的に行う応用編から構成されています。

いずれの講座でも、事前事後学習ではMoodleを使用しております。今年度は対面のワークショップについては入門編はZoomによる同期型のオンライン研修、応用編はZoomによる同期型オンライン研修と会場研修にて、事前事後学習は例年通りMoodleを使用して実施しました（入門編5回、応用編3回）。

◆入門編◆

講師：合田美子、天野慧、土屋理恵

学習目標：

- (1) IDの基礎用語10個がどのような場面でどのように活用できるかを例示できる（知的技能）
- (2) ARCSモデルの視点から、教育事例の課題点を指摘し、適切な改善方法を選ぶことができる（知的技能）

概要：

eラーニングでの自己学習や受講者同士のワークを通じてID10の基礎用語を学んでいきます。また、Zoomを使用したワークショップでは、10個の基礎用語の中からARCSモデルに絞り、講師が提示する教育事例に対する改善策の検討を受講者同士ワークで行っていきます。IDの道具をどのような場面でどのように活用できるか提示できるようになることを入門編の目標としています。

◆応用編◆

講師：鈴木克明

学習目標：

- ・ IDの基礎用語10個のうち1つ以上を応用して、自分の教育事例の改善案を提示できる（知的技能）

概要：

入門編で学んだID基礎用語をベースに、応用編では参加者同士のワークを中心に構成し、IDを使う練習を徹底的に行います。みなさんが取り組まれている教育事例について、IDを用いて改善案を提示できることを応用編の目標としています。

※昨年度までに入門編の事後テストに合格し修了認定された方や、他の場でIDを学習し入門編の学習目標を達成している方等は、応用編から受講可能です。ただし、その際には、別途ご案内する応用編の前提課題へ取り組み、合格基準を満たす必要があります。

各地会場の参加者数

【入門編】 全受講人数：167名

各回共通：募集人数：48名 開講時間：10:00～16:30 時間数：5.5時間

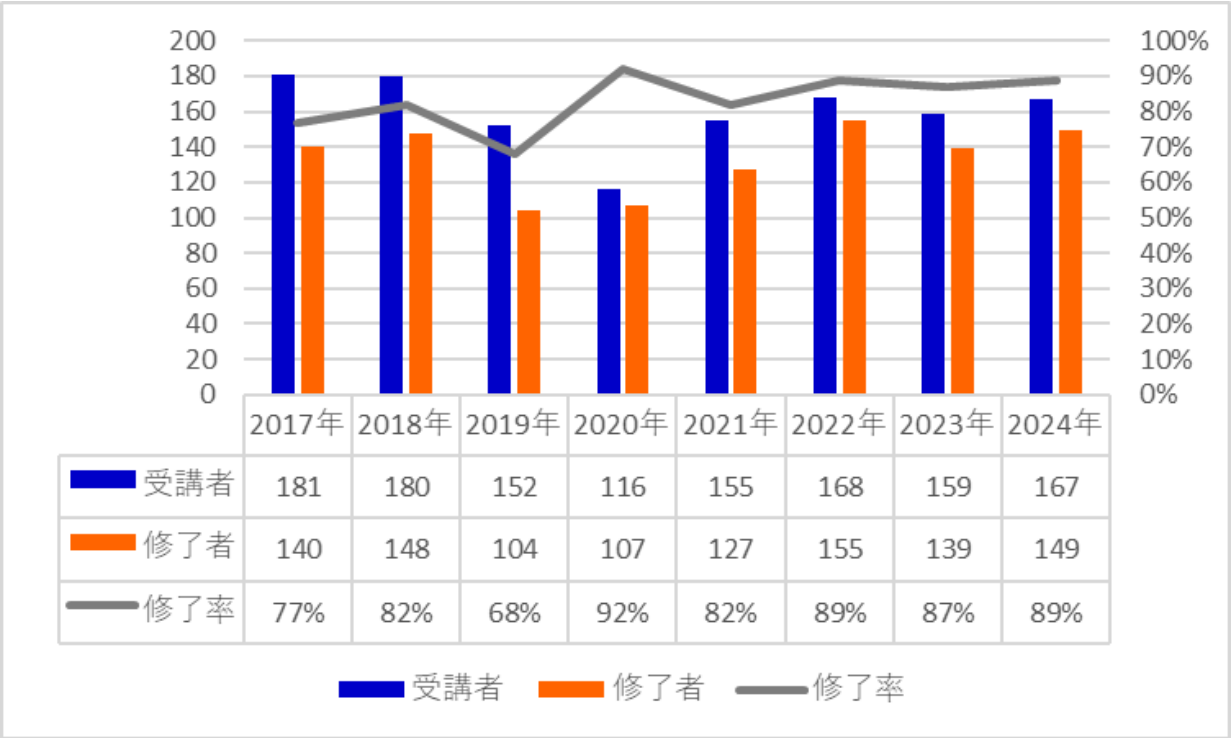
No	講座名	開講日	会場名	受講人数
1	入門編	10/1（火）	Zoom	22名
2	入門編	10/17（木）	Zoom	24名
3	入門編	10/22（火）	Zoom	33名
4	入門編	11/9（土）	Zoom	46名
5	入門編	11/17（日）	Zoom	42名

【応用編】 全受講人数：82名

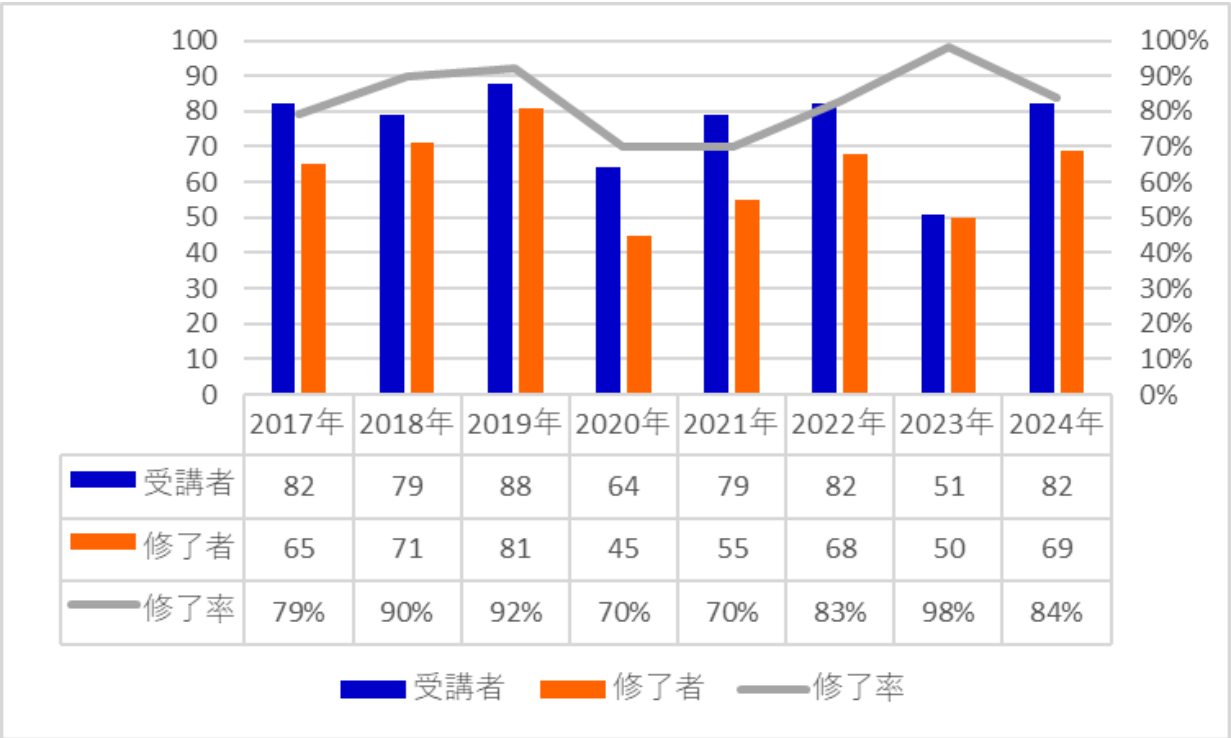
各回共通：募集人数：48名 開講時間：10:00～16:30 時間数：5.5時間

No	講座名	開講日	会場名	受講人数
1	応用編	12/22（日）	Zoom	33名
2	応用編	1/12（日）	東京	28名
3	応用編	2/11（火祝）	大阪	21名

入門編・応用編修了率の推移（レベル２）



図：入門編受講者数に対する修了者数の推移



図：応用編受講者数に対する修了者数の推移

プログラム（入門編）の内容

事前学習

⇒

対面学習当日：

- ・ オープニング
- ・ 質問への回答コーナー その1
(休憩)
- ・ 質問への回答コーナー その2
- ・ 受講者の交流タイム
(ランチ休憩)
- ・ ARCS事例紹介1
(休憩)
- ・ ARCSの事例紹介2
(休憩)
- ・ 事後課題について
- ・ 振り返り
- ・ 全体質疑＆発展学習のご案内
- ・ 受講証書授与
- ・ 事後アンケート
- ・ 応用編参加者の方へ

⇒

事後学習



プログラム（応用編）の内容

事前学習

⇒

対面学習当日：

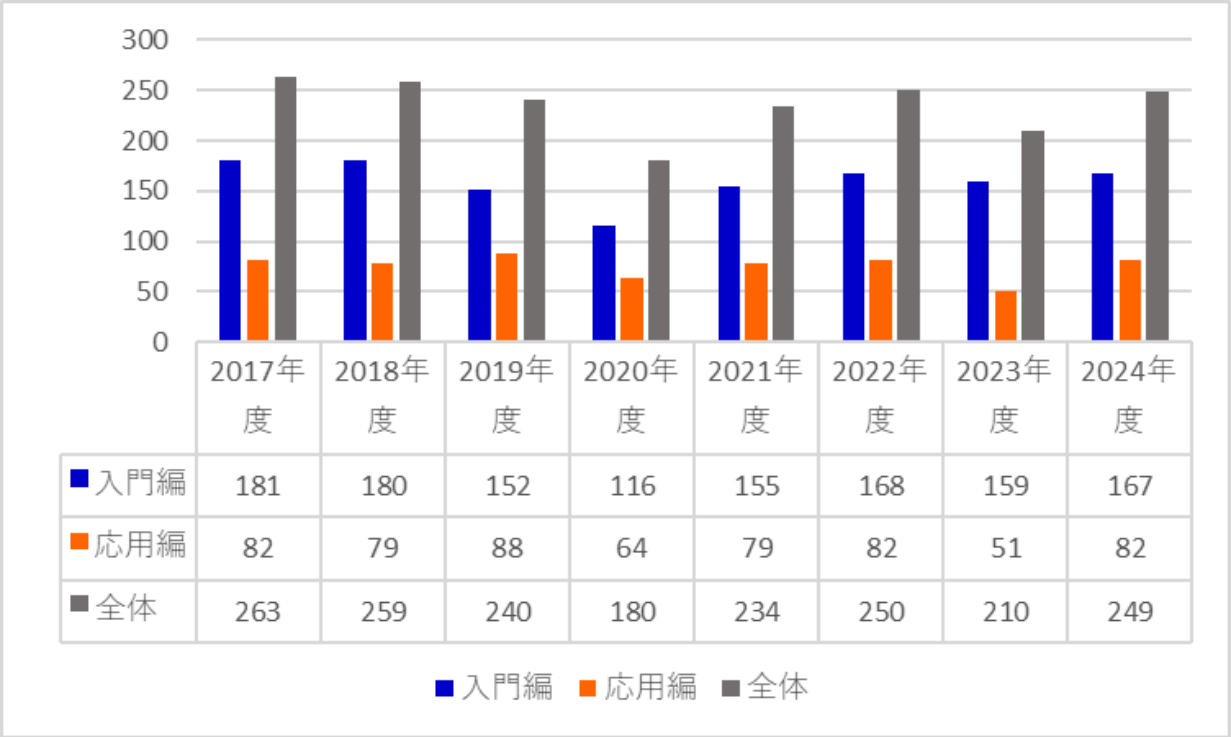
- ・ オープニング
- ・ グループで事前課題を共有する
- ・ ペアリング1
- ・ ペアで改善案を議論する
(休憩)
- ・ グループメンバーにペアワークの結果を伝える1
- ・ 鈴木先生への質問を考える1
- ・ 鈴木先生に質問しよう1
(ランチ休憩)
- ・ ペアリング2
- ・ ペアで改善案を議論する2
- ・ 席移動
- ・ グループにペアワークの結果を伝える2
(休憩)
- ・ 鈴木先生への質問を考える2
- ・ 鈴木先生に質問しよう2
- ・ 全体質疑、総括
- ・ クロージング、受講証書授与

⇒

事後学習



ID入門編・ID応用編参加者数推移



図：受講者数推移（2017年度から2024年度）

受講後アンケートの結果（レベル2：主観的評価）

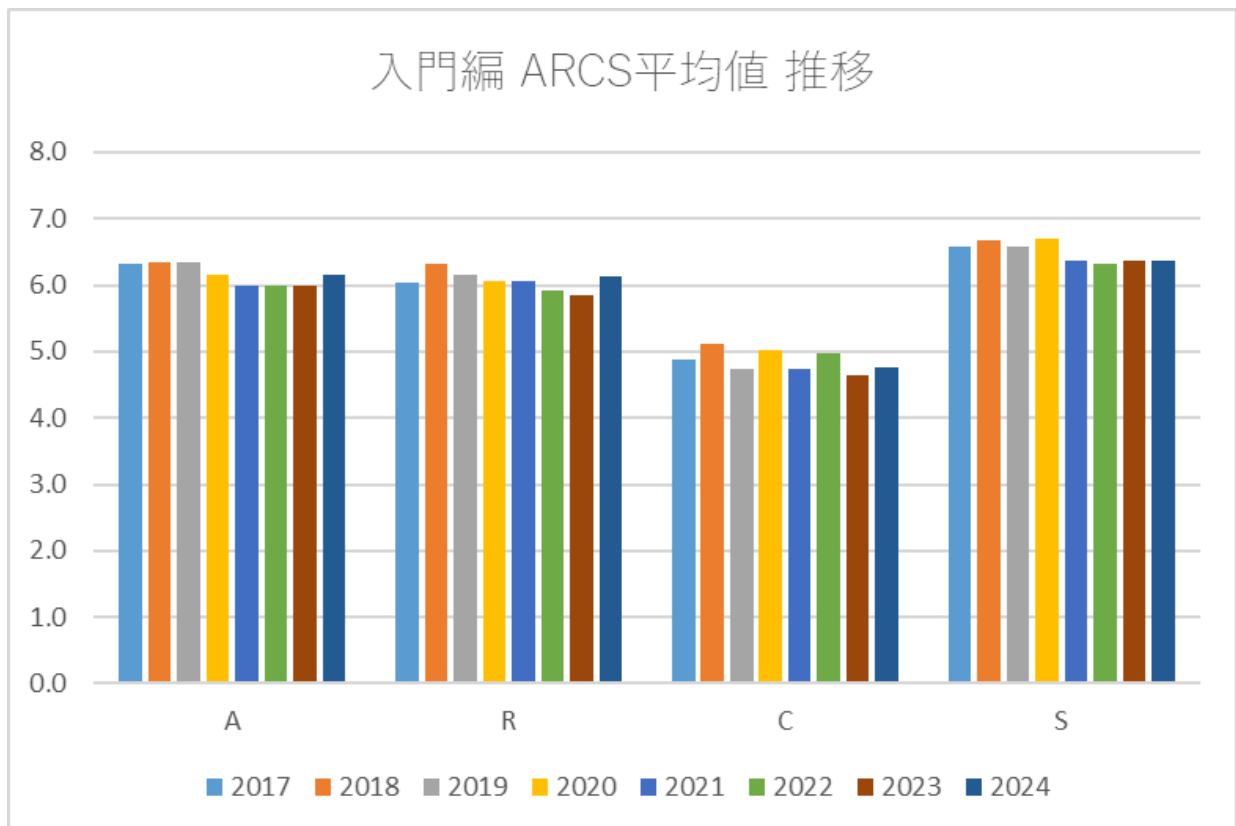
2024年度のID入門編・ID応用編受講者に対する受講後アンケート（入門編の参加167名のうち117名（受講者のうち70%）、応用編の参加者80名のうち34名（受講者のうち61%）では、講座に対する印象をARCSモデルに基づき測定し、講座で掲げた学習目標を達成できたかについても、入門編と応用編別に回答を求めました。

1) ID入門編・ID応用編についての印象

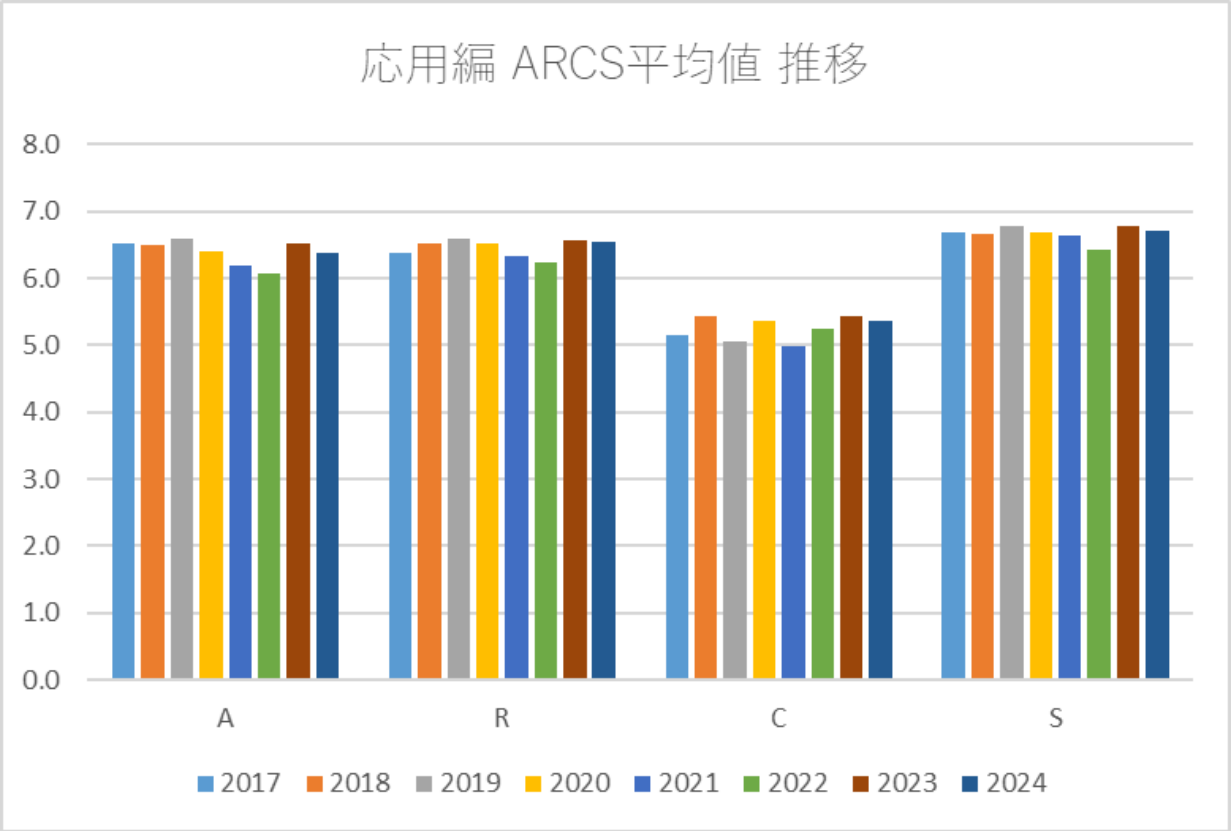
講座の印象について、ARCS別に7段階評価で測定し、全体回答の平均値が2017年度から2024年度までの間でどのように推移しているのか、調査しました。

その結果、入門編、応用編ともに、C以外の値が6以上を示し、Cに関しても、入門編では4.5以上、応用編では5以上の数値を示し、講座への評価が高いことが確認できました。

以下の図で、講座への印象に関する回答結果を年度ごとに提示しました。



図：講座（ID入門編）への印象に関するARCS平均値の推移（2017年度から2024年度）



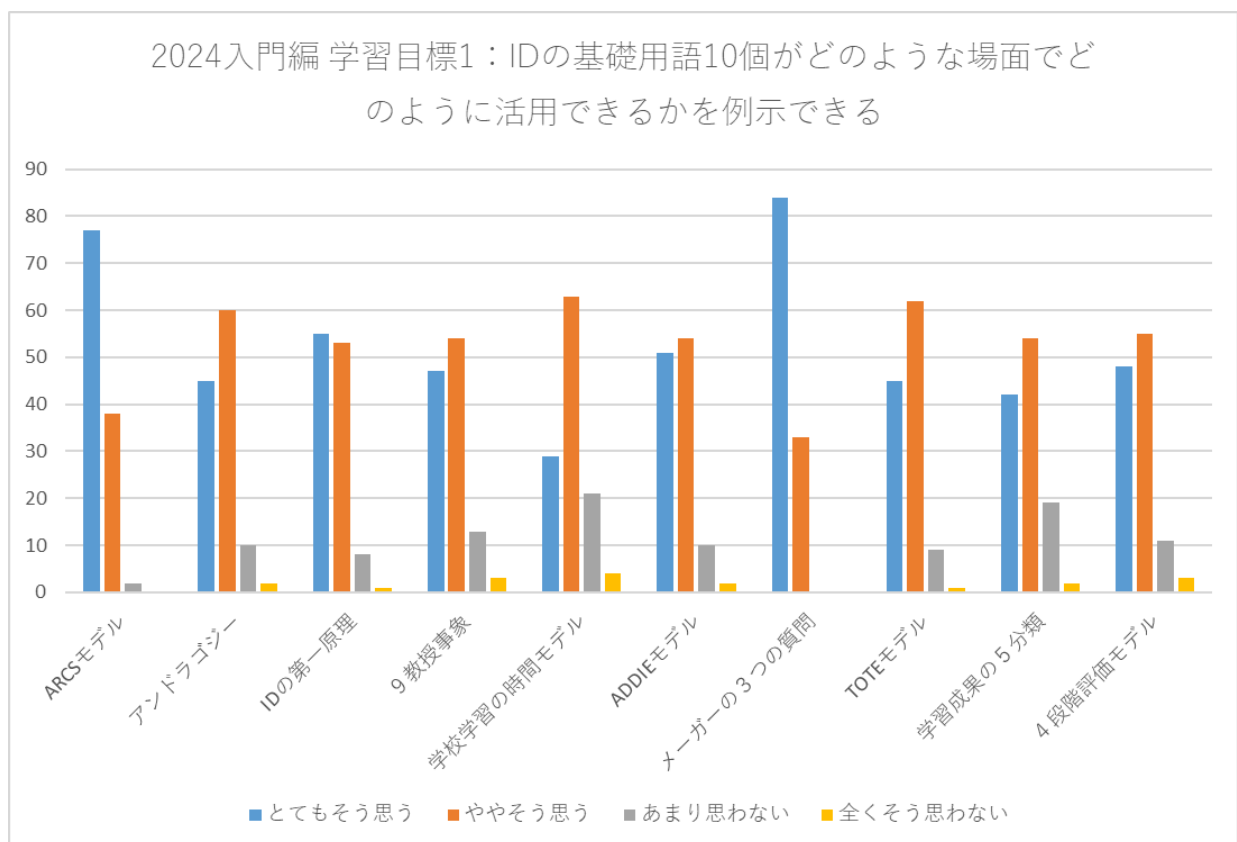
図：講座（ID応用編）への印象に関するARCS平均値の推移（2017年度から2024年度）

2) ID入門編・ID応用編での学習目標達成状況について

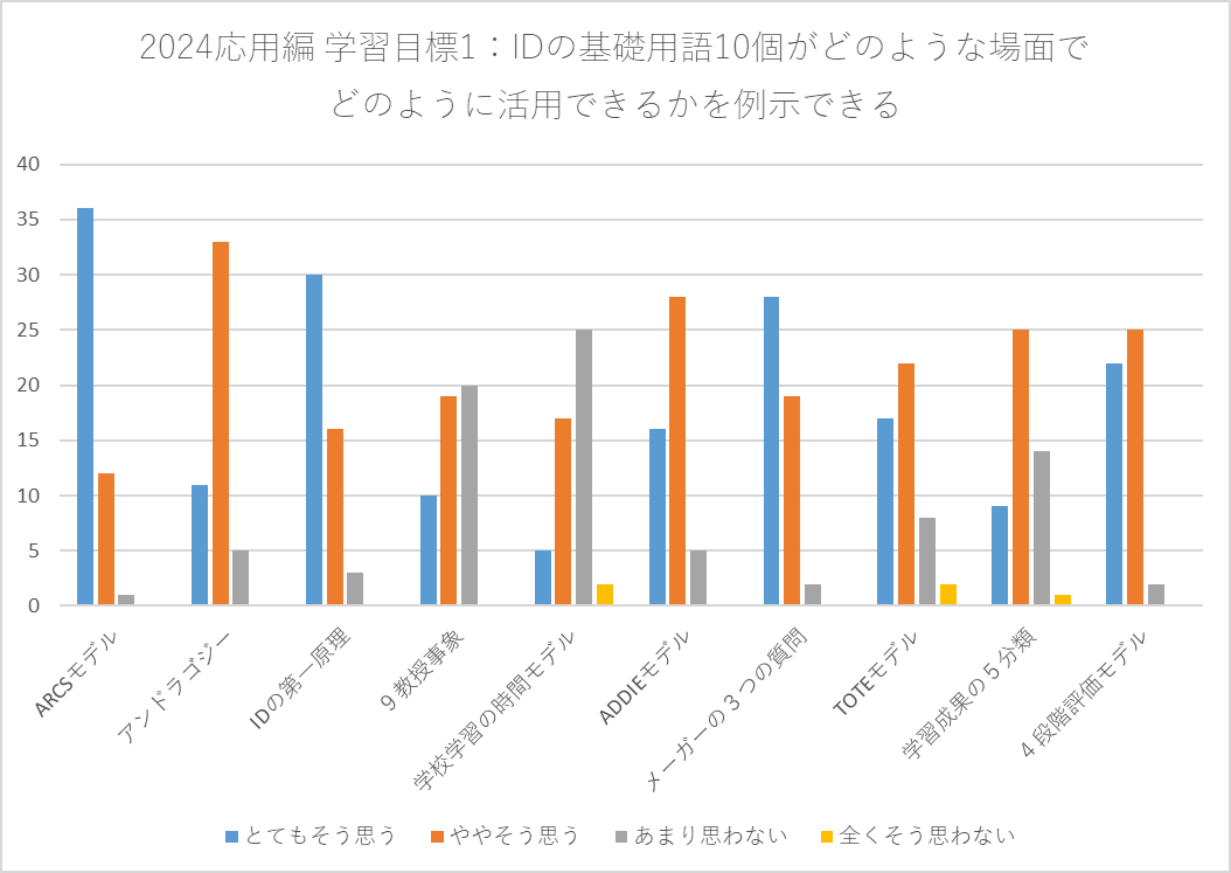
入門編で掲げた学習目標1の達成について、「とてもそう思う」、「ややそう思う」が90%に迫る高い値を示し、学習目標2（ARCSモデルの視点から、教育事例の課題点を指摘し、適切な改善方法を選ぶことができる）の達成についても、「とてもそう思う」、「ややそう思う」の回答が90%を超える高い値を示しました。

また、応用編で掲げた学習目標の達成については、「とてもそう思う」、「ややそう思う」が80%を超える高い値を示し、学習目標2（講座で学んだIDモデルを自分の教育事例の改善に応用していこうと思う（態度））の達成についても、「とてもそう思う」、「ややそう思う」の回答が95%を超える高い値を示しました。

入門編と応用編での学習目標達成に関し、「あまりそう思わない」、「全くそう思わない」が過半数を越えている項目は応用編における「学校学習の時間モデル」の1項目のみでした。以下に、入門編学習目標1の到達状況と、応用編学習目標1の到達状況に関する回答結果を提示しました。



図：ID入門編学習目標1の到達状況（2024年度）



図：ID応用編学習目標の到達状況（2024年度）

参加者の声（レベル1）

ID応用編へ参加された方からいただいたコメントの一部を、以下にご紹介します。

<プログラムの内容・運営方法・成果に関すること>

- それぞれが自分の課題に対して一貫して取り組めた
- 先生へ質問をする場を多数つくっていただけた
- 自分の事業が主体となるのでより「自分事」として取り組むことができました
- 他職種の方とペアになることによって他の仕事を知れるチャンスになると思います
- 鈴木先生の質疑応答、考え方をお話してくださったのが、本当に勉強になりました
- 参加者と悩みを共有し改善点などアドバイスを頂けた
- 入門編より、さらに詳しく学ぶことができました。
- 自分自身が担当する研修に関してじっくりと研究・分析・改善点の抽出と今後取り組んでいくべき課題を認識することができた
- 改善のアイデアを具体的に頂けた
- 事前課題にした研修内容をブラッシュアップできた
- 意見を肯定してもらえた
- 様々な職種の方の話を聞いた
- 沢山のひとと話せて、話す時間は十分あった
- 能力の高い方々が集まっていたので自身の今後のモチベーションアップに繋がった
- 皆さん、基礎編を終えられた方々なので、IDの用語についての理解度が高く、ディスカッションがスムーズに深まっていったので良かったです
- 介護をしながらの地方在住のため、本当は東京会場で受講したかったのですが、オンラインもご用意くださって助かりました。コロナ禍前は諦めてばかりだった講習が受けられるようになってありがたい限りです
- 入門編を受講していたことである程度IDを理解していたことから入門編と比べ充実したワークを実施できた
- 事前課題に対し受講生から様々な意見やアドバイスを頂けたため、改善することができた
- IDについての理解が深まり担当業務に活かすことができる
- リアルで話せるのは本当に貴重だと思いました
- 自分の研修の改善につながる話し合いができた
- 対面参加でしたので、他のグループの方やペアの方をご紹介いただいたり、懇親会などでもお話できたことが講座の内容を超えた収穫となりました
- 鈴木先生や戸田先生をはじめ、いつもお世話になっている徳永様やスタッフの皆様にお会いすることができ、研修運営を目のあたりにすることができた
- 違う業種のメンバーとの交流を通して、見識を深めることができた
- 皆さんが悩まれている点が自分とそんなにかけ離れていないと感じた
- 同じエネルギーでIDを学ぶ方々と交流し、名刺交換する機会が得られた
- 教える事について様々な人と直接話ができた。
- 自分が業務で行っている研修の位置づけが分かった
- 他の方のお悩みや取り組みを聞いた
- 全く違う場所で頑張っていた同じ研究領域の人が繋がった瞬間があった
- ワークの種類が多彩であった
- 集合研修の良さを実感（オンライン上でやりとりした他の受講者と対面で話ができるのは興味深い）

- 自分だけでは答えが出なかった改善案を得ることができた
- 研修設計のみならず、既に実践中の教育施策のチェックツールとして、IDの道具を使うという考え方に触れた
- 実践中の教育施策の具体改善案を検討できた
- 今後、継続してIDを学習していく為の具体方法論（書籍や科目履修などの紹介）を知れた

<ペアワーク・グループワークに関すること>

- ペアワークを2回行えた
- チームメンバーや、ペアの方たちがフィードバックをくださり、たくさんの気づきをいただきました
- ペアワークでゆっくり自分の課題について検討できたことが良かった
- グループワークの時間が多かった点
- ディスカッションやワークを通して多角的視点で研修を分析することができ、またグループワークではお互いの研修に関する悩みを具体的にアドバイスしあうなど有意義な時間を過ごせた
- ペアワークを同じ方ではなく、2名の方との組み合わせは良かったと思います
- グループでの進んだことで、整理しやすかったところは良かったと思います
- グループワークでは分野は違えど、同じようなお悩みを抱えている方のお話を聞けて、共感しあえた
- 最初に決めたペアとは違う方とも話し合えた
- 他業界の内容でもテーマがあれば議論できるという経験ができた
- ペアワークが2回とも同業種の方で、悩みや情報交換ができた
- ペアワークで他の方のアイデアを聞いた
- 入門編を経て、事前学習を経てきた方ばかりなので、私たちのグループワークではとても効率的かつ積極的な話し合いが行われた
- グループワークとペアワークの組み合わせが色々な視点から改善案を得ることができ、参考になった
- グループワークもペアワークも非常に有意義な時間を過ごせました
- ペアワークで事前に決めた方とワークできた
- オフラインでのディスカッションができた
- グループワークやペアワークの相手に恵まれました
- ジグソー法で研修することで、ホームグループのあたたかさ、ペアでの話し合いの刺激を実感することができた
- 多くの方から研修改善案のFBがもらえたこと。直接他の方もらえるのも良かったですし、相手に説明しながら自分が新たな改善案に気づくこともあったので口に出して説明するのは大事なと感じました
- 対面で参加できたので、より踏み込んだコミュニケーションが取れた
- 色々な活用場面に触れる事ができた

<課題の添削・教員による指導に関すること>

- 鈴木先生のコメントが納得でき、アドバイスについて今後使用してみたいと思いました
- 鈴木先生に多くの質問に答えて頂いた点（特に他のグループに対する質問の回答も多かったです）
- 鈴木先生の回答を聞くことができた。
- 先生がその場で質問に答えてくれるのはすごく良かった。目からうろこのコメントが多かった
- 自分のリアルケースに、沢山のフィードバックをいただけた

- 鈴木先生に直接対応いただけたことも大変ありがたかったです
- 鈴木先生の質疑応答の時間が長く確保されていた
- 事前課題に対して、鈴木先生からコメントをいただいた（肯定的なコメント＋助言でとてもうれしかったです）
- 鈴木先生への質問コーナーで、先生の回答は一種理想論とも感じる面もありましたが、研修や授業をやること自体が目的になっている現状に気付かせていただく契機にもなりました。すぐに改善できなくとも、理想の姿を意識し続けることで小さなところから改善していくことで、最終的には理想を実現できると思いますので、日頃から意識したいと思いました。そのために、自分がどんな学習を提供したいのか、どんな「行動」をしてほしいのかをあらためて整理したいと思いました
- 鈴木先生の明確なご意見で、今後の方向が定まった
- 講師の先生が皆さんの質問に対して、全て教育の方法として、何かしら糸口（方法論）があるというのが分かった
- 鈴木先生や小池先生への質問に対する回答や共感が得られた
- 鈴木先生に直接質問できた。ズバっと回答してくださったので、研修設計全般のモヤモヤがすっきりしました

6 ヶ月後追跡アンケートの結果（レベル3）

＜講座前と講座後（現在）の状況について＞

インストラクショナルデザイン公開講座 応用編（2023年度）の6ヶ月後追跡調査アンケート（2024年8月実施：デジタルバッジ取得者 50名のうち37名（バッジ取得者のうち74%）では、「講座で学んだことをどの程度、自分の言葉で書き出せるか／書き出せていたか」、「講座で学んだことをどの程度、業務で使おうと思っているか／思っていたか」、「講座で学んだことをどの程度、応用できるか／応用できていたか」、「講座で学んだことをどの程度、実際の業務で活用できているか／活用できていたか」、各設問の講座前と講座後（現在）の状況について、7段階で回答を得ました。その結果、「講座前」が「講座後（現在）」の数値を超える項目はなく、特に、「講座で学んだことをどの程度、業務で使おうと思っているか／思っていたか」については「講座後（現在）」の数値が6.2と高い数値を示しました。他の設問についても、「講座後（現在）」の数値が4.8以上であり、それを下回る項目はありませんでした。

＜職場での行動へ移すための準備状況について＞

「講座終了の時点で、学んだことをしっかり業務に活かしていこうという気持ちが、他の業務に対する気持ちに比べて強かったか」、「講座終了の時点で、何をゴールとして学びを仕事に活かしていくか、具体的な目標を設定していたか」、「講座終了の時点で、他の業務で忙しくても、学んだことを仕事に活かすために努力する覚悟があったか」、「講座終了の時点で、職場に戻ってからやるべきことを具体的に記載した行動計画を作成することができていたか」、「講座が終わったあと職場で、学んだことを仕事へ活かすために、自分の気持ちをコントロールすることができていたか」、「講座が終わったあと職場で、たとえモチベーションが下がっても、講座で学んだことを仕事で活かせるよう努力を重ねることができていたか」、「講座が終わったあと職場で、ほかの目標の影響を受けず、講座で学んだことを仕事へ活かそうとし続けることができていたか」、講座後の行動へ移すための準備状況について回答を得ました。その結果、全ての設問で「そう思う」と「ややそう思う」が「あまりそう思わない」、「全くそう思わない」を超え、特に、「講座終了の時点で、学んだことをしっかり業務に活かしていこうという気持ちが、他の業務に対する気持ちに比べて強かった」について、「そう思う」と「ややそう思う」と回答した受講者が86%を占めました。また、「講座終了の時点で、何をゴールとして学びを仕事に活かしていくか、具体的な目標を設定していた」について、肯定的な回答を行った受講者が92%を占めました。

＜講座後の実践状況について＞

「講座で学んだ内容を復習する機会があったか」、「講座での学びを職場で実際に活用する機会があったか」、「職場の上長は講座での学びを職務で実際に活用することを奨励していたか」、「職場の同僚は講座での学びを職務で実際に活用することを奨励していたか」、講座後の実践状況と周囲からの評価について回答を得ました。その結果、ほとんどの設問で「そう思う」と「ややそう思う」が「あまりそう思わない」、「全くそう思わない」を超え、特に、「講座での学びを職場で実際に活用する機会があった」においては、「とてもそう思う」と「ややそう思う」と回答した受講者が95%を占めました。一方、「講座での学びを職場で報告する機会があった」や、「講座での学びの活用状況を職場で定期的に確認する機会があった」については、「あまりそう思わない」、「全くそう思わない」が「そう思う」と「ややそう思う」を超える結果となりました。組織レベルよりも、個人レベルで改善に取り組む受講者が多いことを確認し、今後も引き続き講座の充実と受講者のニーズに合わせた改善を行っていきます。以下、6ヶ月追跡調査によって報告された教育改善への取組状況、そ

して、具体的にどのような取り組みをされて、どのような成果を収めたのか、その一部を紹介します。

<講座で学んだことをどのように業務で活用できているか>

- 業務（専門学校での授業）を行う上で、講座で学んだIDの知識を生かしたいと思っはいるが、実際の業務で生かし切れているとは言えないのが現状である。ただし、明らかに講座前と講座後では、授業についての考え方が違っていると思っているし、実際に影響している。
- 講座をする機会が減ってしまう環境になったため、あまり生かせる環境になくなってしまった。ただ、必要時はARCSモデル等を思い出しながら計画を立てたり、講座の内容を振り返るようにしている。
- 私は社内の人材育成コースの企画・運営を担当しており、教育そのものを直接行う機会はないものの、コース設計や講師との連携において、学んだ内容を少しずつ実務に取り入れています。具体的には、育成コースの改善や受講生・上司の方への関わり方の改善を試み、少しずつ効果を感じ始めています。
- 講座受講前もカリキュラムに沿って学び多い研修にしようと研修内容を検討・立案していたが、講座受講後はARCSモデルなどの理論に基づいて研修内容を検討・立案するようになった。また、研修企画メンバー内に本講座を一緒に受講した者がおり、企画会議の際にIDの考え方が共通言語となり、自分の中にIDが浸透する環境となっている。そうした点からも本講義で学んだことが、しっかり実際の業務で活用できていると感じる。
- 受講前はARCSのみの活用であったが、受講後はARCS以外も活用できるようになり、授業分析の幅が広がったと考える。今回は私だけでなく、カリキュラムマップを一緒に講義を行う教員と共有し、学生とも共有するツールとして使うことができた。以前より、入口と出口を学生と共有できたことで、学生の科目に取り組むモチベーションが向上したと考える。
- 現在は経理財務の担当であり、数年後人事担当の予定なので、それまでに情報収集や共有及び更なる磨きをかけていきたい。
- 応用編で提示した研修構造について、また、その時設定した目標について、すべてではないが取り組んでいる。
- 応用編を受講したことで、より以下の項目を意識して研修を実施し、受講者アンケートやご担当者様からの高評価を得たため、活用できていると判断いたします。受講者との双方向コミュニケーションを増やし、各受講者に実務の現場で起きている問題をアウトプットする時間を設けて、研修開始時に動機づけを行っている。なぜアウトプットの時間を多く設けるのか、受講者の同期・非同期でできることの違いを明確に伝え、当事者意識を持たせる働きかけをしている。研修終了時には、研修単体ではなく実務の延長線上にあることを意識していただけるよう、保持と転移の時間を設け、満足感と自信を高める時間を設けたり、具体的な行動に移す行動プラスその障壁になりそうなことまでを考える時間を設けて実施している。
- 病院看護部の教育委員として研修を企画運営しています。根拠に基づく医療や看護の追求は医療看護業界の常識ですが、根拠に基づく教育はほとんど追求されておらず、KKDに頼った研修運営を繰り返してきました。今回IDを知り、根拠に基づき教育研修を行う術を知る事ができ、大変嬉しく思っております。他の教育委員にもIDの有用性を知らせ、どの研修もIDに基づき教育や研修が実施される事を目指し活動しています。
- 良い研修のイメージが固まった。
- 研修への期待（動画学習ならこの程度を求めるなど）、受講者の状態把握など、研修に関する指標が自分の中でできた。
- 具体的な研修に関わる業務（研修の企画、作成、実施、振り返り）に活かせた。

- 自分自身の担当業務で活用しているだけでなく、教職員研修でも少しずつ、しかし、継続的にIDを取り入れています。今回、学校の基幹システムの入れ替えを機会として、成績評価基準の見直しの議論も進めているのですが、その中でも議論の中で教職員に修得主義的な考え方が浸透していると実感できるなど、講座で学んだIDの基本が職場にも少しずつ浸透してきているという手ごたえがあります。
- 社内の日本語教育において、学んだ理論を使ってコース開発を行っています。ADDIEモデル、メーガーの3つの質問を使ってニーズ、学習目標、評価方法の検討し、コースのコースストラクチャーを考えました。また、開発メンバーに教授方略を考えてもらう際にはARCSモデルの考え方をを使って、一緒に考える練習をしてから取り組み始めました。
- 教育を行うとき、学生が変化することを意識するようになった。そのために、教えるのではなく、自律的に学び、学生自らが学んだことを説明できるようにすることを考えて教育を行うようになった。
- 各企業ごとに異なる状況において、学習を定着させ成果へ結びつけるために必要な道筋を各理論を用いて提案している。OJTやHR部門が行ってほしいフォローやチェックについても打合せ時に協議しているが、特に3つの質問やARCSは、「やっています」のパフォーマンスにならない研修にするため相手の動機づけを行うためうえでも活用度が高い。
- ID第一原理、9教授事象を意識している。もともと当社の考え方がこれらのモデル+NLPなどを取り入れて成り立っているように思うため、自社に即したアレンジを行いつつ活用している。
- 最近では講師のレクチャーやインストラクション全体に対して、アンドラゴジーの視点を基にフィードバックすることが多い。
- 研修終了時たてた行動計画に概ね沿って、行動出来ている（ID学を使用した新研修教材の作成）。
- チーム内でIDの勉強会を開催し、研修未受講者に対し、IDを取り入れる目的・ゴールの共有、入り口であるが知識の基礎を共有できている。
- 研修をこれまでの知識インプット型から、考え行動できる行動変容型の内容に変えることができた。
- ID学を取り入れた研修内容を上司に理解してもらえることが出来た。
- 部署で管轄している研修の企画を担当しているが、全てにおいてIDの道具を活用している。医療現場であるため研修は実践につながる内容が求められる。研修企画で悩んだ際は、講座で使用した資料や、紹介された書籍にもどりながら企画書を作成している。カークパトリックの4段階評価では今までレベル2までにとどまっていたが、継続評価をするために部署の上長評価が得られるようにアナウンスも取り入れるようにした。
- 1つ目は講座を受講した時期に次年度研修の教案作成中であり、講座内容や推薦書を参考に教案を作成したこと。また同僚1名も同講座を受講したこと、昨秋の人事異動でチームに加わった別の同僚も民間のID講座を受講済みで、助言を受けながら教案を作成した。2つ目は、IDに基づき部門の研修や教育を組み立てる方針を持ったため、チーム内で定期的にID勉強会を実施していることも、常にIDを活用する機会となっている。
- 想定していた科目の変更は取り組めておりませんが現在担当している科目において、行動計画に沿って授業の組み立てを行えている。
- 実際に再度研修を実施する業務があり、それに向けて、目標設定やARCSモデルを活用し、これまでの研修を設計しなおす際に、活用できている。
- 大学の授業設計に携わっており、特に課題においては学んだ考え方を使いながら設計している。
- 講座を通して自身の授業の問題点と改善案が明確になり、すべてではないが、改善に向けて実際に行動することができたため。また、この改善についてIMMSを用いて効果を測定

し、結果はまだまとめきれしていないが、ある程度効果が確認できた。ただし、コース全体の改善についてはチームの教員との協働が必要であり、そこにはまだ至っていない。

- 高校日本史の授業において学校学習の時間モデルを活用し、講義や教材の工夫をして学習者が理解したり問いについて考える活動時間を増やすことができた。その上で、ARCSモデルを活用することで学習者の興味関心を喚起しやすくすることを散りばめ、学習者の学習によって目標を達成することが授業のゴールとなるように授業を設計できている。結果、講義であっても学習者の活動を入れるなど、学習者の活動主体の授業に大きく転換できた。
- 現在、健康リテラシー向上のための教育を企画し、実行している。企画にあたり、従業員が興味を持って取り組めるよう、ARCSの要素を使い、下記のことを実施した。
 - ・タイトルを「健康リテラシー講座」から「今の自分は健康ですか？」にすることで関心をひく
 - ・資料内に実際の社員や事例を入れることで自身との関連性を感じてもらう。
 - ・クイズ形式にして自身の生活と照らし合わせる工夫をすることで、自分ごととして感じてもらう。
 - ・目標を最初に提示し、その達成度合いを聞くことで満足感を感じてもらう。
- 講師に指示する立場にないため、自分でコントロールできる部分が少ない。事前にお客様に送るアンケートなどの内容を変更する事は可能だったのでその部分は、変更してみたが、目に見える変化は特に今のところはない。来年の計画を立てる時期に来ているので学んだ事を利用できないかと考えている。
- 現在、来年度に向けたカリキュラムを構成しています。講座で学んだインタラクショナルデザインを組み込んだカリキュラムを実施予定です。
- 応用編で計画した授業は、他教員が講師役、自分がオンデマンド化する役割であり、次年度実施予定でまだ未着手である。一方、「研究」としては取り組みだしており、公開講座応用編で計画した内容の教材開発を実施し、その結果に基づいて論文を執筆中である。学習成果の5分類の要素を加え設計したが、その他のIDモデルの要素や他の受講生からのアドバイスは十分に反映できていない。まだ執筆中のため、改めて反映したい。
- 事後課題で考えた、「継続したいこと」「変更したいこと」を踏まえて考えた、今後の行動計画が、現時点で7割程度は実際の業務に活用できた。
- 研修や学習会を企画する時に、学習効果を上げるための筋が通ったアウトラインを作ることができるようになった。それをもとに、チーム内で共通言語を用いて肉付けをしている。
- 1コマの講義を設計するにあたり、単元の目標を達成するためにはどのような工夫をこらしたら良いのか明確にして授業案を設計した。また、学生の知識を統一する目的で事前課題を提示し、それを基に講義を進めた。このIDを学ばせていただき、設計の骨組みがきちんとできるようになり、授業設計がスムーズになった。
- 研修課題で取り組んだ内容を忠実に再現して実際の現場で取り組んでいることはないが、研修が修了したのちに、振り返ることを現場でアクションすること）は、実施できるようになった。

<講座での学びを職場で実際に活用していくうえで有効だったこと>

- 会社のトップに対し、研修内容について報告する機会があると、職場への展開もスムーズになるようです。自分、一人でどうする、というのはどの企業でも難しいものがありますが、いかに味方を増やしていくかが、今後の展開へのカギになりのではないかと実感しました。
- 看護研究に取り入れて、学習効果を統計で明確にする。

- 今回に限らず、組織で働くと思決定者（上長、プレジデント）や社会情勢により、自分の想定外の仕事や役割が回ってくることもあるので、計画したことを厳密に実行するというよりは、その学びをさまざまなことに応用展開しようといつも考えます。学習後にすぐに実践できる時もあれば、数年後に突然機会がやってくる場合もあるので、学習したことを整理して残すようにしています。
- 講座受講前に、熊本大学大学院在学中の別の部門の社員からIDに関する話を聴く機会があり、とても興味を喚起され有効であった。昔から教育や講座の教案を作成・実施した経験があり、理論を知らずとも有効な策を自然と取り入れられていたことを思い出したが、きっとそれは受講者の立場で良い教育や研修に出会っていたことが影響していたのではないかなと思う。過去を反芻する機会としても有効であった。今でも、社内外の講座やeLを受講する際、IDの視点で作り手の意図を探ったりすることも有効と思えるし、作成者として参考にしている。IDを知る仲間が同じチームに居ることは非常に大きい要素である。
- 講座の個人的な復習 特に仲間同士のFeed Backコメント、鈴木先生からのレポートへのコメント内容。参考資料の読み返し。
- 私は対面形式の講座を受講しましたので、その際に、他の方と課題を共有しながらのペアワークやグループワークで、他の人の意見を聞く、他の人の課題に対して意見という活動が、非常に役に立ちました。それをするためにIDの理論を見返しながら、理論を応用していくことで、急に出てきた課題に対してどのようにIDを活用するべきかを体験できました。そのことが実際の職場での活用につながったと思っています。また、先生方に質問しそれに答えていただいた内容は、どのようにIDを現場で使うかについて多くの示唆に富んでおり、非常に勉強になりました。コースを考える上での拠り所を得ることができ、非常に心強く、困った時に見返して活用しております。
- 講座自体がIDに基づき運営されており、その事が明示されていた。
- 鈴木先生から直接学べたことがとても強い自信になりました。特に、株式会社パーソル総合研究所で主催されているブレンディッドラーニングを受講した中で学んだ知識について、鈴木先生に質問できたことは大変勉強になりました。他にも、鈴木先生が他受講者の事前課題にコメントされた内容を、すべて閲覧できたことは満足感が高い内容でした。上記土産の多い研修であり、これにより実施後も活用していくモチベーションが高い状態で維持できています。
- 同職場ではないが、同じ講座を受けた仕事仲間が居いた。一人ではなく、彼と共に同じ研修の企画・運営に関わっているため、一人で意識し続けることに注力しなくとも、企画会議等で話し合いを進める中、講座で学んだことを互いに話すこと、活かそうとすることがあった。その状況は、大変有効であったと振り返っている。今後、このような講座や研修を受ける際、一人ではなく、仲間がいることは、大変重要なことだと思っている。
- 弊社メルマガ登録者に対して、インストラクショナルデザインに関する情報を提供⇒研修会社なので、自分が実行することと情報が一致していることで、自社の能力開示につながっている（信用力）。
- テーマとしていた業務（授業）について、他の業務（授業）の担当が多く、なかなか力を入れて実施できなかった。ただし、他の授業において、講座で学んだことを応用できたことがあったと思う。
- 受講後、すぐに計画を立てて実践に移るための行動を起した。正直に言えば、応用編を受講した直後が非常にモチベーションが高かった。時間が経つと学びを忘れてしまうのではないかなと思い、帰りの電車の中で行動計画を立て、翌日から生徒への説明の仕方や導入方法、授業の具体的な方法についてできるだけスムーズに活用できるよう思考する時間をとった。
- 資料が手元にあったため、それを振り返りながら業務に生かしていた。また、講師への質問についてもメモを残していたが、それがトラブル解消の糸口になることもあった。振り

返りの機会が少ないため、上記のような記録として残るものがあると業務に活かしやすいと感じた。

- アンケートの回答でも触れていますが、成績評価基準の見直しを議論する機会を設けることができたことはIDの考え方を伝える上で有効だと感じました。評価基準は定められたもので動かないという考えが教職員の中にもありましたが、変更可能性も含めて議論することで自分たちの授業、非常勤の先生方の授業でどのように学習目標を立て、評価をするかを考える機会となったのではないかと思います。学習目標という入口よりも試験や評価といった出口の方が同僚にとっては具体的に議論しやすかったのかもしれない。評価基準の見直しはめったにない機会だとは思いますが、共有のために記載させていただきました。
- 子育てで活用しました。子どもが（小学生）苦手な教科を克服するために、自分が目指したいもの（ゴール）を聞いてその目指すもの（ゴール）に達するためには、どのような努力が必要なのか考えさせ、書かせてみました。ゴールから矢印を数本下へ伸ばし、そこに中間の目標を書く、中間目標からさらに矢印を下へ数本伸ばし、毎日行う行動目標を書かせてみました。本人もとても分かりやすい！と好評でしたら、継続しないためでは、モチベーションを維持しながら、自分が立案した目標を達成するためにはどうしたら良いのかフィードバックをして、修正して、現在進行中です。
- 研修を企画・運営する部門に所属しているが、研修に限らず社内の様々な業務を遂行するなかでIDの道具は使えると感じることが多かった。例えばゴールから逆算してギャップを埋めるためには何をしないといけないか考えるなど、IDの考え方は各部署の様々な業務に活かせると思った。また、今まで社内研修は開催したら終わりというケースが多かったが、期間を空けてその後の行動や状況を追跡調査したり、上長へ研修参加者の立てた行動目標を共有し支援してもらえるよう要請したりと、研修の先まで考えた設計ができるようになってきた。このことはやりっぱなしの研修をなくしていくというのに有効に働いているのではないかと思います。
- 社会科授業で中学校から高校まで教えねばならず、IDのノウハウは生徒にレポート能力をどう育めるかという手立てとして再活用しようとしていたと思います。生徒のコンタクトを切らないようにして、興味関心の階段からレポートを完成までに段取りを助けました。成果はクラスによって授業回数にばらつきがあり、うまくいったクラスでは三十四人中三十人がレポートを仕上げられました。また、私は高一の学年をとくに大切に育てていて、彼らに夏課題としてストレッチな質問を与えました。同時にIDの原理より、手本を示し何がゴールかを明らかにした上で、どうテーマに行き着けるかの段取りも与えました。すると、16歳の生徒なのに、手本をなぞったりしてレポートを書いてきました。明治日本に自由貿易と保護貿易のどちらが政策として良いかをきく難しいテーマだったのに、よく頑張れたと思いました。
- 事後課題で「3つの収穫」を考えたおかげで、職場へ講座で学んだことをフィードバックをする際に、簡潔に学んだことを説明できた。
- 職場での活用は正直上手くいっていない現状がある。ただし、都道府県単位で実施する研修の企画立案に携わる機会があり、その企画メンバーには本講座を受講した人間がおり、企画会議において自然とIDの視点を持ち込んでの議論が行われる機会が自然と発生している。お互いにIDを意識しているため、企画会議中に自分一人で頑張る必要がない環境が生まれている。一方で、職場内には自分一人しかIDを受講した人間がおらず、上手く活用していくことができていない。今後、職場内で上手く活用していくためには、他の職員にもIDの講座を受講してもらう必要性を感じた。
- 私は、さらに本格的に学びたいと思いました。公開講座では、オンラインでの意見交換や越境学習を通じて、異なるバックグラウンドを持つ方々と交流し、職場では得られない新たな視点を学びました。この経験は、特に社内プロジェクトで多様な視点を取り入れ

る際に非常に有効でした。また、質問がしやすい環境にあったため、自分の業務に直結する課題を解決するヒントも得ることができました。さらに、受講時にセミナー講師として実践する機会があったことで、学んだことをすぐに試すことができ、職場での教育に関する改善に直接活かすことができました。

共同利用拠点事業② IDポータル

本大学ではインストラクショナル・デザインに関するイベントや文献等の
情報を収集するためのサイト「IDポータル」を運営しています。

本年度の取り組みの概要

本センターでは、IDに関する情報収集のためのウェブサイト「IDポータル」を運用しています。IDポータルでは、IDと関連する学会やワークショップ等のイベント、IDに基づいた教育実践をまとめた論文情報、教育実践のお悩みをIDに基づいて解決するQandA等を提供しています。

過年度のGoogleアナリティクス導入によって、IDポータルに愛着を持ちうる関係者に対し、IDポータル外部でもしっかりと情報を提供するタッチポイントを構築していくことの重要性が導かれました。その対策として、2023年1月より拠点担当の有志によって運営されていたFacebookページを公式のSNSとして位置づけ、2024年度運用を開始しています。本年度も引き続き、その運用を進めています。

「IDについて学びたい・知りたいという人にとって入口（ドア）となるウェブサイト」「IDの情報に関しての接続点」であるプラットフォームとして、より多くの方に本サイトを利用していただけるよう、次年度以降も拡張を進めたいと思います。

The screenshot shows the ID Portal website. The header has a navigation bar with links: ホーム, イベント, ID関連文献等一覧, IDマガジン, お悩み解決Q&A, 実力チェック, 作業支援ツール, and 本サイトについて. Below the header is a large yellow banner with the text "IDポータルへようこそ!". The main content area is titled "直近イベント情報" and lists several events with dates and links. The right sidebar has a "リンク" section with links to "鈴木克明教授 Webサイト", "都竹茂樹教授Webページ", "Yoshi Lab", and "教授システム学専攻同窓会". At the bottom right, there is a "おすすめ情報" section.

直近イベント情報

- 2024年6月8日 (土)
- 2024年8月24日 (土)
- 2024年10月12日 (土)
- 2024年12月21日 (土)
- 2025年2月22日 (土)
- [2024年度 まなばナイト](#)
- 2025年1月7日 (火)～2025年3月3日 (月)
- [デジタルラーニング・コンソーシアム eLP「コンテンツ開発技法」コース開講](#)
- 2025年2月3日 (月)～2025年3月31日 (月)
- [デジタルラーニング・コンソーシアム eLPベーシック・eラーニングコース「63期」開講](#)
- 2025年2月15日 (土)～2025年2月16日 (日)
- [情報処理学会 コンピュータと教育研究会 178回研究発表会@東京女子体育大学](#)
- 2025年2月16日 (日)
- [日本教育メディア学会 2024年度 第2回研究会「学習者主体の学びとメディア活用／一般」@京都教育大学](#)
- 2025年3月1日 (土)～2025年3月2日 (日)
- [情報処理学会 コンピュータと教育研究会 179回研究発表会@大阪工業大学](#)
- 2025年3月6日 (木)～2025年3月7日 (金)

リンク

- [鈴木克明教授 Webサイト](#)
IDに関する著書や経歴、直近のスケジュールを掲載しています。
- [都竹茂樹教授Webページ](#)
経歴や連絡先などの情報があります。
- [Yoshi Lab](#)
合田美子准教授の経歴や最新情報があります。
- [教授システム学専攻同窓会](#)

おすすめ情報

教授システム学専攻の公開科目でIDの基礎を学習できます。おすすめ科目は以下で

図：IDポータルウェブサイト：トップ画面

コンテンツ一覧

IDポータルは、教授システム学専攻の同窓生をはじめ、多くの関係者にご協力いただきながら、以下のコンテンツを提供しています。

コンテンツ カテゴリ名	内容
イベント	IDに基づいた研究・実践が発表される学会・研究会（日本教育工学会、教授システム情報学会、ICoME等）や、IDについて学習できるワークショップ（熊本大学公開講座等）について、随時、配信しています。
ID関連文献等	IDに基づいた研究・実践についてまとめた論文や学会報告を随時、掲載しています。
IDマガジン	IDと関連するブックレビューや熊本大学教授システム学専攻主催の「まなばナイト」等のイベントのレポートを事前登録者に対して配信、サイトへ掲載しています。尚、IDマガジンは、熊本大学教授システム学専攻の同窓生有志で構成される「IDマガジン編集委員会」によって長年、企画・運用されています。
お悩み解QandA	eラーニング・授業・研修をデザインする際に出てくるありがちなお悩みをレイヤーモデル（eラーニング、授業、研修等の質を5つの段階に分けて整理したもの）の5つのレベルごとに分類しています。 「学習目標の種類によって、どんな学び方、教え方をすれば効率的か」や「知識やスキルではなく、望ましい態度を教えたい」等について、IDの観点からの解決策や関連するリソースを提供しています。
実力チェック	教授システム学専攻必修科目「インストラクショナル・デザインI」を題材に、架空の教材企画書が提示され、学習目標や事前/事後テストの内容、前提条件等の各項目の適a切性を評価する活動を通じて、授業設計に関する知識・スキルを身につけているか判断できます。
作業支援ツール	教授システム学研究センター／教授システム学の鈴木克明教授が執筆し、多くの人に利用されている以下の4つの書籍で紹介されている授業設計のための作業を支援するための機能・資料が提供されています。 1. 教材設計マニュアル 2. 授業設計マニュアル 3. 研修設計マニュアル 4. 学習設計マニュアル

次の表「IDマガジンの発行数、イベント掲載、業績登録数」は、本年および過去のIDマガジン発行数、ID関連のイベントの掲載数、ID関連の業績の登録数を一覧にまとめたものです。大きな変化はありませんが、コンスタントにそれぞれのコンテンツが登録されています。こうした地道で丁寧な情報発信を継続して続けていくこととしています。

表：IDマガジンの発行数、イベント掲載、業績登録数

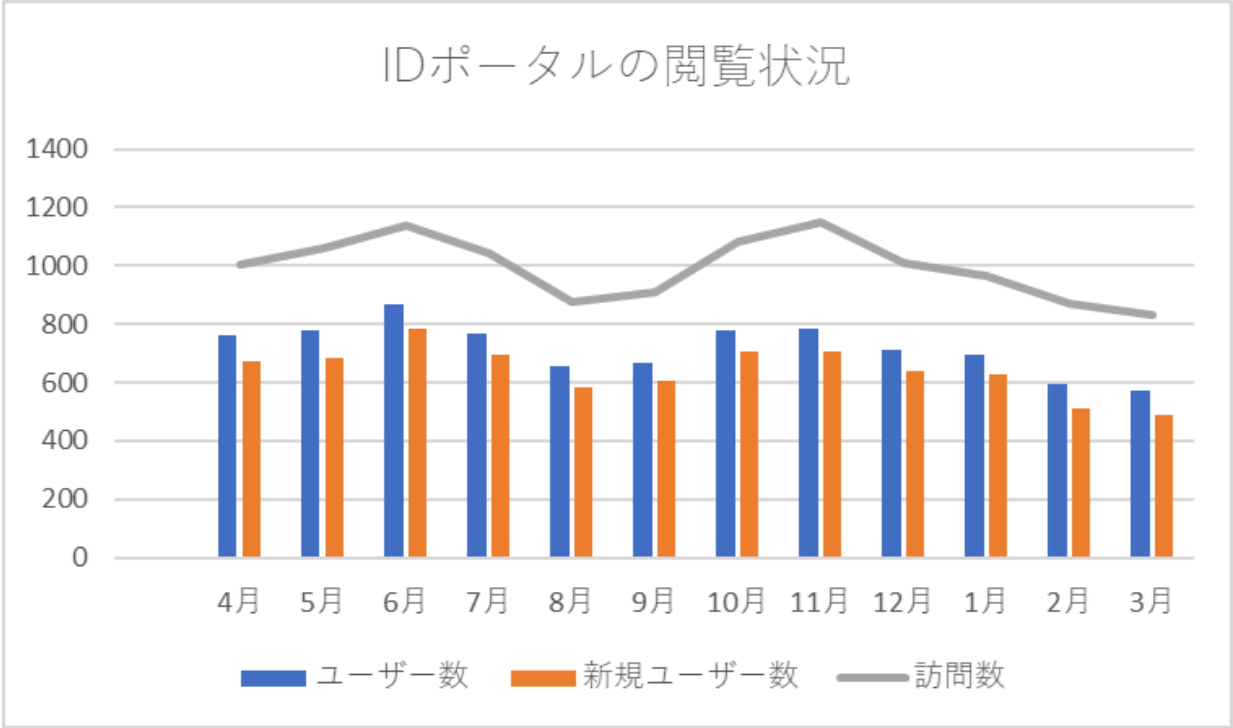
No	項目	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
1	IDマガジンの発行数	9	13	13	13	12
2	イベントの掲載数	49	45	48	54	39
3	登録された業績の件数	114	61	68	66	70

サイトおよび各コンテンツへのアクセス数

以下に示すように、IDポータルは日々、多くの方にアクセス・利用されています。

表：月毎のサイトへのアクセス数

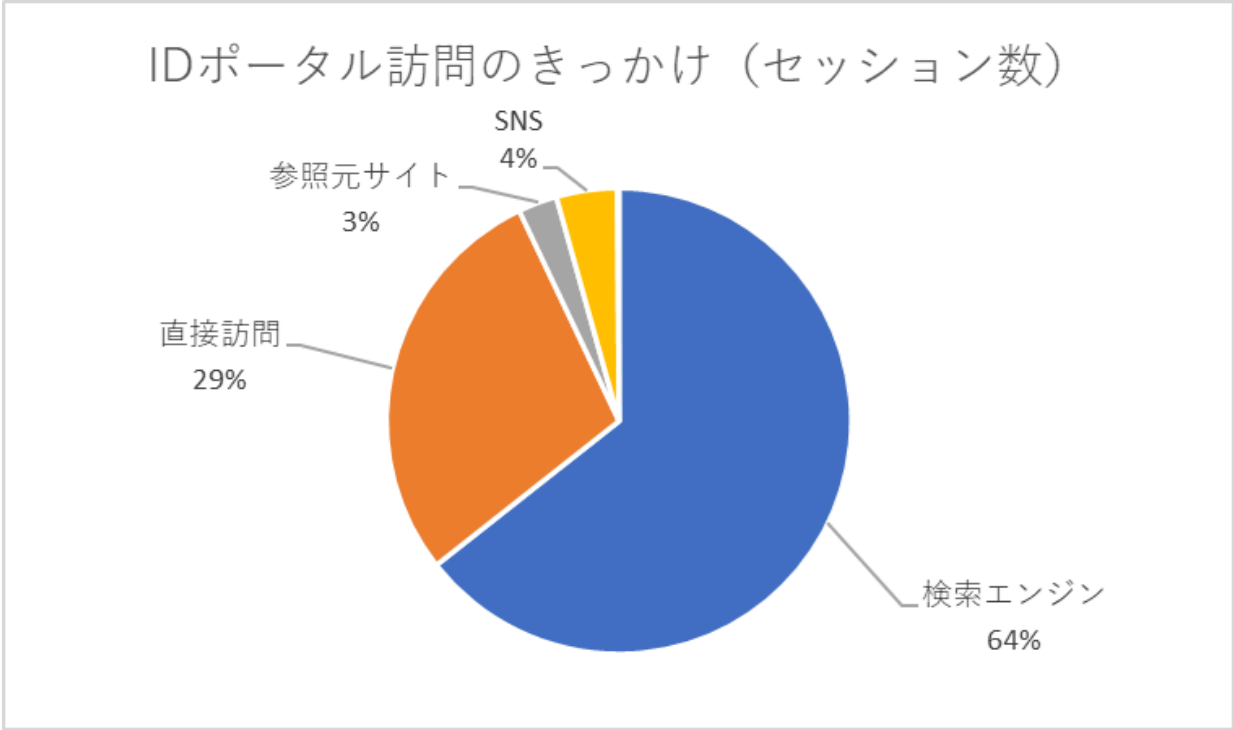
月（2024年）	ユーザー数	新規 ユーザー数	訪問数
4月	761	671	1007
5月	776	686	1058
6月	869	786	1137
7月	768	693	1045
8月	654	581	876
9月	666	604	911
10月	781	706	1082
11月	786	707	1152
12月	713	639	1001
1月（2025年）	695	628	965
2月	597	510	868
3月	574	490	829



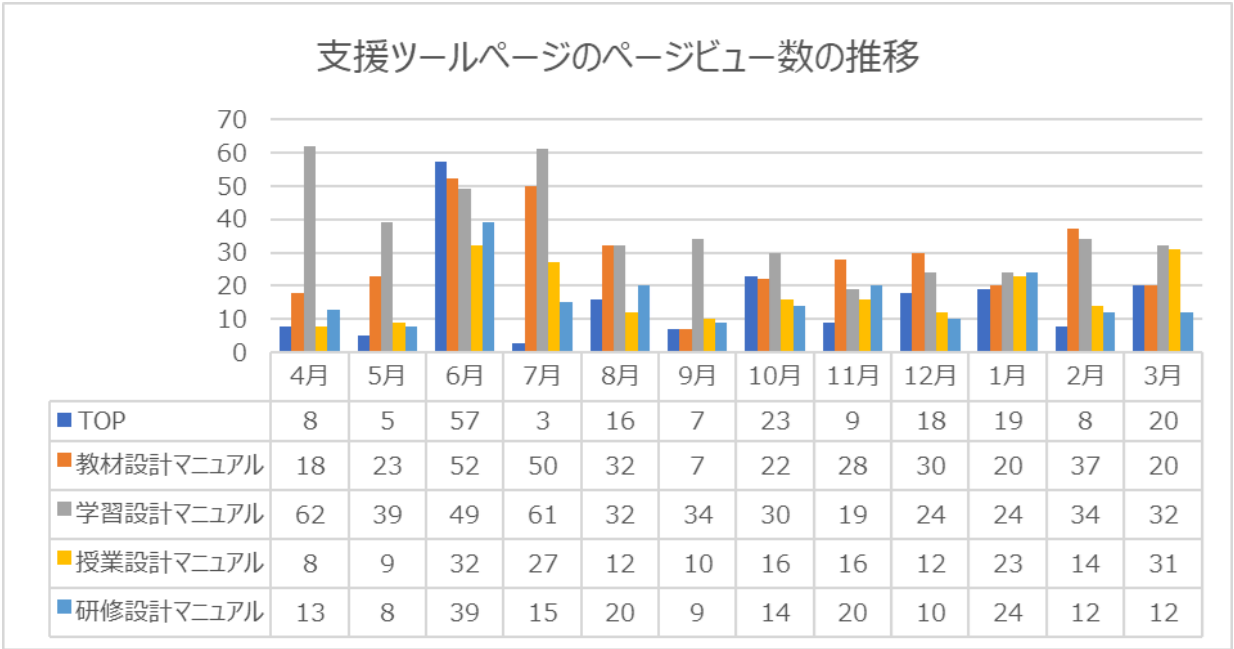
図：IDポータルのユーザー数と訪問数

表：IDポータルの訪問のきっかけ（参照元）（2024年4月-2025年3月）

	ユーザー	新規ユーザー	セッション
検索エンジン	5,097	5,041	7,630
直接訪問	2,260	2,158	3,423
参照元サイト	215	207	487
SNS	336	287	431
その他	8	8	95
合計	7,916	7,701	12,066



図：IDポータルの訪問のきっかけ（参照元）（2024年4月-2025年3月）



図：大学教員支援ツール（各作業支援ツール）のページビュー数（2024年4月～2025年3月）

SNSの活用

2023年1月から拠点担当の有志によって運営されていたFacebookページを、公式のSNSとして位置づけ、2024年度より運用を開始し、本年度も当該ページの運用を継続的に進めています。

IDポータルに係る投稿は以下の通りです。IDマガジンを見落としたユーザに対するタッチポイントとして機能し、また、IDマガジンを登録しているユーザ以外にも新たな利用者となってもらうべく、IDポータルの内容をお知らせし、「知ってもらう」窓口となるように運用しています。

表：FacebookページにおけるIDポータル関連の投稿

投稿日時	内容
2024年4月12日	<Vol.0131> IDマガジン 第131号、発行しました！
2024年5月7日	IDポータルでインストラクショナルデザインの情報収集をしよう！
2024年5月30日	<Vol.0133> IDマガジン 第133号、発行しました！
2024年6月4日	IDポータルの「作業支援ツール」を活用してみよう！
2024年7月5日	IDポータルの「IDマガジン」を活用してみよう！
2024年8月5日	<Vol.0136> IDマガジン 第136号、発行しました！
2024年8月19日	IDポータルの「IDお悩み解決Q&Aサイト」をご存じですか？
2024年9月25日	IDポータルのご案内：イベント
2024年10月2日	<Vol.0138> IDマガジン 第138号、発行しました！
2024年11月12日	【IDポータルのご案内：ヒゲ講師の活動日誌】
2024年11月 25日	<Vol.0139> IDマガジン 第139号、発行しました！
2024年12月 2日	【お願い】IDポータル利用に関するアンケートへのご協力をお願い
2024年12月 24日	【IDポータルのご案内：ID実力チェックとは】
2025年2月 3日	IDポータルのご案内：作業支援ツール<Job-Aid：教材設計マニュアルに従って教材を作成するためのオンラインツール>
2025年3月 4日	IDポータルのご案内：作業支援ツール<授業設計マニュアル特設ページ>



図：IDポータルのコンテンツをお知らせするFacebookページでの投稿の例

ユーザー調査

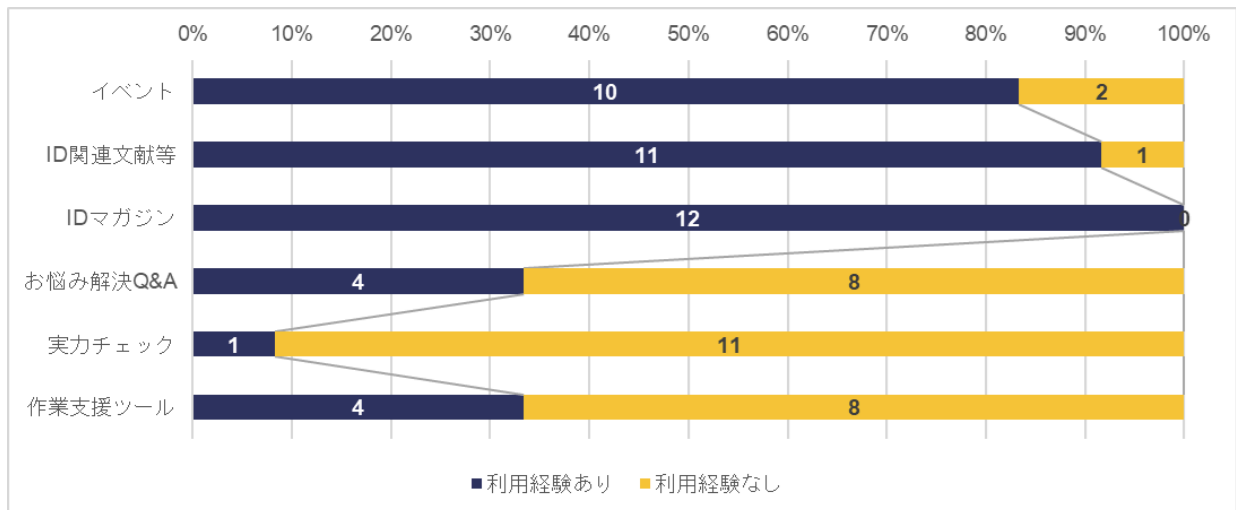
2024年12月～2025年1月に、IDポータルに関するユーザー調査を行いました（有効回答数12件）。

「IDについて情報を得るため」については、「本項目は目的ではなかった」と答えた者はおらず、10名が「達成したと思う」と答えおり、ネガティブな評価の回答者はいませんでした。その他「研究のアイデアを得るため」「IDに関連するイベントの情報を得るため」の項目については、「本項目は目的ではなかった」と答えたものが一定数いるものの、ポジティブな回答が多い傾向にあります。

表：IDポータルへアクセスした目的とその達成度（IDポータルに関するアンケート）						
	本項目は目的ではなかった	達成したと思う	少し達成したと思う	どちらとも言えない	あまり達成しなかったと思う	達成しなかったと思う
IDについて情報を得るため	0	10	1	1	0	0
業務や授業での悩みを解決するため	0	2	7	2	0	1
研究のアイデアを得るため	3	5	2	0	2	0
IDに関連するイベントの情報を得るため	1	4	4	3	0	0

回答者のコンテンツ毎の利用経験は、以下のようになっています。IDマガジンやID関連文献等、イベントといったコンテンツにおいて80%以上の回答者が「利用経験あり」と答えています。これらは比較的更新頻度の高いコンテンツであり、気軽に閲覧できる内容でもあります。こうしたコンテンツをきっかけにしながら、お悩み解決Q&A、実力チェック、作業支援ツールへの遷移を促す施策も有効かと思われます。

表：IDポータルで利用経験のあるコンテンツ（IDポータルに関するアンケート）						
	イベント	ID関連文献等	IDマガジン	お悩み解決Q&A	実力チェック	作業支援ツール
利用経験あり	10	11	12	4	1	4
利用経験なし	2	1	0	8	11	8
合計	12	12	12	12	12	12



本アンケートは昨年度からIDマガジン経由以外でも回答を募集しました（SNSの活用）。にもかかわらず、回答者のすべてがIDマガジンの利用経験があるという状況でした。昨年の回答者には、少数ではあるもののIDマガジンの利用経験がない方もいましたので、これが本年の特徴のひとつといえるかもしれません。「メルマガ登録」という作業をユーザに求めるため、IDマガジンの登録者は、インストラクショナルデザインに深い関心がある熱心なユーザと推測されます。インストラクショナルデザインの認知を広げていくには、その登録以前の状況にあるライトなユーザにもリーチしてゆき、そうしたライトなユーザに徐々に熱心なユーザになってもらうような施策が必要になります。IDマガジンは登録者にプッシュ的に情報を送る機能をもつため、ユーザが定期的にIDポータルに訪問しなくても情報が届けられることがメリットです。引き続き、SNSで広く新しいユーザにリーチし、IDポータルを閲覧後「IDマガジンの購読をしてみよう」と思わせる工夫が求められます。

IDポータルのコンテンツの連携を意識して、SNSを運用していくことで、まずはライトなユーザをなってもらい、徐々にインストラクショナルデザインに関心を深めていってもらうという流れを意識して、IDポータルおよびSNS活用をしていくことが必要になると考えます。

共同利用拠点事業③

公開科目

本センターでは、教授システム学専攻の大学院科目の一部をウェブサイトで公開し、一般の方々にも、広く学修の機会を提供しています。

本年度の取り組みの概要

現在、7科目9コースを公開科目として提供しています（科目名等は下記「公開科目一覧」を参照のこと）。本年度は、新コースのリリースはありませんでしたが、昨年に引き続き、コースの内容を広く知らせるために、SNS（Facebookページ）を活用して、告知を進めています。

本年も昨年に引き続き、Googleアナリティクス（GA4）でのデータ取得を行っています。以下に示すデータはGoogleアナリティクス4からのものとなります。今後も、こうしたデータを参照し、学習者のニーズに沿った科目展開やコース修正に活かす方向で進めてまいります。

公開科目一覧

【博士前期課程】

特別研究Ⅰ（2007年度版）：日本語版・英語版

研究の第一段階に位置づけられた科目

基盤的教育論（2007年度版）：日本語版・英語版

教員免許課程における教育原理・教育方法論・教育心理学のエッセンスと教授設計理論の基礎について短期間でカバーできる科目

eラーニング概論（2009年度版）：日本語版・英語版

eラーニングを教育に導入するための基礎科目

基盤的情報処理論（2010年度版）：日本語版・英語版

（2016年度版）：日本語版・英語版

eラーニング教材の開発に必要な情報処理基礎知識（特にWeb活用）の修得を目指す科目

インストラクショナル・デザインⅡ（2014年度版）：

日本語版・英語版

eラーニングを組み入れた教授システムの青写真と導入プロセスの提案、現状システムの改善計画の提案ができるようになることをめざす科目

経営学特論（2016年度版）：日本語版

企業・組織内の人材育成や教育について構想・企画・検討するための基礎を培う科目

【博士後期課程】

教授システム学研究総論（2015年度版）：日本語版・英語版

博士後期課程の導入科目として位置づけられた科目

公開科目トップページ・各科目へのアクセス状況

公開科目トップページ（<https://www.gsis.kumamoto-u.ac.jp/outgoing/opencourses/>）・各科目に対するアクセス状況は以下の通りです。なお、本年度から前述のGoogleアナリティクス4を利用したデータ収集・分析を開始しました。昨年度とデータの取得方法が異なるため従前のデータとの比較は行えませんが、本年度のデータを紹介します。

※公開科目トップページへのアクセス状況として閲覧された回数（ページビュー数）と訪問者数を示し、各科目ページへのアクセス状況は公開科目トップページで該当する科目がクリックされた回数を示します。

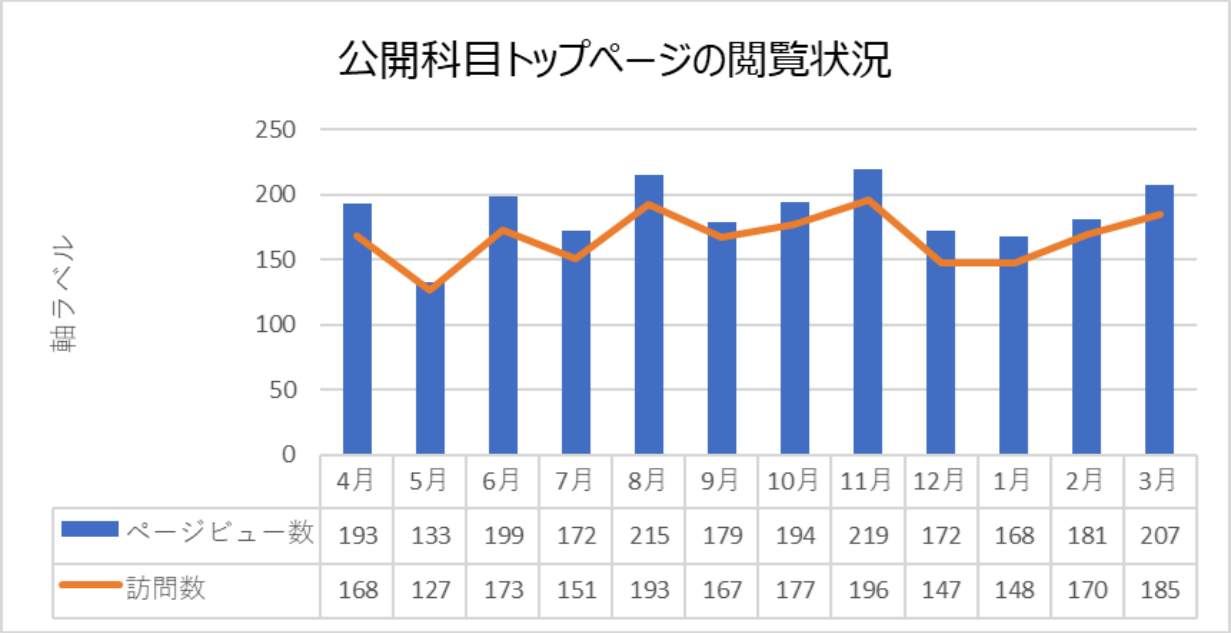
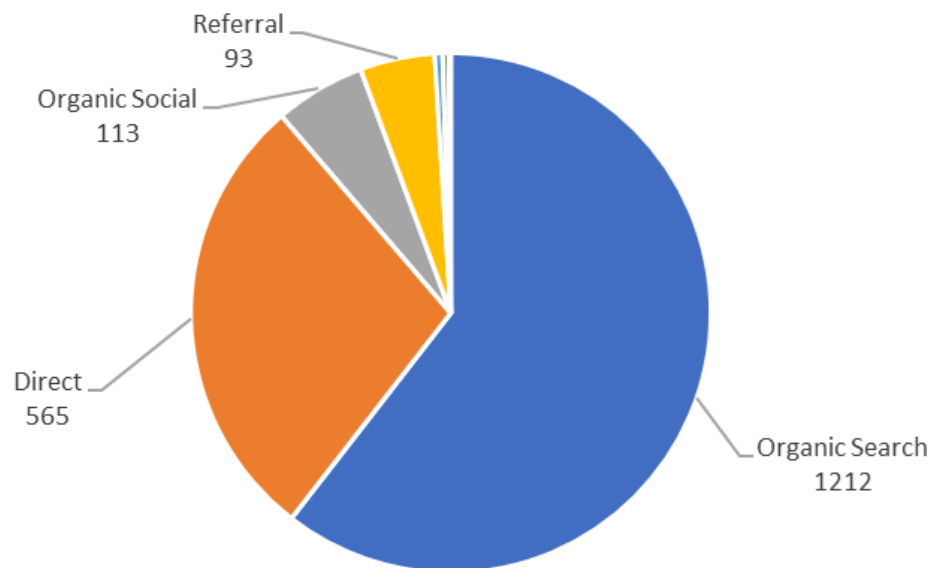


図 公開科目ページの閲覧状況（2024年4月～2025年3月）

次の表は、教授システム学専攻ウェブサイト（<https://www.gsis.kumamoto-u.ac.jp/>）を訪れた訪問（セッション）のうち、公開科目トップページを閲覧した訪問（セッション）のみを抜き出して、どのようなきっかけで発生したかを確認したものです。検索エンジン経由（Organic Search）がもっとも多く、URL直接入力やブックマーク経由等（Direct）が主となっています。

表 公開科目トップページを閲覧した訪問（セッション）のきっかけ（2024年4月~2025年3月）

	ユーザー	セッション
全体	1,559	2005
Organic Search	848	1212
Direct	572	565
Organic Social	82	113
Referral	47	93
unassigned	2	10
Organic Video	7	8
Email	1	2

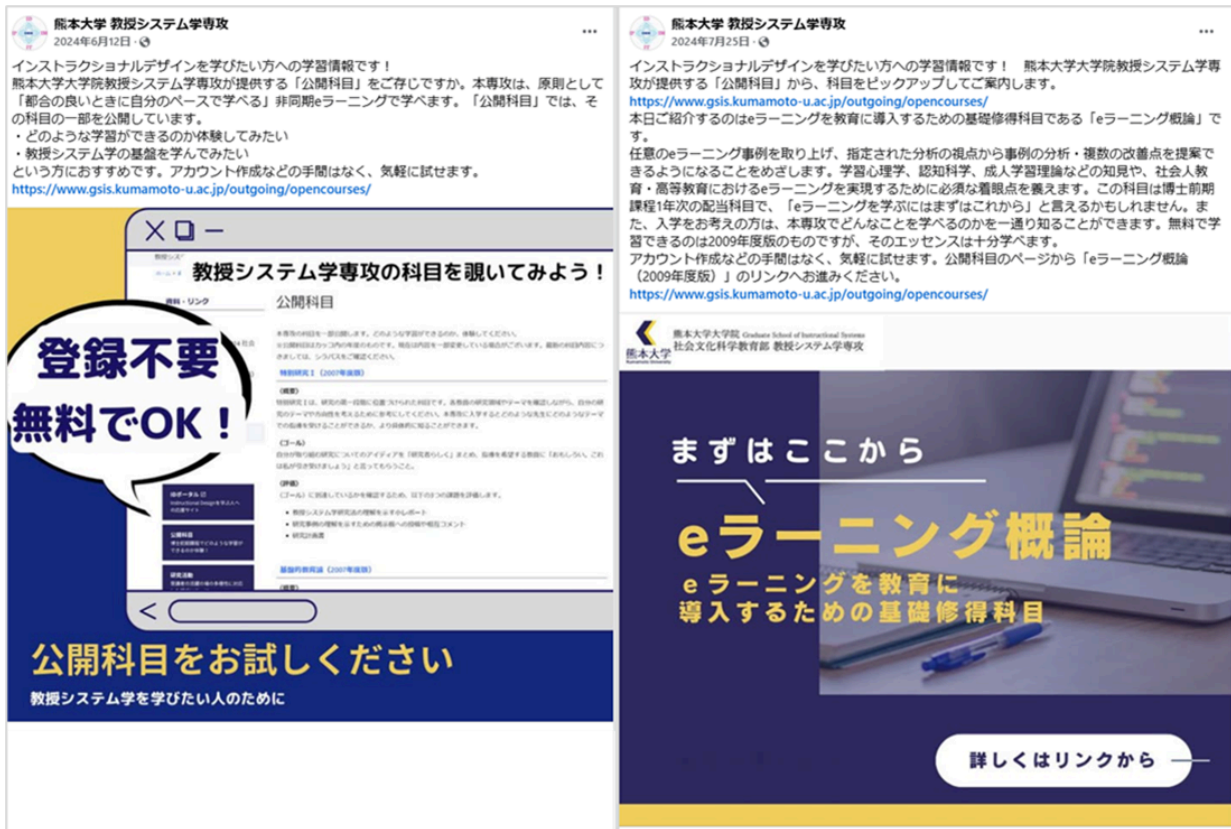


図：公開科目トップページを閲覧した訪問（セッション）のきっかけの割合（セッション数に基づく）（2024年4月~2024年12月）

一昨年からIDポータルのお知らせメディアとしてFacebookページの活用を開始しており、昨年にはFacebookページにて公開科目のお知らせも開始しています。これは、過年度アクセス解析データを分析した結果、「公開科目ページやコンテンツ自体を充実させるも重要ですが、外部サイトで紹介してもらう機会を設けるといったような外部的な施策も検討する必要がある」との示唆を受けてのことです。自組織の管理下にあるウェブサイトの外にありながらも、自組織でのある程度の主導権を持った活用ができるため、SNSを広報媒体として活用していくこととしました。次の表は、Facebookページにおける公開科目関連の投稿を一覧にしたものです。1か月に1回程度の頻度で科目を紹介する投稿を行いました。

表：Facebookページにおける公開科目関連の投稿

投稿日時	内容
2024年6月12日	熊本大学大学院教授システム学専攻が提供する「公開科目」をご存じですか。
2024年7月25日	熊本大学大学院教授システム学専攻が提供する「公開科目」から、科目をピックアップして「eラーニング概論」をご案内します。
2024年8月30日	熊本大学大学院教授システム学専攻が提供する「公開科目」から、科目をピックアップして「基盤的教育論」をご案内します。
2023年10月9日	熊本大学大学院教授システム学専攻が提供する「公開科目」から、科目をピックアップして「基盤的情報処理論」をご案内します。
2024年11月7日	熊本大学大学院教授システム学専攻が提供する「公開科目」から、科目をピックアップして「インストラクショナル・デザインII」をご案内します。
2024年12月16日	熊本大学大学院教授システム学専攻が提供する「公開科目」から、科目をピックアップして「経営学特論」をご案内します。



図：公開科目を紹介するFacebookページでの投稿の例

その結果、表「公開科目ページへのユーザ数・訪問数（全体・SNS）」でお示しするようにSNS投稿をした月にはSNS経由で訪問するユーザや訪問が発生しています。公開科目は、大学院教授システム学専攻の内容を具体的に提示できるコンテンツのひとつです。今後も公開科目の内容を広く告知できるための施策を行ってまいります。

表 公開科目ページへのユーザ数・訪問数（全体・SNS）（2024年4月~2025年3月）

月	全体		SNS経由	
	ユーザー数	訪問数	ユーザー数	訪問数
4月	151	168	0	1
5月	107	127	0	1
6月	139	173	10	12
7月	130	151	13	14
8月	156	193	13	17
9月	143	167	10	15
10月	149	177	6	13
11月	160	196	17	17
12月	131	147	17	19
1月	133	148	0	0
2月	131	170	1	1
3月	134	185	1	4

共同利用拠点事業④ 講師派遣

本センターではインストラクショナル・デザインについて学ぶ機会を
提供するために、講師派遣をしています。

本年度の取り組みの概要

昨年度に引き続き「FD研修講師・大学教育設計コンサルタント派遣」の継続・拡大を図りました。他の取り組みとも連携しつつ、可能な限り、受講者参加型のFD研修を実施しました。本年度は、コロナ禍以前のように対面で集合して行う研修が増えましたが、昨年度同様に、対面とオンラインを組み合わせたブレンド型の研修も多く実施しました。ブレンド型研修のオンライン研修では、同期で実施するもの、非同期でオンデマンドの動画を提供し事前に質問を受け付け、当日の質問と合わせ回答しながら進める研修や、ビデオ会議システムの小グループ用会議室機能を活用した受講者間での協調学習などを含む多様な形態で提供しました。また、受講者に対し、研修前後の非同期学習を体験してもらうことで、自己調整学習を意識した授業設計と実施を促進するためのFDに寄与しました。

講師派遣として本拠点所属教員として、5名の半導体・デジタル研究教育機構教授システム学教育実践力開発拠点の教員が、講師として、大学教職員対象の研修を10件、その他を対象とした研修を9件のべ、19件行いました（表1参照）。昨年度は、所属教員を講師として大学教職員対象の研修を4件、その他を対象とした研修を3件、のべ7件でした。昨年度と比較すると、本年度は、ID分野の教員が1名補充され、それにより研修の数も増えました。

一方で、昨年度より名誉教授となった元所属教員による研修数は33件でした（表2参照）。以下でご報告する受講者数は名誉教授による講師派遣を含みませんが、小規模な研修から規模の大きな講演まで、対象者としては大学教職員、大学院生、医療関係者や一般の方などを対象とし、多様な研修を行いました。

本年度の大学教職員対象の研修では、のべ338名が本拠点所属教員の研修を受講しました。

一般・その他の研修では、対象者を設定していない一般を対象とした研修、その他として、専門学校教員、医療関係者対象の研修について整理しました。一般・その他の受講者は276名で、本年度の所属教員による講師派遣の全受講者数は、614名でした。

所属教員と名誉教授による研修の内容は、授業設計、教材設計はもちろん、人材育成、学習環境と学習経験、言語教育や生成AIの利用等、多岐に渡りました。研修の規模も、10数名の研修から、150名を超える研修がありました。主催者も、大学だけでなく、企業、各種財団、学会等で、それぞれの団体のミッションや課題に合わせ、研修を行いました。

また、本年度は、昨年度に引き続き、講師派遣事業の業績向上を目指し、「熊本大学 eラーニング連続セミナー」としてセミナーを2回開催しました（表3参照）。オンライン協調学習やSTEM教育、人工知能等の専門性を持つ国内外の著名なeラーニングの専門家の講師を招き、eラーニングを活用した教育実践、大学教育、授業改善に寄与し、本拠点所属教員の研鑽も目的とするセミナーを開催しました。対面とオンラインを併用するハイブリッドな開催で、2回のセミナーの参加者数は66名でした。この連続セミナーは、熊本大学半導体・デジタル研究教育機構附属情報統括センターeラーニング推進室のウェブサイトと、教授システム学専攻のFacebookで告知し、IDの普及や当該セミナーの内容を知る契機となるよう、積極的な情報発信に努めています（図1、図2）。



図1：eラーニング連続セミナー参加者募集を告知するウェブサイト



図2：eラーニング連続セミナーをPRするFacebookページ投稿

さらに、本年度は、本章末尾に掲げる「講演型FD研修会を脱却するための研修モデルについてのご提案（2021.3）」を説明をし、講師派遣をPRするYouTube動画を作り、公開しました（図3）。このYouTube動画の公開はFacebookページでも紹介しました（図4）。本拠点の講師派遣活動について、広く認知を得られるよう、広報活動の充実をはかりました。

本年度も、依頼者のニーズに合わせ、受講者がより能動的で積極的に参加できる研修を提供してきました。次年度も、さらに、受講者が自ら学ぶ研修、研修後も学び続けられるような研修を提供していきたいと考えています。また、今後も、定年退職し、専攻の客員教授となられた、多様な専門性を持つ有識者の協力を得ながら、講師派遣の更なる充実を図りたいと考えています。



図3：講師派遣をPRするYouTube動画（GSIS-TV）
<https://youtu.be/RQnINZID2bM>



図4：講師派遣をPRするYouTube動画を告知するFacebookページ投稿

表 1：講師派遣の事例（本拠点所属教員による）

研修日	講師	研修主催者	研修名	研修場所 (オンラインは同期)
2024/6/20	合田美子	The Asia-Pacific Society for Computers in Education (APSCE), ICFULL 2024	Keynote: Harmonizing Individual and Group Learning: The Transformative Potential of AI Chatbots in Language Education	フィリピン、アテネオ・デ・マニラ大学
2024/7/1	Rwitajit MAJUMDAR	ACM UMAP2024 Tutorial	Mastering Mind and Movement. ACM UMAP 2024 Tutorial on Modeling Intelligent Psychomotor Systems (M3@ACM UMAP 2024)	オンライン
2024/7/5	川越明日香	熊本県教育委員会	熊本県立工業関係高等学校中堅教員研修	熊本県立熊本工業高校
2024/8/28	Rwitajit MAJUMDAR	Faculty of Electrical Engineering and Computing University in Zagreb, Croatia	Supporting Evidence-based Education with Data-driven Services	Faculty of Electrical Engineering and Computing University in Zagreb, Croatia
2024/9/4	喜多敏博	情報処理学会、電子情報通信学会	第23回情報科学技術フォーラム (FIT2024) イベント企画「LLMの教育利用」	広島工業大学 五日市キャンパス
2024/9/24	川越明日香	熊本大学ファカルティ・ディベロップメント委員会	熊本大学FD講演会	くすの木会館 レセプションルーム (熊本大学黒髪北キャンパス)
2024/10/24	川越明日香	九州ルーテル学院大学	九州ルーテル学院大学教職員FD・SD 研修会	九州ルーテル学院大学
2024/11/5	合田美子	全国専門学校教育研究会	令和6年度文部科学省委託事業 授業改善サポーター養成講座 研修1	福岡市 リファレンス駅東ビル会議室
2024/11/7	川越明日香	熊本大学ファカルティ・ディベロップメント委員会	熊本大学FD 授業支援ワークショップ	くすの木会館 レセプションルーム (熊本大学黒髪北キャンパス)
2024/11/21	合田美子	福島県	チャレンジふくしまフォーラム in 熊本	熊本ホテルキャッスル
2024/11/26	合田美子	全国専門学校教育研究会	令和6年度文部科学省委託事業 授業改善サポーター養成講座 研修2	オンライン
2024/11/27	合田美子	ICCE2024	ICCE2024 Panel3: Learning Languages in “Smarter” Ways: Theory-Informed Utilization of Smart Technologies in Contextualized, Authentic & Communicative Language Learning	フィリピン、アテネオ・デ・マニラ大学

2024/11/27	川越明日香	女子栄養大学	女子栄養大学 FD研修会	女子栄養大学
2024/12/11	Rwitajit MAJUMDAR	Mukesh Patel School of Technology Management and Engineering (MPSTME), NMIMS University	Reflective Learning supported with Learning Analytics in the Age of AI	Mukesh Patel School of Technology Management and Engineering (MPSTME), NMIMS University, Mumbai
2024/12/17	合田美子	全国専門学校教育研究会	令和6年度文部科学省委託事業 授業改善サポーター養成講座 研修3	オンライン
2025/2/13	川越明日香	島根大学	島根大学 第2回大学教育センターFDセミナー	オンライン
2025/2/18	Rwitajit MAJUMDAR	Vietnam National University, International School. Innovation and Digital Transformation Research Group, VNU	Reflective Practices in an Analytics-driven Educational Ecosystem: Introducing the LA-ReflecT platform.	オンライン
2025/3/4	中野裕司	大学eラーニング協議会 (UeLA)	UeLAフォーラム2024	大手前大学 さくら夙川キャンパス
2025/3/4	川越明日香	熊本保健科学大学	熊本保健科学大学 FD研修会	熊本保健科学大学

表2：講師派遣の事例（名誉教授による）

研修日	講師	研修主催者	研修名	研修場所 (オンラインは同期)
2024/4/21	鈴木克明	日本医療教授システム学会	2024医療ID・実践事例研究会	東京スクエア ガーデン、オン ライン
2024/5/12	鈴木克明	日本医療教授システム学会	GOLDメソッド認定講座 (入門編) 2024	愛知県立大学サ テライトキャン パス (ウインク あいち)
2024/5/27	鈴木克明	日本経済新聞社人財・教育事業 ユニット、トライズ株式会社	第2回グローバルタレント デベロップメントフォー ラム2024～グローバル人 材育成の仕組みについて 学ぶ～	日本経済新聞社 名古屋支社
2024/6/15-1 6	鈴木克明	日本医療教授システム学会	2024医療ID・実践事例研 究会	沖縄：大浜第一 病院、オンライ ン
2024/6/22	鈴木克明	一般財団法人日本語教育振興協 会	令和6年度文化庁委託 日 振協「留学生対象の日本 語教師初任者研修」育成 研修 専門分野講義	オンライン
2024/7/6	鈴木克明	公益社団法人日本語教育学会	JCN 研修講師育成（研修 企画）コース事前ワーク ショップ	オンライン
2024/7/23	鈴木克明	EWTI/JICA	Dessimation Workshop; The Project for Strengthening Capacity for Training Operation & Management for EWTI	エチオピア Nega Bonger Hotel
2024/7/27	鈴木克明	日本医療教授システム学会	医療IDセミナー2024授業 設計	京都光華女子大 学、オンライン
2024/8/6	鈴木克明	日本理学療法教育学会	日本理学療法教育学会主 催第2回サテライトシン ポジウム	オンライン
2024/8/31	鈴木克明	日本医療教授システム学会	2024医療ID・実践事例研 究会	京都光華女子大 学、オンライン
2024/9/11	鈴木克明	HRサミット実行委員会	HR SUMMIT 2024 ONLINE	オンライン
2024/9/13	鈴木克明	沖縄県立看護大学	沖縄県立看護大学FD研修	オンライン
2024/9/15	鈴木克明	産学変革人材 Move Japan プロ グラム事務局	産学変革人材Move Japan プログラム	東北大学
2024/9/22	鈴木克明	日本看護医療学会学術集会	第26回日本看護医療学会 学術集会	京都光華女子大 学
2024/9/22	鈴木克明	日本医療教授システム学会	医療IDセミナー2024授業 設計	京都光華女子大 学、オンライン

2024年教授システム学教育実践力開発拠点年次報告書

P.51

2024/9/23	鈴木克明	日本医療教授システム学会	医療IDセミナー2024研修設計	京都光華女子大学、オンライン
2024/10/26	鈴木克明	日本医療教授システム学会	2024医療ID・実践事例研究会	東京スクエアガーデン、オンライン
2024/10/27	鈴木克明	日本医療教授システム学会	GOLDメソッド認定講座（入門編）2024	上智大学四谷キャンパス
2024/11/12	鈴木克明	日本の人事部「HRカンファレンス」運営委員会	日本の人事部「HRカンファレンス2024-秋-」	オンライン
2024/11/23	鈴木克明	日本医療教授システム学会	GOLDメソッド認定講座（入門編）2024	岡山理科大学
2024/11/24	鈴木克明	日本医療教授システム学会	医療IDセミナー2024研修設計	広島：中電病院、オンライン
2024/12/14-15	鈴木克明	日本医療教授システム学会	2024医療ID・実践事例研究会	長崎大学、オンライン
2025/1/11	鈴木克明	教育システム情報学会（JSiSE）	2024年度第5回研究会企画“新しい大学の力・タ・チ-ITで変わるこれからの教育を考える-”	拓殖大学
2025/1/21	鈴木克明	デジタルラーニング・コンソーシアム（DLC）・LIC	New Year Meeting 2025	株式会社人財ラボ 会議室、オンライン
2025/1/31	鈴木克明	ソフトウェア技術者協会（SEA）／教育分科会（sigedu）	第33回SEA新春教育フォーラム2025～最新教育実践事例の研究～	THE POINT新橋「ド・ゴール」、オンライン
2025/2/8	鈴木克明	武蔵野大学通信教育部	通信教育部シンポジウム：生涯学び続ける、ということ～e-learningを活用した夢の実現～	武蔵野大学有明キャンパス
2025/2/8	鈴木克明	日本教育メディア学会	放送教育SIG第1回研究会「放送教育の温故知新」	オンライン
2025/2/13	鈴木克明	九州看護福祉大学FD委員会	九州看護福祉大学FD研修会	九州看護福祉大学
2025/2/15	鈴木克明	日本医療教授システム学会	2024医療ID・実践事例研究会	岩手県立大学アイーナキャンパス、オンライン
2025/2/16	鈴木克明	日本医療教授システム学会	医療IDセミナー2024授業設計	岩手医科大学附属内丸メディカルセンター、オンライン
2025/3/6	鈴木克明	日本医療教授システム学会	第17回 日本医療教授システム学会 総会・学術集会 教育講演1	大阪市中央公会堂

2025/3/7	鈴木克明	日本医療教授システム学会	第17回 日本医療教授システム学会 総会・学術集会 教育講演4	大阪市中央公会堂
2025/3/14	鈴木克明	名古屋大学総合医学教育センター	指導医のための医学教育学プログラム「京大FCME」 Foundation Course for Medical Education	湘南国際村センター

表 3： 国立大学法人熊本大学eラーニング連続セミナー実行委員会主催のセミナー

研修日	講師	研修名	講演タイトル	研修場所 (オンラインは同期)
2024/12/8	ジェニ ファー・リ チャードソ ン博士 鈴木克明名誉 教授	第38回 熊本大学 eラーニ ング連続セミナー	教育革新のカギ：高等教育 専門家の役割を考える The Key to Educational Innovation: Examining the Role of Educational Specialists in Higher Education	東京国際交流会 館プラザ平成会 議室1、オンラ イン
2025/1/24	ジェニ ファー・リ チャードソ ン博士	第39回 熊本大学 eラーニ ング連続セミナー	CoIフレームワークを活用 した教育改善の実践的アプ ローチ Practical Applications of the CoI Framework for Educational Improvement	熊本大学、オン ライン

派遣事例1

講師：合田美子

実施日：2024年11月27日(水)11:20~12:20

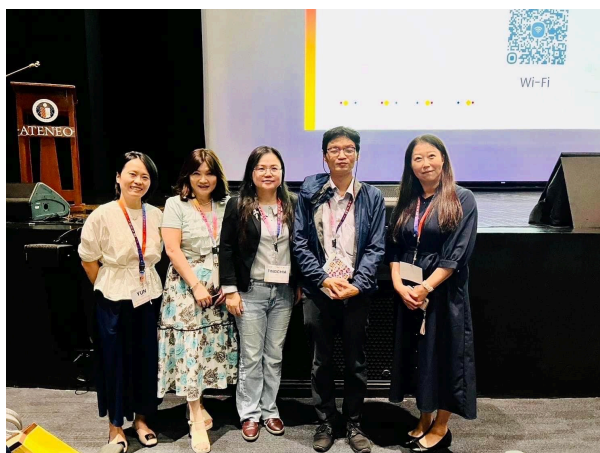
場所：Areté, Ateneo de Manila University (フィリピン)

研修名：ICCE2024(32nd International Conference on Computers in Education), Panel-3, Learning Languages in “Smarter” Ways: Theory-Informed Utilization of Smart Technologies in Contextualized, Authentic & Communicative Language Learning

Panelists: Lung-Hsiang WONG (Institute of Education, Nanyang Technological University, Singapore), Yun WEN (Institute of Education, Nanyang Technological University, Singapore), Vivian Wen-Chi WU (Asia University, Taiwan), Yoshiko GODA (Kumamoto University, Japan), & Ting-Chia HSU (National Taiwan Normal University)

参加者：約60名

2024年11月27日、フィリピンのアテネオ・デ・マニラ大学にて開催されたICCE2024(32nd International Conference on Computers in Education)において、パネルディスカッション「Learning Languages in “Smarter” Ways: Theory-Informed Utilization of Smart Technologies in Contextualized, Authentic & Communicative Language Learning」にパネリストとして登壇しました。



本パネルでは、スマート技術を活用した言語学習の理論的背景と実践的応用について議論が行われました。特に、AI、拡張現実（AR）、仮想現実（VR）、学習分析、ロボティクスなどの先端技術を、文脈化された実践的かつコミュニケーション型言語学習にどのように組み込むことができるかがテーマとなりました。

私は「Enhancing Language Learning and Critical Thinking with AI and Interactive Technologies」と題し、AIチャットボットを活用した学習環境の設計と開発に関する研究を紹介しました。本研究では、AIを活用したソクラテス問答の手法を取り入れ、学習者が自己省察

と批判的思考を深めることを目指しています。また、Community of Inquiry (CoI) モデルに基づいた協調学習の支援方法についても言及し、バランスの取れた認知的・社会的・教授的存在感の重要性を強調しました。

パネルでは、シンガポール、台湾、日本の研究者がそれぞれの研究成果を発表し、以下のような議論が展開されました。

- AIによる生成型学習の可能性 (Lung-Hsiang Wong)
- 社会文化的観点からのAIを活用したマルチモーダルフィードバック (Yun Wen)
- 拡張現実（AR）を活用した低学力児童向けの英語学習支援 (Vivian Wen-Chi Wu)
- AIによるパーソナライズされた言語学習の実現 (Ting-Chia Hsu)

本パネルを通じ、スマート技術が単なる学習補助ツールに留まらず、適切な理論的枠組みに基づくことで、より深い言語習得や批判的思考を促進できることが確認されました。特に、AIを活用した対話型学習環境が、言語学習における実践的な活用を加速する可能性を示唆する議論が多く交わされました。

今後も、この研究分野の発展に貢献し、より効果的な言語学習環境の構築を目指していきます。

派遣事例2

講師：川越明日香

実施日：2024年11月27日（水）18:00-19:30

場所：会場（女子栄養大学）

研修名：女子栄養大学 令和6年度 FD研修会

「レポート課題の評価の在り方 ルーブリックを例にー」

参加者：約60名

2024年11月27日（水）に埼玉県川越市にある女子栄養大学で開催されたFD研修会の講師を担当しました。前年度、同大学では教員間で「レポートの剽窃」に関して問題意識を持ち、教員の「レポート作成時における適切な指示」が必要であるとの考えのもと、教員を対象としたレポート課題の評価に関するFD研修のご依頼を受けました。

講演ではまず初めに、レポート課題に関する先生方の悩みとして「レポート課題の論題をどのように設計すべきか」、「レポート課題をどのように評価すべきか」という2つの軸があることをお伝えし、講演の前半と後半に分けて考えることにしました。

前半は、レポート課題の4分類として、説明型・応用型・意見型・探究型があることを説明した上で、個人ワークでは、参加者自身の授業を振り返る機会を持ちました。具体的には、自身が過去に出題したことのある論題を一つ書き出し、その論題がレポート論題4分類のどこに当てはまるか、さらにその論題が「良い論題」であったかを省察する時間を持ちました。

後半は、レポート課題をどのように評価すべきかというテーマです。現在、大学では学修者本位の教育に向けて、質を保証していくことが求められています。そのため、教員が何を教えたかよりも、学生が何を学び、どのようなことができるようになったかという学修成果の可視化が重要になります。そのため、そもそもなぜ評価を行う必要があるのか、評価の目的・構成要素・タイミングについて説明を行いました。

また、授業設計は、到達目標から評価方法、教授方法、授業内容の順で、逆算して考えることが原則であることの共通理解を得ました。

最後は、評価方法の一つとして、ルーブリック評価をご紹介します。実際にルーブリックを作る体験を行いました。参加者からは、「自分の授業で何を学生に求めているか曖昧であることに気付いた」、「成績評価のためにテストだけを行ってきたが、これからは形成的評価も行っていきたい」などの感想をいただき、最後に参加者全員で感想を共有しました。

ルーブリックを作成するという経験自体が初めての先生も多く、2025年度の研修では、ルーブリック作成ワークショップを担当する予定です。



講演型FD研修会を脱却するための研修モデルについてのご提案（2021.3）

本センターでは、これまでにFD研修講師派遣を依頼頂いた際に、様々な形の研修を提言してきました。外部講師としての依頼を受け、講演をした後で、質疑応答の時間を最後にする、という従来型のものもありましたが、他のやり方はどうでしょうか、という提案をした結果、それを受け入れていただき、効果が上がったケースもありました。これまでの経験をもとに類型化した研修モデルには、以下のようなものがありました。

<外部講師講演型>

重要だと思われるトピックの第一人者を招聘して行うFD。例えば、アクティブラーニング、パフォーマンス評価、オンライン授業など。講師によっては、新しいコンセプトを事例に即して知る機会になることもあるが、力量に依存するので、「お勉強」に留まり実際の授業改善には直結しない場合も散見される。講演の最後には質疑応答の時間を設ける場合もあるが、質問があまり活発に出ずにFD担当者が困るケースも多い。

<事前質問付外部講師講演型>

外部講師を派遣する際に、事前に質問を受講予定者から募り、その回答を含めた講演にしよう。講演時間の半分程度を講演にあて、残りの時間を事前質問への回答にあててもらうのが効果的。ケースによっては、事前質問への回答を最初にしてから、まとめの講演というパターンがより講演を身近に感じられ、満足感を高めることもある。

<事前資料付講演（反転授業型）>

基本的な内容については事前に論文や講義ビデオで情報を得てもらい、その上で当日の講演に臨んでもらう。可能であれば、事前資料についての質問を事前にあるいは参集時に受付で出してもらう。講演時間は事前資料の内容についての質疑応答を中心に構成するか、ワークショップ的に例えば「事前資料の内容を今後の担当授業にどう応用するか」を検討する時間とする。担当科目でもこの形式（反転授業）を採用してもらう布石として学習者として体験してもらう意図も兼ねて行う。

<講演型+アクションプラン作成>

次回にアクションプランをどう実現したかをシェアする会を設定・予告し、それまでに活用することに誘う。新しいコンセプトを導入した後で、個人あるいはグループ（担当科目やカリキュラムを共有する者同士）で、このコンセプトをどのように活用して授業を改善できそうかを検討・議論し、アクションプランを作成する（次回のFDまで、今年度中、2－3年後までには、など）。

<事前課題+アクションプラン作成>

FD開始前に授業改善のヒントとなるような文章を全員が読んで、疑問点や自分の授業改善にどのように活用できそうかを検討した結果を持ち寄ってもらう方式。集まった時には疑問点を解消した後で、各自の検討結果を共有し、互いに気づいてなかった点を加えてアクションプランを作成して、次回につなげる。

<まな板の鯉方式>

これまでに様々な工夫をして授業改善に取り組んできた教員の事例を紹介してもらい、自分の授業で参考になる点（まねできそうな点）や更なる改善アイデアについて小グループで話し合い、授業提供者が持ち帰るお土産とする。例えば、ICT活用法、遠隔授業構成法、学習意欲を高める方策などのテーマを設定し、関連する工夫を数例並べて検討するとさらに効果が高まる。

＜ワークシート形式＞

各自が担当する授業について共通のフォーマットを用いて現状分析し、改善の糸口を見つける方式。ARCSで学習意欲を向上する、大学の授業点検シートで出入口と方略をチェックするなど。ワークシートへの記入を事前課題として記入済みのものを持ち寄って議論中心に展開すると効率的になる。さらにアクションプラン作成と組み合わせることで次回につなげることも効果的。代表的な取り組みを次にまな板の鯉方式で共有することにつなげる前段階としての活用するのもよい。

＜他のやり方＞

本センターでは、講師派遣に際して、その他にも有効だと思われるやり方を模索していきたいと考えています。遠慮なくご相談ください。

共同利用拠点事業⑤ オンラインプログラム

本センターでは2019年から、
授業設計について学習するオンラインプログラム
「教育改善スキル修得オンラインプログラム」
を公開しています。

本年度の取り組みの概要



https://youtu.be/JSG5rIS_jZI

2024/06/24 | その他

人文・社会 / 教育工学

【熊本大学】授業改善のお悩み解決します！！オンラインプログラム『自律学習支援編』有料版受講者（第4期）募集開始

山下 藍 鈴木 克明 喜多 敏博 合田 美子

この度、熊本大学では、「[教育改善スキル修得オンラインプログラム（自律学習支援編）](#)」の有料版受講者（第4期）を募集いたします。

教員が一生懸命教えるだけの授業ではなく、自ら学ぶ学生を育てるための授業改善について学んでみませんか。皆様の応募を心よりお待ちしております。

◆対象者：

- ・高等教育機関の現役教員および将来、高等教育機関で教育に携わる予定の大学院生
- ・本講座の前提となる「[教育改善スキル修得オンラインプログラム（科目デザイン編）](#)」有料版の修了者、または無料版

のバッジ（モジュール1～4）を取得しすべての学習を修了している者

◆定員：10名（2024年度）

◆受講料：60,000円（履修証明書の発行手数料を含む）

◆学習期間

2024年10月15日（火）～2025年2月21日（金）までの任意の60時間

* 2024年11月10日（日）と2025年1月26日（日）に対面／同期型研修があります。

* 上記の対面／同期型研修は現地参加（東京）とオンライン参加が選択できます。

* 詳細は以下をご覧ください。

<https://www.gsis.kumamoto-u.ac.jp/2024onlineprogram02/>

◆募集期間：

2024年6月24日（月）～8月9日（金）

図：自律学習支援編受講者募集を告知するresearchmapでのプレスリリース

2024/08/07 | イベント

人文・社会 / 教育工学

【熊本大学】授業改善のお悩み解決します！！オンラインプログラム『科目デザイン編』有料版受講者（第11期）募集開始

この度、熊本大学では、「教育改善スキル修得オンラインプログラム（科目デザイン編）」の有料版受講者（第11期）を募集いたします。

高等教育機関において、授業を改善したい、もっと効果的な授業にしたい、授業設計の基礎を身につけたいなど、授業に関する様々なお悩みを解決します。皆様の応募を心よりお待ちしております。

<https://kyoten1.cica.jp/moodle/>

◆対象者：高等教育機関の現任教員、または、大学院生など将来的に高等教育に携わる予定の者

◆定員：15名（2024年度）

◆受講料：60,000円（履修証明書の発行手数料を含む）

◆学習期間

2024年11月22日（金）～2025年3月19日（水）までの任意の60時間

* 2024年12月15日（日）と2025年2月23日（日）に対面／同期型研修があります。

* 上記の対面／同期型研修は現地参加（東京）とオンライン参加が選択できます。

* 詳細は以下をご覧ください。

<https://www.gsis.kumamoto-u.ac.jp/2024onlineprogram04/>

◆募集期間：

2024年8月7日（水）～9月20日（金）

* 募集締切後に審査の上、受講者を決定・通知します。

◆申し込み：

<https://forms.gle/fj67ZM5chXVKV5VvE7>

* 申し込みの際に担当科目の概要資料（フォーマット指定）を提出していただきます。

本プログラム修了者には、文部科学省の制度に基づいて履修証明書が発行されます。

図：科目デザイン編受講者募集を告知するresearchmapでのプレスリリース

熊本大学 教授システム学専攻
2024年6月24日

授業改善のお悩み解決します！！オンラインプログラム『自律学習支援編』有料版受講者（第4期）募集開始！
<https://www.gsis.kumamoto-u.ac.jp/2024onlineprogram02/>
教員が一生懸命教えるだけの授業ではなく、自ら学ぶ学生を育てるための授業改善について学んでみませんか。皆様の応募を心よりお待ちしております。

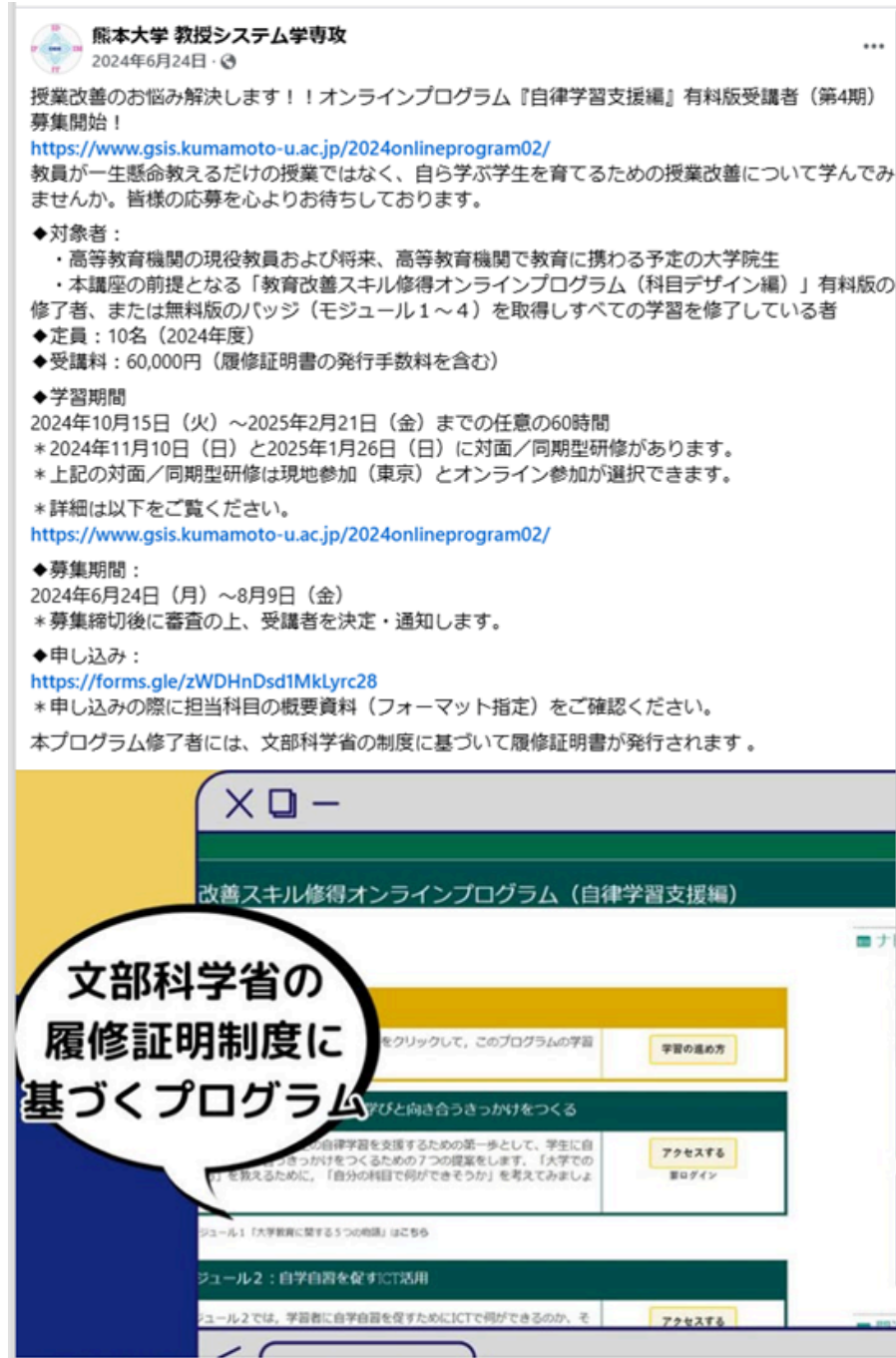
◆対象者：
・高等教育機関の現役教員および将来、高等教育機関で教育に携わる予定の大学院生
・本講座の前提となる「教育改善スキル修得オンラインプログラム（科目デザイン編）」有料版の修了者、または無料版のバッジ（モジュール1～4）を取得しすべての学習を修了している者

◆定員：10名（2024年度）
◆受講料：60,000円（履修証明書の発行手数料を含む）

◆学習期間
2024年10月15日（火）～2025年2月21日（金）までの任意の60時間
*2024年11月10日（日）と2025年1月26日（日）に対面／同期型研修があります。
*上記の対面／同期型研修は現地参加（東京）とオンライン参加が選択できます。
*詳細は以下をご覧ください。
<https://www.gsis.kumamoto-u.ac.jp/2024onlineprogram02/>

◆募集期間：
2024年6月24日（月）～8月9日（金）
*募集締切後に審査の上、受講者を決定・通知します。

◆申し込み：
<https://forms.gle/zWDHnDsd1MkLycr28>
*申し込みの際に担当科目の概要資料（フォーマット指定）をご確認ください。
本プログラム修了者には、文部科学省の制度に基づいて履修証明書が発行されます。



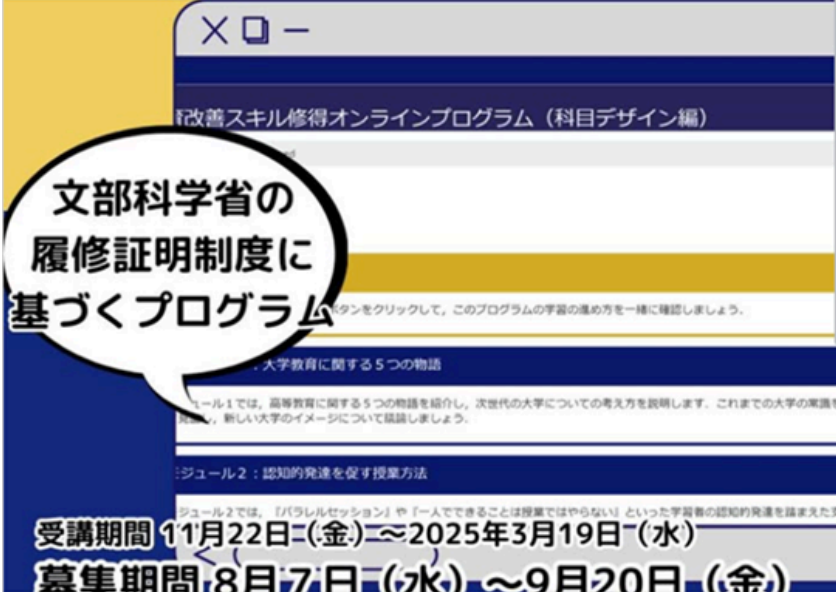
図：自律学習支援編受講者募集を告知するFacebook投稿（2024/6/24）


熊本大学 教授システム学専攻
 2024年8月7日・🌐

<https://forms.gle/j67ZM5chXVKV5VvE7>
 この度、熊本大学では、「教育改善スキル修得オンラインプログラム（科目デザイン編）」の有料版受講者（第11期）を募集いたします。
<https://kyoten1.cica.jp/moodle/>

高等教育機関において、授業を改善したい、もっと効果的な授業にしたい、授業設計の基礎を身につけたいなど、授業に関する様々な悩みを解決します。皆様の応募を心よりお待ちしております。

- ◆対象者：高等教育機関の現役教員、または、大学院生など将来的に高等教育に携わる予定の者
- ◆定員：15名（2024年度）
- ◆受講料：60,000円（履修証明書の発行手数料を含む）
- ◆学習期間
 2024年11月22日（金）～2025年3月19日（水）までの任意の60時間
 ＊2024年12月15日（日）と2025年2月23日（日）に対面／同期型研修があります。
 ＊上記の対面／同期型研修は現地参加（東京）とオンライン参加が選択できます。
 ＊詳細は以下をご覧ください。
<https://www.gsis.kumamoto-u.ac.jp/2024onlineprogram04/>
- ◆募集期間：
 2024年8月7日（水）～9月20日（金）
 ＊募集締切後に審査の上、受講者を決定・通知します。
- ◆申し込み：
<https://forms.gle/j67ZM5chXVKV5VvE7>
 ＊申し込みの際に担当科目の概要資料（フォーマット指定）を提出していただきます。
 本プログラム修了者には、文部科学省の制度に基づいて履修証明書が発行されます。



**文部科学省の
履修証明制度に
基づくプログラム**

受講期間 11月22日（金）～2025年3月19日（水）
募集期間 8月7日（水）～9月20日（金）

図：科目デザイン編受講者募集を告知するFacebook投稿（2024/8/7）

表：SNSなどを使ったPR施策

2024年3月1日	YouTube 熊本大学 教育改善スキルオンラインプログラム科目デザイン編のご紹介～まずは無料アカウントでお試ください～
2024年3月11日	ウェブサイトお知らせ：科目デザイン編有料版受講者（第10期）募集のお知らせ
2024年3月11日	Facebook投稿「教育改善スキル修得オンラインプログラム（科目デザイン編）」の有料版受講者（第10期）を募集
2024年3月11日	YouTube 熊本大学 教育改善スキルオンラインプログラム自律学習支援編のご紹介
2024年3月11日	Researchmap【熊本大学】授業改善のお悩み解決します！！オンラインプログラム『科目デザイン編』有料版受講者（第10期）募集開始
2024年3月11日	IDマガジン：【ご案内】教育改善スキル修得オンラインプログラム（科目デザイン編）有料版受講者（第10期）募集のお知らせ
2024年6月24日	ウェブサイトお知らせ：自律学習支援編有料版受講者（第4期）募集のお知らせ
2024年6月24日	Facebook投稿 6/24募集開始、熊本大学 教育改善スキルオンラインプログラム自律学習支援編
2024年6月24日	Researchmap【熊本大学】授業改善のお悩み解決します！！オンラインプログラム『自律学習支援編』有料版受講者（第4期）募集開始
2024年6月24日	IDマガジン：【ご案内】教育改善スキル修得オンラインプログラム（自律学習支援編）有料版受講者（第4期）募集のお知らせ
2024年8月7日	ウェブサイトお知らせ：科目デザイン編有料版受講者（第11期）募集のお知らせ
2024年8月7日	Facebook投稿 授業改善のお悩み解決します！！オンラインプログラム『科目デザイン編』有料版受講者（第11期）募集開始
2024年8月7日	Researchmap【熊本大学】授業改善のお悩み解決します！！オンラインプログラム『科目デザイン編』有料版受講者（第11期）募集開始
2024年8月7日	IDマガジン：【ご案内】教育改善スキル修得オンラインプログラム（科目デザイン編）有料版受講者（第11期）募集のお知らせ

本取り組みでは、高等教育機関の授業における学習目標、評価方法、授業方法の設計に関する知識・スキルを身につけるためのオンラインプログラム（科目デザイン編）の運営を行っています。

基礎からの積み上げ方式による暗記から始まる専門家育成の枠組みを脱却し、学習の有用性が最初から感じられる科目デザインを実現することが社会人の学び直しにも有効であり、かつ社会人経験がない学生にとっても有用であることを前提としています。

本年度は有料版の第10期と第11期を募集し、5名の受講者が修了しました。

教育改善スキル修得オンラインプログラム（科目デザイン編）

<https://kyoten1.cica.jp/moodle/>

また、科目デザイン編のコンテンツを利用した他大学でのプレFDやFD活動も行われています。酪農学園大学では、プレFDの一環として大学院博士課程（獣医学研究科および酪農学研究科）の学生を対象に、また東海大学ではプレFDや教職員のFD活動として研究科生や教職員を対象に、科目デザイン編無料版の学習が推奨されています。

教育改善スキル修得オンラインプログラム（科目デザイン編）

ANNOUNCEMENTS undefined

ホーム画面

初めてアクセスされた方へ

本教材へようこそ。まず、右のボタンをクリックして、このプログラムの学習の進め方を一緒に確認しましょう。

学習の進め方

モジュール 1：大学教育に関する5つの物語

モジュール1では、高等教育に関する5つの物語を紹介し、次世代の大学についての考え方を説明します。これまでの大学の常識を改めて見直し、新しい大学のイメージについて議論しましょう。

アクセスする
アカウントなしで閲覧可能

モジュール 2：認知的発達を促す授業方法

モジュール2では、『バラレセッション』や『一人でできることは授業ではやらない』といった学習者の認知的発達を踏まえた支援について学習します。

アクセスする
要ログイン

モジュール 3：評価と単位認定の見直し

モジュール3では学習の評価について学習します。期末テストの成績が悪い、実技の授業をどのように評価すればよいのかといった問題について学習します。

アクセスする
要ログイン

モジュール 4：学習目標の高度化

モジュール4では、学習目標について学習します。『暗記ではなく知識の応用を目指す』や『学問領域に依存しない学び方を学ぶ』といったトピックについて学習します。

アクセスする
要ログイン

ナビゲーション

ホーム画面へ戻る

進捗管理画面へ戻る

学習状況証明書を発行
(無料ユーザー向け)
証明書はいつでも発行可能

学習状況証明書を発行
(有料ユーザー向け)
有料ユーザーのみアクセス可能です。証明書はいつでも発行可能。

関連サイト

本プログラムは、熊本大学教授システム学研究センターが運営しています。

RCIS 教授システム学研究センター
Research Center for Instructional Systems

熊本大学大学院 大学院システム学専攻
社会文化科学研究科 教授システム学専攻

ご意見はこちら

本プログラムを学習していてお気づきの点、ご意見がございましたら、下記のボタンよりご連絡ください。

図：教育改善スキル修得オンラインプログラム（科目デザイン編）トップ画面

プログラムの学習内容（有料版と無料版）

オンラインプログラムでは、大学の授業設計について、主に学習目標、評価方法、授業方法の3点から学習し、学習した内容を元に、自身が所属機関で担当している授業を修正します。また、ミネルバ大学の事例等を紹介し、今後の大学についての考え方についても議論します。

無料版の学習者は各モジュールで知識を学習、自身が学習したことを身につけることができます。また、学習した内容を確認するクイズを受験することができます。

一方、有料版学習者に対しては、無料版の範囲に加え、自身の担当科目の修正案に関する他の学習者とのディスカッション、教員による添削が受けられる課題提出まで提供されます。また、有料版学習者に対しては2回の対面学習が開催され、各対面学習では学習者がモジュールを学習しているときに感じた疑問点を共有、議論する機会を設けています。

各モジュールで学習しながら自身の担当科目を修正することで、本プログラムの修了後、すぐに改善した状態の自身の科目を実施できるようにしています。

表：各モジュールの対象者及び内容

モジュール名	対象者	内容
オリエンテーション	有料版	各モジュールの学習を始める前に、学習環境の準備や自己紹介をしましょう。
モジュール1 大学教育に関する5つの物語	無料版 有料版	高等教育に関する5つの物語を紹介し、次世代の大学についての考え方を説明します。これまでの大学の常識を改めて見直し、新しい大学のイメージについて議論します。
モジュール2 認知的発達を促す授業方法	無料版 有料版	『パラレルセッション』や『一人でできることは授業ではやらない』といった学習者の認知的発達を踏まえた支援について学習します。
モジュール3 評価と単位認定の見直し	無料版 有料版	期末テストの成績が悪い、実技の授業をどのように評価すればよいのかといった評価に関する問題について学習します。
モジュール4 学習目標の高度化	無料版 有料版	『暗記ではなく知識の応用を目指す』や『学問領域に依存しない学び方を学ぶ』といった学習目標に関する問題について学習します。
モジュール5 最終課題	有料版	モジュール1からモジュール4で学習したことを振り返り、自身の科目を修正します。

アクセス数

2024年3月から2025年2月までの訪問者数（IPアドレス）、各モジュールの無料版プログラムの学習を修了し、デジタルバッジを取得した学習者の数は以下の通りです。

モジュール名	訪問者数（IPアドレス）			無料版プログラム： デジタルバッジ取得者数		
	2022	2023	2024	2022	2023	2024
モジュール1：大学教育に関する5つの物語	304	353	340	12名	11名	14名
モジュール2：認知的発達を促す授業方法	38	46	37	5名	4名	6名
モジュール3：評価と単位認定の見直し	23	28	20	6名	5名	7名
モジュール4：学習目標の高度化	22	29	19	4名	5名	6名

有料版プログラム

有料版では、各モジュールでの学習を進めながら、実際に所属機関で担当している科目（大学院生等、科目を担当していない場合は将来担当したい科目）を改善していきます。有料版プログラムには以下の特徴があります。

<特徴1：相互レビューに基づく学習>

本プログラムでは各モジュールで提出する課題等はすべて、他の学習者との相互レビューを行いながら、質の改善を行っています。

<特徴2：ポートフォリオの活用>

本プログラムでは、各モジュールで提出する課題や自身の科目のシラバス等をポートフォリオにまとめるお手伝いをしています。そのポートフォリオを相互レビューや対面ワークショップ等で他の学習者と共有します。最終的にはポートフォリオを誰でも閲覧可能な形で公開できるようにして、発行される履修証明書と併せて、学習者自身のキャリアアピール等で活用していただくことを想定しています（公開は任意）。

<発行される証明書>

本プログラムでは、すべての学習を完了し、最終期限日までに合格することで文部科学省の制度に基づいて熊本大学から履修証明書（紙媒体・デジタル媒体）が発行されます。学習途中でも（無料版でも）学習状況証明書（デジタル媒体）が発行されますが、これは文部科学省の履修証明制度に基づくものではありません。

また、履修証明書（デジタル媒体）には任意で本プログラムで作成を支援するポートフォリオへのリンクを埋め込むことができ、将来、自身の学習についてアピールする際に活用することができます。



図：履修証明書（デジタル版）

受講後アンケート調査の結果

教育改善スキル修得オンラインプログラム 科目デザイン編（第10期）の直前アンケート（修了者4名のうち4名（バッジ取得者のうち100%））と1カ月後アンケート（修了者4名のうち2名（バッジ取得者のうち50%））を実施し、以下、1）～5）の設問に対する回答を求めました。

1) オンラインプログラムの印象について

オンラインプログラムの内容について注意、関連性、自信、満足度の度合いについて7段階で回答を求めました。

注意については、全ての受講者が6や7と回答し、その理由に関して、「新しいアイデア、インスピレーション、モチベーションをたくさん与えてもらったから」、「大学生向けの授業で大切なことは、ただ正解を教えるだけではないことが分かった」、「授業の改善ができるかもしれないと感じたから」、「認知的発達、評価、目標とも、提示されているアイデアはどれも理にかなっていると思った」、「具体的に自分の授業をよりよくする工夫を加えることができたと感じるので回のオンラインプログラムで網羅的に学習できたことで、役に立つという感覚が得られた」などの回答がありました。

関連性についても、全ての受講者が6や7と回答し、その理由に関して、「自分のシラバスを修正する形で、実際の授業改善に生きるやり方だったから」、「自分がやりたいと感じている授業に近づく感じがしたから」、「具体的な授業計画（看護や法学や心理学実験）などを例示しながらの学習はやりがいを感じられた」などの回答がありました。

満足感について、全ての受講者が5～7と回答し、その理由に関して、「苦痛だったことや疑問に思っていたことが、少し解決の光が見えていて、とても良かったです」、「今後授業をもったときにためになりそう」、「目指す授業のあり方が明確になったから」などの回答がありました。

自信については、1名の受講者が2、1名の受講者が3、2名の受講者が5と回答し、他の項目より低い数値を示しました。「まだ自信を持てた！というほどではないが、頑張ってみようと思ったので」、「だいぶ自信が持てました少しずつでも改善ができそうな気がしたから」などの肯定的な回答が見られた一方で、「限られた授業時間で本当にできるかは自信がない」、「実際に自分の授業に反映させるには勇気が必要だとも思う」などの回答も見られました。今後、様々な事例を提示する等、受講者の自信を高める工夫を行っていくことを検討します。

2) 各モジュールでの説明、クイズ等で何か改善してほしい点があれば教えてください。

「とにかくテストが難しすぎてくじけそうでした。内容も多いので2つくらいに区切ってテストしてもらえるといいのかもしれない」、「途中で「補足説明」をいただけたことには感謝するが、一方で本質的には「説明」の問題ではなく「問題」の問題だろうとも思った」など、モジュール2の力試しテストに関する回答が見られました。これらの意見を踏まえ、力試しテストの修正に取り掛かりました。2025年2月に修正作業は完了していますが、今後も、テスト問題やテキスト間の乖離はないのか、学習内容を正しく測れているか、受講者の状況や意見を通し、今後の修正の要否について検討します。

3) 学習を促すメールとして各キックオフミーティングや対面学習の前に学習を促すメールを配信しました。これらはあなたの学習進捗にとって役に立ちましたか？

4名中、4名の回答者が「役に立った」と回答し、その理由として、「忘れていた課題などを思い出したり、力試しテストが合格しなかったらどうするかなど、いつもタイムリーにリマインドしていただきました」、「周りの人の進捗状況を知ることができた」、「課題の期限や内容を忘れかけていることがあったため」などの回答を得ました。

4) 修了証明書（電子版）は今後、どのような目的で利用しますか？

2名中、1名の回答者が「将来、就職先等に提示することで自身の学びをアピールする」目的で利用すると回答し、1名の回答者が「自身の学びを振り返るために利用する」目的で修了証明書（電子版）を利用すると回答しました。

5) ポートフォリオの利用目的を教えてください。

2名中、1名の回答者が「自身の学びを振り返るために利用する」目的でポートフォリオを利用すると回答し、1名は「特に利用する予定はない」と回答しました。

6) 本プログラムの学習で身についたと感じた知識・スキルと感じたものがあれば教えてください。

本プログラムの学習を通し、受講者がどのような知識・スキルが身についたと感じているのか、その一部を紹介します。

- 個別の教授内容というよりは、全体的な枠組みから科目改善の示唆が得られた。講義をしないことが目的なのではなく、受講生が自分で考えられるようになること、教員ではなく学生が「がんばる」こと、といった枠組みそのものが新鮮であった。個別のテクニックを学んだという実感よりもむしろ、長期的に使える視座が得られたと思う。
- 学んだスキルや知識を持ち、科目を抜本的に見直したことで、劇的に改善した。特にモジュール2の「認知的発達を促す授業方法」は本当に役立った。「しゃべるのは1割まで」、「大事なことは3回はやる」「一人でできることは授業ではやらない」「個人→グループ→個人」「パラレルセッション」はすべて採用し、学生に暇な時間を作らないようにした。講義にメリハリとリズムが生まれ、学生教員双方にとってストレスが少なくなった。

6ヶ月後追跡調査の結果（有料版）

教育改善スキル修得オンラインプログラム 科目デザイン編（8期）の修了者を対象とした6ヶ月後追跡調査（修了者3名のうち3名（バッジ取得者のうち100%）では、オンラインプログラムの内容をどの程度覚えているか（記憶度）、また受講後の業務にどの程度役立っているか（有益度）についての回答を求めました。記憶度・有益度について、多くの受講者がモジュール1～5の項目で「覚えている」「少し覚えている」、「役立っている」、「少し役立っている」と回答し、記憶度・有益度ともに、「覚えていない」「役にたっていない」という回答が過半数をこえた項目はありませんでした。

＜6ヶ月後追跡調査結果概要（2024年9月（第8期）実施分＞

オンラインプログラムで学んだことをもとに、自分が従事する教育事例の改善に取り組んだかの設問については、すべての受講者が「はい」と回答し、アクションプランの実行状況とIDを活用した教育改善への取組状況、そして、具体的にどのような取り組みをされて、どのような成果を収めたのか、その事例を紹介します。

表：6ヶ月追跡調査によって報告された取り組み事例とその成果

改善内容	改善結果
日本語の授業なので、平仮名と片仮名学習の宿題を満点になるまで再チャレンジ可にしたところ、学生から文法問題などの宿題も再チャレンジ可にしてほしいと要望があり、こちらも再チャレンジ可にした。満点になっても、復習として再利用している学生がいたのには驚いた。	モチベーションの高い学生は、LMSに載せた課題は宿題としてだけではなく復習用にリサイクルしているのでも使っていたので、こういう使い方もあるのだと気づかされた。学生の習得にかかる時間も以前よりは短かった。
FDの内容に盛り込んだ。FDの実施方法に反映させた。	FDでは、実施時と事後のフィードバックのコメントでは、好評であるが、実際に教職員の行動変容と授業・業務改善に活かすことができているのかは、フォローアップすることができていない。
「大事なことは3回はやる」ことを採用し、実技テストを3回実施した。その実施の間に、練習報告を2回ずつ組み入れ、取り組みの実行性があがるようにした。	前年の授業を終えての学生の上達度と比べると、上手になった学生が多く感じられた。

授業改善による周り（同僚、上司、組織全体等）の反応について、「年度末に設定された全学FDで動画配信およびWSを実施することができ、参加の先生から授業改善の方法など得ることができてよかったと声をかけられました」、「FDでは、実施時と事後のフィードバックのコメントでは、好評であるが、実際に教職員の行動変容と授業・業務改善に活かすことができているのかは、フォローアップすることができていない」など、効果を実感するものや、効果を得ながらも今後の改善を示す回答が見られました。また、「どうも手間暇をかけていないように思われて、あまり仕事をしない教師だとおもわれているようだ」との回答も見られましたが、本プログラムで効率かつ効果的な授業法を学んだことで、従来の教育から脱却し、効率かつ効果的な授業実践の一步を踏み出した結果だと考えます。

熊本大学プレFDの実施

熊本大学では、学内の大学院生を対象にプレFDを実施しました。プレFDでは、科目デザイン編のコンテンツを使用し、受講者に学習を進めてもらいました。2024年度は4名の受講者が修了しました。

募集期間	10月7日（月）～11月8日（金）
学習期間	2024年11月25日（月）～2025年2月28日（金）
対面学習	1回目：2024年12月20日（金）、2回目：2025年1月28日（火） 3回目：2025年2月28日（金）

受講者に学習目標、評価方法、授業内容の順序で学んでもらうために、科目デザイン編のモジュール1からモジュール4の学習を以下のような順序に変更して実施しました（各モジュール学習内容の変更はありません）。

科目デザイン編			プレFD		
学習 順序	モジュール	テーマ	学習 順序	モジュール	テーマ
1	モジュール1	大学教育に関する5つの物語	1	モジュールA	学習目標の高度化
2	モジュール2	認知的発達を促す授業方法	2	モジュールB	評価と単位認定の見直し
	モジュール3	評価と単位認定の見直し	3	モジュールC	認知的発達を促す授業方法
	モジュール4	学習目標の高度化	4	モジュールD	大学教育に関する5つの物語

※ 科目デザイン編有料版では、モジュール1学習終了後、モジュール2～4の学習順序については、受講者の意思に任せているが、プレFDでは指定した順番で学習を進めるようにした。

<受講修了後アンケート調査結果概要（2025年2月実施分）>

2024年度熊本大学プレFDの受講修了後アンケート（修了者4名のうち4名）を実施し、以下、1）～2）の設問に対する回答を求めました。

1）オンラインプログラム（プレFD）の印象について

プレFDの内容について注意、関連性、自信、満足度の度合いについて7段階で回答を求めました。満足感については、全ての受講者が7と回答し、注意、関連性、自信については、各受講者それぞれ5～7と回答し、いずれも肯定的な反応を示しました。各設問の回答理由は以下の通りです。

A：注意	・これまで私が持っていた授業設計の考え方をひっくり返していただきました ・ブレイクアウトルームでのディスカッションがあったことで、メンバーの方と共感できること、自分の考えがブラッシュアップされることが多くありました ・事前学習ではテスト問題の内容にややジレンマを抱えながらも、対面授業に出ると少しずつ学びが深まり、最終回では非常に興味深い内容だった ・もっと知りたい意欲を掻き立てられる授業でした
R：関連性	・完璧にシラバスを作ったと思っても、毎回学び終わるたびに改善点がみつかりました ・現在、学生という立場で、講義にはTAとしてしか参加していないため、アカデミックなポジションを目指す機会はまだ先になると思います。ですが、TAとして学生と接する時にどのようなフィードバックをしてあげるとよいのか、また大学の授業だけでなく、実験を教えるときの効果的な方法などを知ることができたと思います。 ・シラバス修正の回数が多すぎた。事前テストは時間がかかり、ちょっと苦痛だった ・自身の悩みにフィットした内容でした
C：自信	・かなりシラバスを考えて作りこんだので、明日にでも授業できそうな気持です ・講義が終わった今でも、確認テストで満点を取れる自信がありません...ですが、以前よりも知識として頭に入ったことは多いと思います ・実際に科目を担当してみないとわからない ・一つずつやることで理解が深められた
S：満足感	・自分の学部生時代にこのような教育を受けたかったと思いました。現在の大学生に「川本先生の授業を受けてよかった」と思ってもらえるよう、学習を続けます。 ・自分のこれからの「教え方」にフィードバックできる点が多くありました。母親は看護学校で教員をしています。が、授業設計などで悩んでいることを聞いていたため、これからより共感できた理、今回のFDを通して学んだことを共有できたりできそうです ・中途半端な教員経験によって誤認しているところが多いと思うので、参加者や先生のコメントをいただくことで、教員としての謙虚さを今一度確かめることができた ・コメントもいただけたことで、今後の課題まで明確にできた。

「シラバス修正の回数が多すぎた。事前テストは時間がかかり、ちょっと苦痛だった」、「実際に科目を担当してみないとわからない」との意見については、今後、事前テストの改善を行い、シラバスの修正だけではなく、シラバスを発表する等、授業に対する自信をつけるための支援を検討します。

2) 受講希望の理由と目標達成性

プレFDの受講理由として、4名の受講者が「自身のキャリアのため」、2名の受講者が「自身が受け持つ（予定の）科目改善のため」、その他、「「教える」ということに興味があったため（塾講師のアルバイトで教える経験をしてきたが、どのような教え方が効果的なのか知りたかったから）」、「今は学生教育と離れた仕事をしているので、教育観を磨くために受講した」との回答も見られました。受講理由の達成に最も寄与した学習内容について、「モジュールCの「教え方」、自分の中の様々な「教える」場面への応用がイメージできました」、「教員採用試験に関すること、協同学習」、「学修目標や授業方法の設定に関する考え方教育設計の考え方がイメージしやすかった」、「これまで、もれなく教えることが学生が自ら学ぶチャンスを奪うことになるという意識は少なかったです。「教えない教員と自ら学ぶ学生」の重要性が理解できました。実践に向けてより具体的な授業方法を学びたいと思います」との回答を得ました。また、本プログラムの学習で身についたと感じた知識・スキルに関して、「ストーリー中心型カリキュラムは、リアリティショックの低減にもつながるのではないかと思います。失敗が許される学習環境、何度でも再現でき、繰り返し経験を積めることで実践で使える学びができると思います。授業に取り入れたいです」、「今まで授業を受ける側だけでしたが、TAとしてアドバイスをするようになって、「何となく教える」ではだめなのだと思います（当たり前ですが）。また、実際にTAをしている授業を、自分が担当教員になったと想定してシラバスや授業設計を考えた経験は、教員の大変さを実感する機会となり、今後、様々な授業や講演会を受ける中で「何を伝えたいのか」「教員はどのようなことをできるようになってほしいのか」考えることができるようになると思います」、「事前課題の提示と授業開始時の小テストの活用の仕方。グループワークの活用法。教えない授業をするためのシラバス・評価の提示の重要性。教えない授業ほど、時点提示とフィードバックが重要」、「出口を明確にすることで、学習目標や内容の設計ができることを学び、具体的かつ学生にもわかりやすい・取り組みたいと思える設計を行うための知識がついた」との回答を得ました。

「授業改善サポーター養成講座」での取り組み

文部科学省「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進事業」の一環として、一般社団法人全国専門学校教育研究会が主催する「授業改善サポーター養成講座」への協力要請を受け、令和5年度より科目デザイン編のコンテンツを使用した講座を実施しました。2024年度は12名が参加し、以下の概要と日程で実施されました。

目標	・ 授業改善サポーターとして、各種ツールを活用して授業改善のための他者へのコンサルテーションを行うことができる。 ・ 自校における授業コンサルテーションの普及を目指した施策を、個人レベル、組織レベルで提案することができる。 ・ 授業改善サポーターとして相談し支援し合えるコミュニティを形成する。
対面学習 日程	【オリエンテーション】10月15日（火）15：00～16：00（オンライン）
	【第1回】11月5日（火）13：00～16：00（福岡にて対面実施）
	【第2回】11月26日（火）15：00～18：00（オンライン）
	【第3回】12月17日（火）15：00～18：00（オンライン）
参加対象	インストラクショナルデザインの基礎知識をもち、授業改善サポーターとして、他者に対してコンサルテーションを行い、自校での教育改善に寄与しようとする教職員（昨年度受講履歴のある者も受講可）
定員	12名
福岡会場	リファレンス駅東ビル貸会議室 会議室会議室C 〒812-0013 福岡市博多区博多駅東1丁目16-14 リファレンス駅東ビル7F

オリエンテーションでは、科目デザイン編コンテンツの紹介と学習方法についての説明を行い、各回の対面学習までに、コンテンツの学習に加え、授業改善活動分析レポートおよび授業シラバス案の提出を事前課題として求めました。

対面学習では、提出された課題をもとに、コンテンツで学んだ授業方法・評価方法・学習目標を、自身の授業改善や授業サポートにどのように活用できるかについて、グループで議論を行いました。その後、各グループによる発表と教員からのフィードバックを実施しました。

対面学習後にはアクションプランを事後課題として提出させ、次回の対面学習までの具体的な行動計画を立ててもらいました。第2回および第3回の対面学習では、実際に計画通りに行動できたか、どのような成果が得られたのか、また発生した課題への解決策についても議論を行いました。

＜受講修了後アンケート調査結果概要（2024年12月実施分＞

講座終了後に、授業改善サポーター養成講座【科目デザイン編】研修直後アンケート（受講者12名のうち8名）を実施し、以下、1）～2）の設問に対する回答を求めました。

1）科目デザイン編コンテンツの印象について

コンテンツ内容について注意、関連性、自信、満足感の度合いについて7段階で回答を求めました。注意と満足感については、全ての受講者が6、または7と回答し、関連性については、受講者1名が5、受講者2名が6、受講者5名が7と回答しました。また、自信については、受講者1名が4、受講者3名が5、受講者1名が6、受講者3名が7と回答し、他の項目よりもやや低い数値を示しました。各設問の回答理由は以下の通りです。

A：注意	・IDの知識を深く知ることができて視野が広がったため ・授業の質向上に向けた取り組みに大変興味があり、個人的に突き詰めていきたい分野の学習だったため ・配布資料と動画コンテンツ、練習問題など自分で学べるシステムが良かった ・現在担当している業務に大いに関係していることから ・今年度配属された分掌の業務に合致した内容だったため ・教育に関する理論を学べたからです ・書籍ではわかりにくい点を理解することができた ・自身の授業設計に苦勞している為、具体例やアイディアが知れて良かった
R：関連性	・普段携わっている教育について見直す一歩となったため ・新しい知識も多く、後輩の先生に伝えるにあたってもうまく言語化できていなかったことが体系化されており、学びが多かった ・自らの業務に合った内容だった ・新たな発見や気づき、学びが多くあった ・実際に現場で使える具体的な内容も学べたから ・復習問題は難しかったですが、到達度も確認できたからです ・実際に始動させる起爆剤となった ・各課題が一人ではなくグループで出来た為、やりがいを感じる事が出来た
C：自信	・立場上、研修の内容をすぐに実践に移すことができるわけではないが、知識という点で視野が広がったため ・授業の手法が体系化されており、既にできていること、できていないことが明確となったため ・できていない部分も明確になった ・学んだことを実践できていないから ・課題のやりこみが足りておらず理解不足の点が多く残ってしまったため ・教育に関して物事を見る時に、知識の裏付けができたからです ・独学で進めてきた実践に対して自身がもてた ・問題もあり、グループでのシェアもあった為、自分の理解が間違いでないことを確認できた
S：満足感	・新たな知識を取り入れることができたとともに、他校の教員とつながることができたため ・他の教員の先生方に伝えたいと思える内容であったため ・様々な学びがあった ・新たな人脈を築くことができた ・自身が実践していた内容も見直すことができたから ・モジュールA・B・Cの講義と具体例が良かったからです ・実践での疑問点に対してアドバイスいただけた ・仕事に直結する内容が多かった為、今後使っていこうと感じた

2) 各モジュールの学習内容について

各モジュールの学習内容について受講者の意見を求めました。モジュール1「大学教育に関する5つの物語」について、「この導入が一番感動しました」、「大学教職員の先生方には普通に当たり前に思うことも、専門学校職員には意外に思うことが多かったです」などの意見があった一方で、「モジュール全体を通して、理解が及ばない点があったため、具体的な事例をもう少し増やしてほしいかった」、「動画の文字おこしをしていただけると助かります」など、事例やコンテンツ機能改善に関する意見がありました。

モジュール2「認知的発達を促す授業方法」では、「とても勉強になりました。素晴らしいアイデアと教材です」、「特にありません。勉強になりました」などの意見があった一方で、「反転授業の具体例や、導入のヒントなど、「話すのは1割」の部分について、実施できる自信のつくコンテンツが別にあると、理解が深まると感じた」、「法律系、看護福祉系、IT系以外の教職員の先生は、事例がわかりにくかったかもしれません」などの意見が見られました。

モジュール3「評価と単位認定の見直し」では、「とても勉強になりました。素晴らしいアイデアと教材です」などの意見があった一方で、「ルーブリックの評価軸のサンプルやポートフォリオの記載例について、資料提供があると非常に助かると感じました」、「IT系と看護系の例題は、人文科学・社会科学が専門の私には難しいです」との意見が見られました。

モジュール4「学習目標の高度化」では、「モジュールA、Bと比較すると、少し抽象的な表現になっており、毎時間の授業で意識するというよりは、部分的に活用することを意識しておく項目が多かったと感じました。AとBとは切り分けて、別のカテゴリーの内容にすると理解しやすいと感じました」や「7つのアイデアの6～7の問題での判別は苦労しました」など、テスト内容に関する意見が見られました。

これらの回答結果を受け、今後、字幕付与などのコンテンツ機能の改善は勿論、より詳細な資料と多様な事例提供を行うことを検討します。また、テスト問題に置いては、2025年2月に修正作業完了に伴い、改善版のテストに差し替えて来年度の実施に備えます。

「自律学習支援編」の有料版運用

履修証明制度による講座提供を開始した「科目デザイン編」の続編として、「自律学習支援編」の提供を開始しました。大学生の自律的な学びを支援するために授業にどのような要素を盛り込むことができるかについて、様々なICT活用のヒントを提供するとともに、『学習設計マニュアル』を教員の立場から読み進めていくというコンセプトで整備を進めてきました。令和2年度に無料版を公開し、本年度は、有料版第4期を募集し、1名の方が修了されました。

教育改善スキル修得オンラインプログラム（自律学習支援編）
<https://kyoten1.cica.jp/moodle2/>

日本語 (ja) ログイン

教育改善スキル修得オンラインプログラム（自律学習支援編）

ホーム画面

初めてアクセスされた方へ

本教材へようこそ。まず、右のボタンをクリックして、このプログラムの学習の進め方を一緒に確認しましょう。

学習の進め方

モジュール1：学生が自分の学びと向き合うきっかけをつくる

モジュール1では、学生の自律学習を支援するための第一歩として、学生に自分の学びと向き合うきっかけをつくるための7つの提案をします。「大学での学び方」を教えるために、「自分の科目で何ができそうか」を考えてみましょう。

アクセスする
要ログイン

モジュール2：自学自習を促すICT活用

モジュール2では、学習者に自学自習を促すためにICTで何ができるのか、その手段を学び、実際にICTを導入した授業設計ができるように学びます。

アクセスする
要ログイン

モジュール3：学生が学び合う場をつくる

モジュール3では学習者に学びの場を提供するアイデアを学び、それを取り入れた授業設計ができるように学習します。

アクセスする
要ログイン

モジュール4：学生を自己調整学習者に育てる

モジュール4では、学習スキルのノウハウを学び、学習者に対し、そのスキルを学ばせる機会を授業内でどのように提供していくのが設計できるように学びます。

アクセスする
要ログイン

旧モジュール1「大学教育に関する5つの物語」はこちら

ナビゲーション

ホーム画面へ戻る

進捗管理画面へ戻る

学習状況証明書を発行（無料ユーザー向け）
証明書はいつでも発行可能

学習状況証明書を発行（有料ユーザー向け）
有料ユーザーのみアクセス可能です。

関連サイト

本プログラムは、熊本大学教授システム学研究センターが運営しています。

RCIS 教授システム学研究センター
Research Center for Instructional Systems

熊本大学大学院 工学系研究科 教授システム学専攻
社会文化科学研究科 教授システム学専攻

ご意見はこちら

図：教育改善スキル修得オンラインプログラム（自律学習支援編）トップ画面

プログラムの学習内容（有料版と無料版）

科目デザイン編同様、無料版の学習者は各モジュールで知識を学習、自身が学習したことを身につけることができたのかを確認するクイズを受験することができます。

一方、有料版学習者に対しては、無料版の範囲に加え、自身の担当科目の修正案に関する他の学習者とのディスカッション、教員による添削が受けられる課題提出まで提供されます。また、有料版学習者に対しては2回の対面学習が開催され、各対面学習では学習者がモジュールを学習しているときに感じた疑問点を共有、議論する機会を設けています。

各モジュールで学習しながら自身の担当科目を修正することで、本プログラムの修了後、すぐに改善した状態の自身の科目を実施できるようにしています。

表：各モジュールの対象者及び内容

モジュール名	対象者	内容
オリエンテーション	有料版	各モジュールの学習を始める前に、学習環境の準備や自己紹介をしましょう。
モジュール1 学生が自分の学びと向き合う きっかけをつくる	無料版 有料版	学生の自律学習を支援するための第一歩として、学生に自分の学びと向き合うきっかけをつくるための7つの提案をします。「大学での学び方」を教えるために、「自分の科目で何ができそうか」を考えてみます。
モジュール2 自学自習を促すICT活用	無料版 有料版	学習者に自学自習を促すためにICTで何ができるのか、その手段を学び、実際にICTを導入した授業設計ができるように学びます。
モジュール3 学びの場を作る（学びの場の提供）	無料版 有料版	学習者に学びの場を提供するアイデアを学び、それを取り入れた授業設計ができるように学習します。
モジュール4 学生を自己調整学習者に育てる	無料版 有料版	学習スキルのノウハウを学び、学習者に対し、そのスキルを学ばせる機会を授業内でどのように提供していくのか設計できるように学びます。
モジュール5 最終課題	有料版	モジュール1からモジュール4で学習したことを振り返り、自身の科目を修正します。

アクセス数

2024年3月から2025年2月までの訪問者数（IPアドレス）、各モジュールの無料版プログラムの学習を修了し、デジタルバッジを取得した学習者の数は以下の通りです。

モジュール名	訪問者数（IPアドレス）			無料版プログラム： デジタルバッジ取得者数		
	2022	2023	2024	2022	2023	2024
モジュール1：学生が自分の学びと向き合うきっかけをつくる	37	32	12	3名	2名	1名
モジュール2：自学自習を促すICT活用	18	15	16	3名	2名	1名
モジュール3：学びの場を作る（学びの場の提供）	15	8	6	3名	2名	1名
モジュール4：学生を自己調整学習者に育てる	13	9	5	3名	2名	1名

受講後アンケート調査の結果

教育改善スキル修得オンラインプログラム 自律学習支援編（第4期）の受講直後アンケート（修了者1名のうち1名（バッジ取得者のうち100%））では、以下、1）～4）の設問に対する回答を求めました。

1）各モジュールの学習内容について、何か改善してほしい点があれば教えてください。

改善点については「特になし」との回答を得ました。

2）学習を促すメールとして各キックオフミーティングや対面学習の前に学習を促すメールを配信しました。これらはあなたの学習の進捗に役に立ちましたか？

受講者の解答は「役に立った」であり、その理由として、「学習を進めるペースメーカーになりました計画的に進めるためにわかりやすく説明してくださり助かった」の回答を得ました。

3）オンラインプログラムについて、どのような印象を持ちましたか？

オンラインプログラムの印象について、ARCSモデルの各要素別に1～7段階で回答を求めました。

【A：注意】回答者が7段階中7を選択し、その理由として、「今まであやふやだった知識が何であったかがわかった。また、どのようなことを学べばよいかわかった自分の課題に対応した内容だったため」との回答を得ました。

【R：関連性】回答者が7段階中7を選択し、その理由として、「実際に行っている講義に対する内容だったので」との回答を得ました。

【C：自信】回答者が7段階中7を選択し、その理由として、「具体的なアイデアや方法を教示して頂けたため」等の回答を得ました。

【S：満足感】回答者が7段階中7を選択し、その理由として、「疑問に思っていたこと等に具体的に回答して頂けたので」等の回答を得ました。

6ヶ月後追跡調査の結果（有料版）

教育改善スキル修得オンラインプログラム自律学習支援編（第3期）の修了者を対象とした6ヶ月後追跡調査（修了者2名のうち1名（バッジ取得者のうち50%）では、オンラインプログラムの内容をどの程度覚えているか(記憶度)、また受講後の業務にどの程度役立っているか(有益度)についての回答を求めました。記憶度・有益度について、モジュール1～5の項目で「覚えている」「少し覚えている」、「役立っている」、「少し役立っている」と回答し、記憶度・有益度ともに、「覚えていない」「役にたっていない」という回答が過半数をこえた項目はありませんでした。

<6ヶ月後追跡調査結果概要（2024年9月（第3期）実施分）>

オンラインプログラムで学んだことをもとに、自分が従事する教育事例の改善に取り組んだかの設問については、受講者から改善に取り組んだとの回答を得ました。アクションプランの実行状況とIDを活用した教育改善への取組状況、そして、具体的にどのような取り組みをされたのかについて、「グループ学習、発表の機会を多くして教員はあまりしゃべらない方針とした」と回答し、どのような成果を収めたのかについては「学修の楽しさを感じたとのコメントを貰った」との回答を得ました。

共同利用拠点事業⑥

FD活動デザイン編

本センターでは2021年から、
FD活動の設計について学習するオンラインプログラム
「教育改善スキル修得オンラインプログラム-FD活動デザイン編-」
を開発・公開しています。

本年度の取り組みの概要

2024/04/18 | その他

人文・社会 / 教育工学

【熊本大学】大学教育を変えるFD研修を実現させます！！オンラインプログラム『FD活動デザイン編』有料版受講者（第3期）募集開始

山下 藍 喜多 敏博 合田 美子 鈴木 克明

形だけのFD研修をやめて大学の教育改革に直結したFD研修を実現させませんか。大学教育を変えるFD研修の設計と実践方法を教えます！！FD研修に携わる皆様のご応募を心よりお待ちしております。

- ◆対象者：高等教育機関でFDを担当、もしくは担当を予定している大学教職員
- ◆定員：10名（2024年度）
- ◆受講料：60,000円（履修証明書の発行手数料を含む）

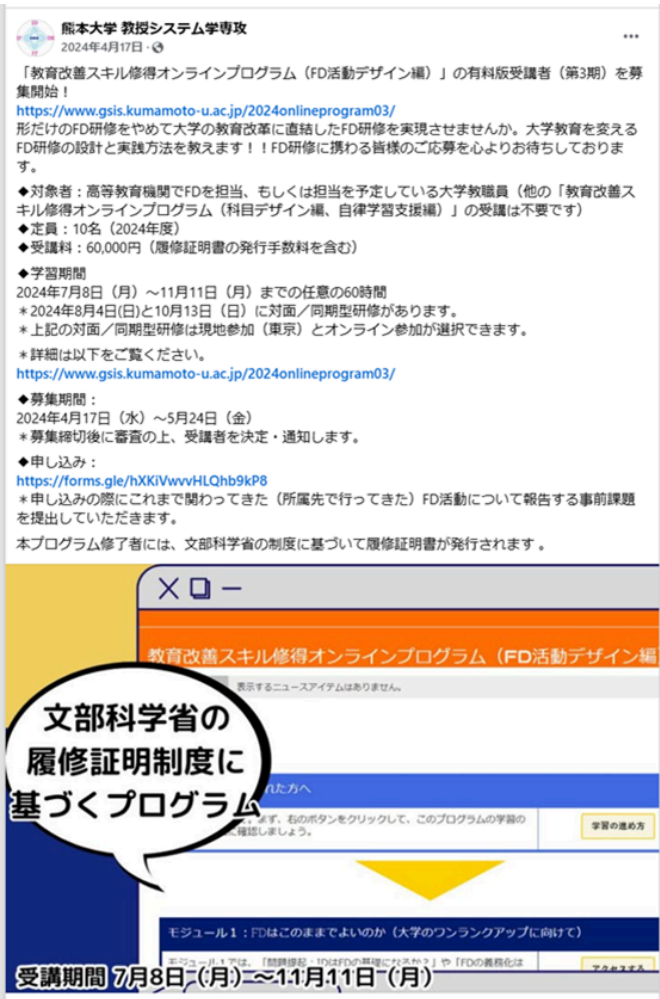
◆学習期間
2024年7月8日（月）～11月11日（月）までの任意の60時間
* 2024年8月4日（日）と10月13日（日）に対面／同期型研修があります。
* 上記の対面／同期型研修は現地参加（東京）とオンライン参加が選択できます。

* 詳細は以下をご覧ください。
<https://www.gsis.kumamoto-u.ac.jp/2024onlineprogram03/>

◆募集期間：
2024年4月17日（水）～5月24日（金）
* 募集締切後に審査の上、受講者を決定・通知します。

◆申し込み：
<https://forms.gle/hXKiVwvHLQhb9kP8>
* 申し込みの際にこれまで関わってきた（所属先で行ってきた）FD活動について報告する事前課題を提出していただきます。

図：FD活動デザイン編受講者募集を告知するresearchmapでのプレスリリース



図：FD活動デザイン編受講者募集を告知するFacebookページ投稿（2024/4/17）

表：SNSなどを使ったPR施策

2024年3月11日	YouTube 熊本大学教育改善スキルオンラインプログラムFD研修デザイン編のご紹介
2024年4月17日	ウェブサイトお知らせ：FD活動デザイン編有料版受講者（第3期）募集のお知らせ
2024年4月17日	Facebook投稿4/17募集開始熊本大学 教育改善スキルオンラインプログラムFD研修デザイン編
2024年4月18日	Researchmap【熊本大学】大学教育を変えるFD研修を実現させます！！オンラインプログラム『FD活動デザイン編』有料版受講者（第3期）募集開始
2024年4月18日	IDマガジン【ご案内】教育改善スキル修得オンラインプログラム（FD活動デザイン編）有料版受講者（第3期）募集のお知らせ

履修証明プログラム第3弾として、FD担当教職員向けの新たな講座「FD活動デザイン編」の提供を開始しました。本プログラムは、令和2年度末に発出した「オンライン教育の新たなモデルの構築に向けた提言」および「FD活動の客観的な成果分析の枠組みについての提言」の内容を踏まえて、コロナ禍後を見据えたオンライン教育を定着・発展させることができる教職員の育成を試みています。令和4年に無料版を公開し、本年度は有料版第3期を募集し、2名の方が修了されました。

教育改善スキル修得オンラインプログラム（FD活動デザイン編）

<https://kyoten1.cica.jp/moodle3/>

日本語 (ja) ログイン

教育改善スキル修得オンラインプログラム（FD活動デザイン編）

ホーム画面

初めてアクセスされた方へ

本教材へようこそ。まず、右のボタンをクリックして、このプログラムの学習の進め方を一緒に確認しましょう。

学習の進め方

モジュール1：FDはこのままでよいのか（大学のワンランクアップに向けて）

モジュール1では、「問題提起：IDはFDの基礎になるか？」や「FDの義務化はどのように始まり何をもたらしたか」といった観点から、FDに関する5つの物語を学習します。

アクセスする
アカウントなしで閲覧可能

モジュール2：FD活動のKPI（評価指標）：FD活動をアピールするための7つの提案

FD活動のKPI（評価指標）として、どのようなデータを収集・評価すべきかについて学習します。

アクセスする
*要ログイン

モジュール3：FD研修のバージョンアップ：年1回の講演会を超えるための7つの提案

年1回、イベント型で行うFD研修ではなく、「事前資料付講演（反転授業型）」や「事前課題＋アクションプラン作成」といったFD研修の7つのアイデアについて学習します。

アクセスする
*要ログイン

モジュール4：ラーニングコモンズの活動を設計する：授業以外の学習支援の7つの提案

モジュール4では授業以外の学習支援として、「チューター研修と認証」や「参考文献よりもジョブエイド」といった7つのアイデアについて学習します。

アクセスする
*要ログイン

図：FD活動デザイン編のトップ画面

プログラムの学習内容（有料版と無料版）

無料版の学習者は各モジュールで知識を学習、自身が学習したことを身につけることができましたのかを確認するクイズを受験することができます。

一方、有料版学習者に対しては、無料版の範囲に加え、自身の担当研修の修正案に関する他の学習者とのディスカッション、教員による添削が受けられる課題提出まで提供されます。また、有料版学習者に対しては2回の対面学習が開催され、各対面学習では学習者がモジュールを学習しているときに感じた疑問点を共有、議論する機会を設けています。

各モジュールで学習しながら自身の担当研修を修正することで、本プログラムの修了後、すぐに改善した状態の自身の研修を実施できるようにしています。

表：各モジュールの対象者及び内容

モジュール名	対象者	内容
オリエンテーションモジュール	有料版	各モジュールの学習を始める前に、学習環境の準備や自己紹介をしましょう。
モジュール1：FDはこのままでよいのか（大学のワンランクアップに向けて）	無料版 有料版	「問題提起：IDはFDの基礎になるか？」や「FDの義務化はどのように始まり何をもたらしたか」といった観点から、FDに関する5つの物語を学習します。
モジュール2：FD活動のKPI（評価指標）：FD活動をアピールするための7つの提案	無料版 有料版	FD活動のKPI（評価指標）として、どのようなデータを収集・評価すべきかについて学習します。
モジュール3：FD研修のバージョンアップ：年1回の講演会を超えるための7つの提案	無料版 有料版	年1回、イベント型で行うFD研修ではなく、「事前資料付講演（反転授業型）」や「事前課題＋アクションプラン作成」といったFD研修の7つのアイデアについて学習します。
モジュール4：ラーニングコミュニティの活動を設計する：授業以外の学習支援の7つの提案	無料版 有料版	モジュール4では授業以外の学習支援として、「チューター研修と認証」や「参考文献よりもジョブエイド」といった7つのアイデアについて学習します。
モジュール5：最終課題	有料版	モジュール1からモジュール4で学習したことを振り返り、現状をワンランクアップするためのアクションプランを作成します。

アクセス数

2024年3月から2025年2月までの訪問者数（IPアドレス）、各モジュールの無料版プログラムの学習を修了し、デジタルバッジを取得した学習者の数は以下の通りです。

モジュール名	訪問者数（IPアドレス）			無料版プログラム： デジタルバッジ取得者数		
	2022	2023	2024	2022	2023	2024
モジュール1：FDはこのままでよいのか（大学のワンランクアップに向けて）	188	100	12	23名	1名	2名
モジュール2：FD活動のKPI（評価指標）：FD活動をアピールするための7つの提案	39	11	7	14名	1名	2名
モジュール3：FD研修のバージョンアップ：年1回の講演会を超えるための7つの提案	38	13	5	19名	2名	2名
モジュール4：ラーニング commonsの活動を設計する：授業以外の学習支援の7つの提案	37	13	10	18名	1名	2名

受講後アンケート調査の結果

教育改善スキル修得オンラインプログラムFD活動デザイン編（第3期）の受講直後アンケートと1カ月後アンケート（修了者2名のうち2名（バッジ取得者のうち100%）では、以下、1）～7）の設問に対する回答を求めました。

1）各モジュールの学習内容について、何か改善してほしい点があれば教えてください。

「クイズが難しかったです。特に、提案2,3,5で間違えることが多かったです。自分が苦手だったということもありますが、判断理由や根拠がより明確だとありがたいと思いました」など、モジュール2の力試しテストに関する回答が見られました。今後、力試しテストの修正を実施します。

2）学習を促すメールとして各キックオフミーティングや対面学習の前に学習を促すメールを配信しました。これらはあなたの学習の進捗に役に立ちましたか？

回答者が「役に立った」と回答し、その理由として、「自分が何をしなければならないか明確になったので役に立ちました」、「対面学習までになかなかコースを勧められずに進捗が滞っていたため、メールをきっかけに再開することができました」との回答を得ました。また、「対面学習の後に記録を送っていただいたのが、とても活用できました。対面学習でアドバイスいただいたことがその時にきちんと理解できておらず、後日記録を確認してあらためて理解できることがありました。また記憶が新しいうちに送ってくださったことも大変助かりました」との回答を得ました。

3）オンラインプログラムについて、どのような印象を持ちましたか？

オンラインプログラムの印象について、ARCSモデルの各要素別に1～7段階で回答を求めました。

【A：注意】回答者が7段階中7を選択し、その理由として、「知らないことを多く学べたから」、「ほとんど知識がない状態で受講したので得ることが多かった」との回答を得ました。

【R：関連性】回答者が7段階中7を選択し、その理由として、「担当するFDの改善について検討することができたから」、「本プログラムを受けた後に実際にFDを企画する予定があったため、修得した内容を具体的にイメージすることができた」との回答を得ました。一方で、1名の回答者からテストの難易度が高かったという意見もありました。

【C：自信】回答者が7段階中7、6を選択し、その理由として「改善案の根拠を示すことができるようになったから」、「力試しテストを繰り返し解くことで実践的な活用例が身についたと感じた」との回答を得ました。

【S：満足感】回答者が7段階中7を選択し、その理由として、「FD活動に関して自分の成長が実感できたから」、「FD活動を見直すきっかけになった」との回答を得ました。

4）修了証明書（電子版）は今後、どのような目的で利用しますか？

2名中、1名の回答者が「将来、就職先等に提示することで自身の学びをアピールする」目的で利用すると回答し、1名の回答者が「自身の学びを振り返るために利用する」目的で修了証明書（電子版）を利用すると回答しました。

5) ポートフォリオの利用目的を教えてください。

2名中、1名の回答者が「自身の学びを振り返るために利用する」、「将来、就職等に提示することで自身の学びをアピールする」目的でポートフォリオを利用すると回答し、1名は「特に利用する予定はない」と回答しました。

6) 学びに最も寄与した学習内容を教えてください。

本プログラムの学習を通し、どの学習内容が学びに最も寄与したと感じているのか、その一部を紹介します。

- 「モジュール3．FD研修のバージョンアップ」です。「外部講師招聘によるワークショップ」以外の形式について他大学の事例を参考にできて有意義だった。
- 最も寄与した学習内容は「モジュール2．FD活動のKPI（評価指標）」です。FDを改善するために必要なステップについて理解を深めることができました。特に提案1，4，6は改善に向けてどのように再設計すればよいのか、自分の仕事に照らし合わせて考えることができたので良かったです。先生や受講生からの意見をお伺いできたことも大変参考になりました。
- 秋に予定していたFD研修を企画するために受講した。目的の達成に最も寄与したのはモジュール2の「行動変容を促すようなFD活動に再設計する」である。特に「行動変容を意識したすぐ使える研修内容にする」「内部講師を登用する」は実際のFDで実行したところ、内部講師による身近な話題に興味を持ってもらえ、さらにいくつかのすぐ行動できることを提示することで参加者の意識変化を促すことができた。

7) 本プログラムの学習で身についたと感じた知識・スキルと感じたものがあれば教えてください。

本プログラムの学習を通し、受講者がどのような知識・スキルが身についたと感じているのか、その一部を紹介します。

- 以下のような知識・スキルを身に着けることができたと感じています。
 - ・FD活動の調査方法（文献や論文）
 - ・ラーニングコモンズの改善方法（現在の業務外の内容でしたが、学習支援という観点で大変勉強になりました。）
- モジュール4では授業以外の学習支援について学んだが、すでに所属大学ではほとんどが設計済みであった。制度や施設の存在は耳にしているてもその目的までは理解できていなかったが、本プログラムで体系的に学ぶことができた。今後はもっと自身の担当する授業との関わりや新しい支援について提案していきたい。

6ヶ月後追跡アンケート調査の結果

教育改善スキル修得オンラインプログラムFD活動デザイン編（第2期）の修了者を対象とした6ヶ月後追跡調査（修了者1名のうち1名（バッジ取得者のうち100%）では、オンラインプログラムの内容をどの程度覚えているか（記憶度）、また受講後の業務にどの程度役立っているか（有益度）についての回答を求めました。記憶度・有益度について、対象受講者がモジュール1～5の項目で「よく覚えている」、「少し覚えている」、「役立っている」、「少し役立っている」と回答し、記憶度・有益度ともに、「覚えていない」「役にたっていない」という回答はありませんでした。

<6ヶ月後追跡調査結果概要（2024年7月（第2期）実施分）>

最終レポートで作成したアクションプランを計画通り実行したか回答を求めた結果、1ヶ月と6ヶ月の計画は、計画通りに実行したと回答しました。1ヶ月計画の成果について、「SD研修の講師として担当する際、企画担当と事前に相談し、実務上困っていることを聞き出し、その課題解決に応じていく内容を中心に据えた（「お困りごと解決セッション」を採用）」、「なお、計画ではアンケート実施とあったが、より生の声を引き出すため、企画担当の職員が聞き取る方式に変更した」との回答を得ました。また、6ヶ月計画の成果について、「本学においてFDを担当する部署に知己を得て、その部署が企画するいくつかのFD研修や企画に協力しつつ、他部署・学部学科のFDの現状について知見を広げている」、「LMS活用教員Teams、BYODのお悩み相談Teamsなど、オンラインFDサロン活性化に向けて、積極的な発言を行っている」との回答を得ました。一方で3ヶ月は計画通りに実施できなかったと回答しました。その理由として、「所属部署のFD研修として、より実践的な授業改善ワークショップ（まな板のコイ方式）を企画したが、多忙にかまけ、計画にあった継続的フォローアップができなかった」とのことですが、今後の方向性として「オンラインサロン方式を併用して、非同期的に・気軽に・継続的にコメントしあえる環境を構築していきたい」との回答を得ました。

オンラインプログラムで学んだことをもとに、自分が従事する教育事例の改善に取り組んだかの設問については、受講者から改善に取り組んだとの回答を得ました。アクションプランの実行状況とIDを活用した教育改善への取組状況、そして、具体的にどのような取り組みをされて、どのような成果を収めたのか、その事例を紹介します。

表：6ヶ月追跡調査によって報告された取り組み事例とその成果

改善内容	改善結果
SD研修において、受講する職員が実際に悩んでいることを事前に聞きだし、その課題を具体的に解決することを主軸とした（受講者が実際に手を動かす実習を含む）。資料は豊富に用意したが研修の場ですべてを説明しようとせず、取りあげた課題解決に関わる場所との参照を示すにとどめた。	担当したSD研修の受講者からは、難しかったがやりがいがあったとの声が得られ、業務時間を割いて研修に参加しただけのお土産を提供できたのではないかと、一定の手ごたえを感じている。フォローアップをどう効果的効率的に実現するかが次の課題と認識している。

改善による周り（同僚、上司、組織全体等）の反応について、「所属部署外からのFDの講師依頼が増えたように思える」と一定の効果を得られた一方で、「所属部署内についてはまだ十分な賛同を得られていない（講演タイプのFDを好む方が比較的多い）ため、うまく仲間を増やしていきたい」との回答を得ました。

共同利用拠点事業⑦ ラーニングテクノロジー ワークショップ

本センターでは2021年から、
ラーニングテクノロジーについて学習するワークショップを
実施しています。

本年度の取り組みの概要

本取り組みでは、教育のオンライン実施がコモディティ化したことを土台として、従前の教育形態では実現できなかった教育やFDを実現するためのラーニングテクノロジー（人工知能技術やラーニングアナリティクス等）活用方法を実習形式で学ぶことのできるワークショップを大学教員向けに実施しました。

本年は、特に、公開講座のひとつとして「GSIS公開講座 AI・ラーニングテクノロジー活用」を開始し、広く継続的に教育を提供していける仕組み化を目指しました。

そのほか、国内で最も利用されているLMSであるMoodleの最新動向など、近年、高等教育で利用され始めている技術について学習する講習会やワークショップを実施しました。

2024年度：ワークショップ一覧

以下のワークショップを開催しました。Zoomによるオンライン開催にて、全国から多くの教員・職員等が参加しました。

表：2024年度ワークショップ一覧

日時	タイトル	概要	参加人数
2024年9月2日 (月) 2024年9月15日 (日)	GSIS公開講座 AI・ラーニングテクノロジー活用	開催方法： Zoom 主催：熊本大学 大学院 教授システム学専攻／教授システム学教育実践力開発拠点 タイムテーブル： 13:00-13:10 オープニング 13:10-14:40 ワーク1（スプレッドシートでAI） 14:50-16:30 ワーク2（Jupyterノートブック） 16:30-17:00 全体振り返り 全体質疑	9月2日 28名 9月15日 39名
2024年12月14日 13:30 – 15:00	GSIS-LT 連続WS(第7回)「Moodle4.5標準の生成AI機能と拡張」	Moodleは、国内大学をはじめ世界中でオンライン学習に利用されているオープンソースLMSです。2024年10月に公開されたMoodle4.5 には、生成AIを利用した文章生成、画像生成、コンテンツ要約の基礎的な機能が取り入れられており、生成AIサービスのAPIキーを設定すればすぐにその機能を利用することができます。これらのAI機能についての説明と、実際のMoodle4.5サイトでの実演を行います。また、プラグインのインストールやカスタマイズによる、小テスト	参加申込者 60名

		ト問題自動生成などのAI機能の追加についても実演を交えて紹介します。 開催方法：Zoom 主催：熊本大学 大学院 教授システム学専攻／教授システム学教育実践力開発拠点 タイムテーブル： 13:30-13:35 冒頭説明 13:35-14:00 Moodle4.5が備える生成AIを利用した機能 14:00-14:40 プラグインやカスタマイズによるAI機能追加 14:40-15:00 質問対応など	
2024年12月17日 14:30 - 16:00	立正大学 FD研修会 「今のAIは授業や仕事に役立つのか」	2010年代の人工知能の第3次ブーム以降、人間社会のあらゆる部分で人工知能を利用する機運が高まり、ブームの高まりもそのままに、2020年代に入り ChatGPTをはじめとする生成AIが急激に広まるなど、AIは一般人が普段いつでも利用できるものになりつつあります。AIの機能や利用方法を具体的な事例を見ていただくことで、それぞれがAIをどのように役立てることができそうかを考える時間にしたいと思います。 開催方法：Zoom 主催：立正大学 情報環境基盤センター 講演者：喜多敏博	参加者 20名
2025年2月3日～ 2025年3月31日 (受講期間)	eLPベーシック・eラーニングコース第63期「【7】生成AI活用入門」	生成AI技術と学習シーンでの利活用について学習します。生成AIの基盤となる技術に加えて、要約や教材の自動生成など、学びを支援するための生成AIの利活用事例を概観します。併せて、生成AI利用に係る倫理や法的課題についても紹介します。 開催方法：eラーニング 講座提供：デジタルラーニング・コンソーシアム 講演者：喜多敏博、戸田真志 https://www.elc.or.jp/topics/detail/id=4372#P7	受講者 74名 (国立大学1名、私立大学5名)

熊本大学
Kumamoto University

ホーム ID入門/応用編とは? AIラーニングテクノロジー活用とは? 参加申込

テクノロジー活用で実践力強化

2024年度 熊本大学 GSIS公開講座

AI・ラーニングテクノロジー活用

AI・LT活用 詳細
⇒ID入門編/応用編

GSIS公開講座 AI・ラーニングテクノロジー活用とは

本講座では、Excelや Google Spreadsheet のような既存ソフトからGPT-4oやGeminiなどの強力なAIモデルを呼び出す方法を学びます。また、Google Colab 上などでのJupyter ノートブックのサンプルも活用することで応用範囲を広げます。

オンラインテストの自動生成やレポート文書の自動分析を実際に体験しながら、AI技術の応用力を高めます。ワークショップでは、これらのAIツールを用いて教育効果向上や業務効率化を図る実践的な方法を専門家と共にディスカッションし、具体的な活用ケースの構築を目指します。

AI・ラーニングテクノロジー活用

講師：喜多敏博

対象者：

- ・普段の業務や教育実践にAIを応用することに興味のある方
- ・ChatGPTなどのAI技術を用いて教育効果向上や業務効率化を図ることに興味のある方

重要

AI・ラーニングテクノロジー活用はZoomによる同期型のオンライン研修の形で開催いたします。
また、講座当日の他、事前学習があります。

※事前学習のeラーニングおよびZoomによる同期型オンライン研修では、インターネット接続およびインターネットに繋がるパーソナルコンピュータ、および Googleアカウント（Gmailアドレスをお持ちならば大丈夫です）が必要です。各自、ご準備ください。また、ハンズオン式の実習で各自パーソナルコンピュータを操作しますので、ひとり一台のパーソナルコンピュータが必要です。マルチモニターなど操作しやすい環境のご用意をお勧めします。

図：「GSIS公開講座 AI・ラーニングテクノロジー活用」ウェブサイト
(<https://www.gsis.kumamoto-u.ac.jp/koukaikouza/ai.html>)

オンライン開催にて、全国から参加可能なため、より多くの見込受講者にリーチすべく、Facebookページの投稿機能やresearchmapのプレスリリース機能などを活用して、PRに務めた。



図：「GSIS公開講座 AI・ラーニングテクノロジー活用」をPRするFacebookページ投稿



図：researchmapのプレスリリースを活用した「GSIS公開講座AI・ラーニングテクノロジー活用」のPR

【AI・ラーニングテクノロジー活用編】 全受講人数：67名

各回共通：募集人数：48名 開講時間：13:00～17:00 時間数：4.0時間

No	講座名	開講日	会場名	受講人数
1	AI・LT編	9/2（月）	Zoom	28名
2	AI・LT編	9/15（日）	Zoom	39名

参加者の声（レベル1）

AI・ラーニングテクノロジー編へ参加された方からいただいたコメントの一部を、以下にご紹介します。

<AI活用に関すること>

- AIの基本的な部分は理解できた。AIをどのように活用できるかのイメージができた。
- 知らない知識を得ることができた。他の方の活用事例を見ることができた。
- まだ自分では活用はできないレベルだが、大まかにはどのようなことができるかは、理解できた。
- 知らない手法を具体的に知ることができた。ChatGPTなどがどのように回答しているのか仕組みを理解することができた。
- ハンズオンが豊富にあった点で、AIの活用方法に具体的な道筋を立てることができたところ
- スプレッドシート上で、そんなに複雑な知識が必要なく、ChatGPTとGeminiが使えることがわかったこと、ふつうだったら絶対触らないところを触って、新しい世界が広がったこと。
- スプレッドシートの演習は実務で活様するイメージが湧いた点、動画の文字起こしの方法が知れた点
- AI入門として適切だった
- AIに触れる点でよい経験時間となった
- AIを活用する契機になったこと、AIの活用方法について知ることができたこと
- エラーが結構出るということが分かった点
- 「活用」に注力したプログラムである過程について一通り学習することができたこと、コード・プログラミングの知識がない初心者がAIを使ったワークもできたこと
- 小テストの生成や文脈分析など、現実の業務に近い事例で実践できた点、生成AIの特性やちょっとしたコツなどをハンズオンを交えながら解説されていた点、関数の応用的な実践例などが示されており、その場で発展的な学習に取り組めた点
- 今回の講座に限らないが、これからは、約8割以上が、生成AIが必要となるという世間予測に対し、実感が持てたこと、（自分の今のリテラシーでは無理ですが）何かいろいろと使いそうなことを実演を通じて把握できたこと

<講座・資料・サポートに関すること>

- 質問がしやすい雰囲気だった
- Webではなく、ソフトウェア上で実務的なAPIキーの使い方が分かった。また、数値データや画像データではなく、文字データの取り扱いがあったのが良かった（個人的には数値データや画像データは取り扱いやすいが、文字データ（特に日本語）は取り扱いにくいと思っていたので）。
- eラーニングのサイト上の情報が充実していたところ。
- 他の受講者の試行結果を確認でき、アイデアをもらえた。事前課題は短時間で取り組みやすかった。
- 実際に使ってみることがよかった。活用例が提示されているところがわかりやすかった。
- 疑問を置き去りにされることはなかった
- 顔出しなしでマイペースでできた。
- 数式など今後、使えそうなものがあった。講習内容について事前に公開されていたので、予習ができた。予習をしなかったら、難しかったかもしれない。
- 事前課題があり準備してから参加できたこと
- 講師の操作画面を共有しながら学ぶことができた点（うまくいかない箇所も含めて）、事務局から丁寧なご案内や事前課題の説明を頂いた点
- 画面共有があったため、自身の画面と比較しながら取り組むことができた。終わりの時間がほぼ予定通りであった。
- 躓きがちな環境設定の方法が詳しくかつわかりやすく解説されていたため、スムーズに演習に取り組めた点、受講者のレベルに応じて個別サポートのブレイクアウトルームを設定するなど、オンラインでもきめ細やかな学習サポートがあった点

受講後アンケートの結果（レベル2：主観的評価）

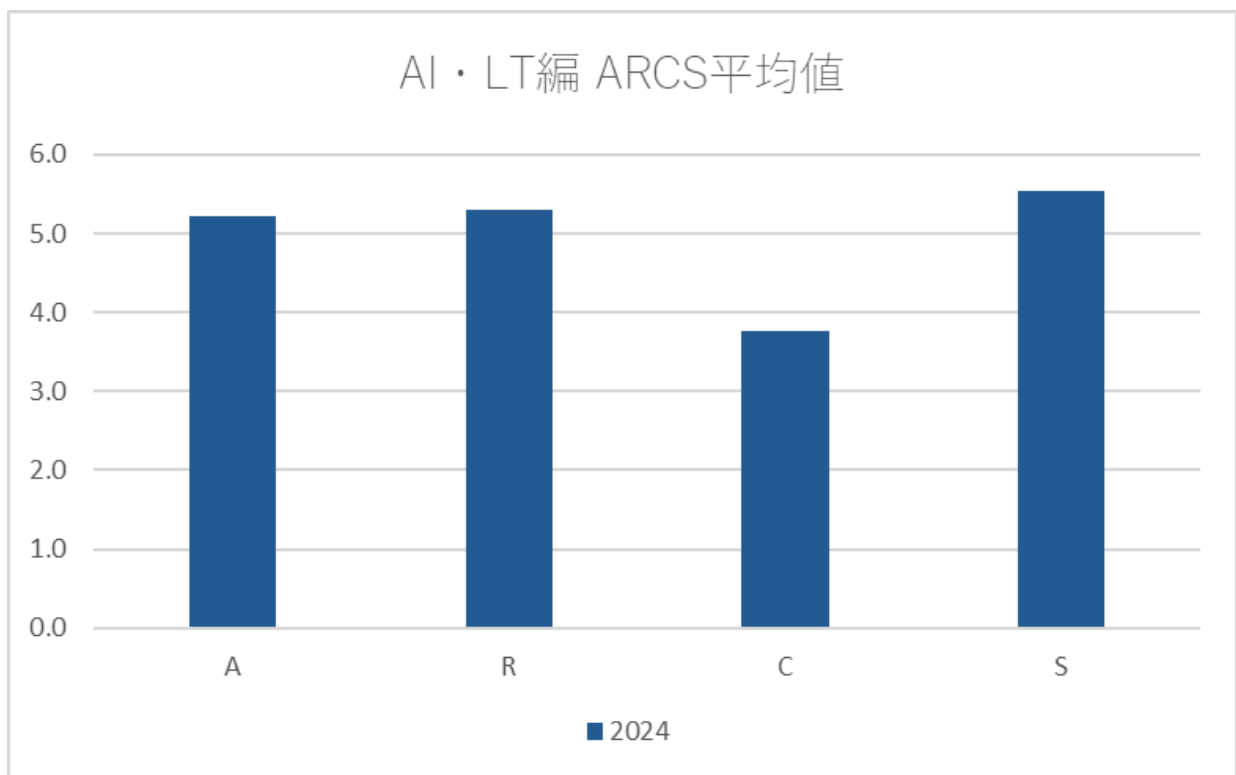
2024年度のAI・ラーニングテクノロジー編受講者に対する受講後アンケート（参加67名のうち47名（受講者のうち70%）では、講座に対する印象をARCSモデルに基づき測定し、講座で掲げた学習目標を達成できたかについても、入門編と応用編別に回答を求めました。

1) AI・ラーニングテクノロジー編についての印象

講座の印象について、ARCS別に7段階評価で測定し、全体回答の平均値がどのようなであったか、調査しました。

その結果、AI・ラーニングテクノロジー編では、C以外の値が5以上を示し、Cに関しては、3.5以上の数値を示し、講座への評価が高めであることが確認できました。

以下の図で、講座への印象に関する回答結果を提示しました。

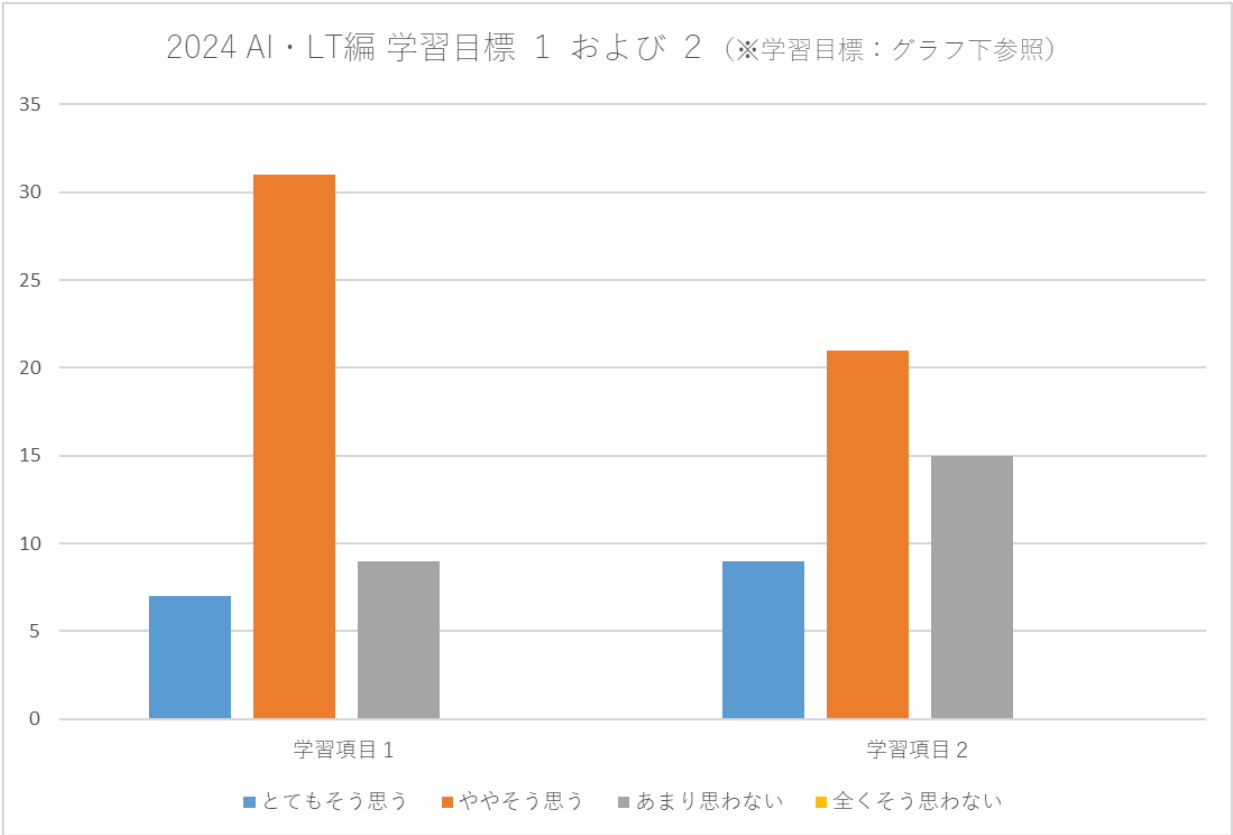


図：講座（AI・LT編）への印象に関するARCS平均値の推移（2024年度）

2) AI・ラーニングテクノロジー編での学習目標達成状況について

AI・ラーニングテクノロジー編で掲げた学習目標1の達成については、「とても思う」、「やや思う」が80%を超える高い値を示し、学習目標2の達成については、「とても思う」、「やや思う」の回答が65%を超える値を示しました。

以下に、学習目標1および2の到達状況に関する回答結果を提示しました。



図：AI・LT編学習目標の到達状況（2024年度）

※AI・ラーニングテクノロジー編 学習目標：

1. LLM（大規模言語モデル）がどのような処理を行うことができるのか、具体例をいくつか挙げて説明することができる。
2. 自分が普段から関わる実務的なタスクに、LLMが持つ処理能力を活用することができる。（活用のアイデアを出すことができる）

12月14

GSIS-LT 連続WS(第7回)「Moodle4.5標準の生成AI機能と拡張」

オンライン学習用の世界的定番システムをAIで強化する設定方法と実例

主催：熊本大学 大学院 教授システム学専攻 (GSIS)

募集内容	参加 (オンライン)	先着順
	無料	60/100人
参加者への情報	(参加者と発表者のみに公開されます)	
出席登録	(イベント開始時間の2時間前から終了時間まで、参加者のみに公開されます)	

イベントの説明

イベント概要

Moodleは、国内大学をはじめ世界中でオンライン学習に利用されているオープンソースLMSです。2024年10月に公開されたMoodle4.5には、生成AIを利用した文章生成、画像生成、コンテンツ要約の基礎的な機能が取り入れられており、生成AIサービスのAPIキーを設定すればすぐにその機能を利用することができます。これらのAI機能についての説明と、実際のMoodle4.5サイトでの実演を行います。また、プラグインのインストールやカスタマイズによる、小テスト問題自動生成などのAI機能の追加についても実演を交えて紹介します。

イベントスケジュール

日時：12月14日(土) 13:30 - 15:00
参加費：無料
開催方法：Zoom (詳しくは、参加受付後に『参加者への情報』に表示される内容をご覧ください)
主催：熊本大学 大学院 教授システム学専攻／教授システム学教育実践力開発拠点

当日の流れ：
13:30-13:35 冒頭説明
13:35-14:00 Moodle4.5が備える生成AIを利用した機能
14:00-14:40 プラグインやカスタマイズによるAI機能追加
14:40-15:00 質問対応など

熊本大学 大学院 教授システム学専攻 について

熊本大学 大学院 教授システム学専攻 (GSIS) は、国立大学では珍しく完全オンラインで修士号が取得できる大学院ですが、AI、LA、VR等のラーニングテクノロジー (LT) や、インストラクショナルデザイン(ID) の実践的な活用方法を学ぶカリキュラムとなっています。
ご興味ある方 (一般・社会人) の出席をお待ちしております。
関連情報：<https://www.gsis.kumamoto-u.ac.jp/gsis/exam/> (2025年度募集情報)

熊本大学 教授システム学専攻

2024年11月26日

◆【受講者募集】12月14日開催GSIS-LT連続ワークショップ(第7回) Moodle4.5標準の生成AI機能と拡張◆

<https://gsis.connpass.com/event/338462/> ... さらに表示



12月14日
13:30～
オンライン

GSIS-LT 連続ワークショップ(第7回)
Moodle4.5標準の
生成AI機能と拡張

図：GSIS-LT 連続WSをPRするFacebookページ等への投稿

2024/11/27 | その他

情報通信 / 学習支援システム

【熊本大学】12月14日開催「GSIS-LT連続ワークショップ(第7回) Moodle4.5標準の生成AI機能と拡張」受講者募集

  喜多 敏博

本ワークショップは、熊本大学教授システム学専攻ラーニングテクノロジー連続ワークショップ第7回目として開催いたします。Moodleは、国内大学をはじめ世界中でオンライン学習に利用されているオープンソースLMSです。2024年10月に公開された Moodle4.5 には、生成AIを利用した文章生成、画像生成、コンテンツ要約の基礎的な機能が取り入れられており、生成AIサービスのAPIキーを設定すればすぐにその機能を利用することができます。これらのAI機能についての説明と、実際の Moodle4.5サイトでの実演を行います。また、プラグインのインストールやカスタマイズによる、小テスト問題自動生成などのAI機能の追加についても実演を交えて紹介します。

日時：12月14日(土) 13:30 - 15:00
参加費：無料
開催方法：Zoom (詳しくは、参加受付後に『参加者への情報』に表示される内容をご覧ください)
主催：熊本大学 大学院 教授システム学専攻／教授システム学教育実践力開発拠点

当日の流れ：
13:30-13:35 冒頭説明
13:35-14:00 Moodle4.5が備える生成AIを利用した機能
14:00-14:40 プラグインやカスタマイズによるAI機能追加
14:40-15:00 質問対応など

↓詳細・申込みはこちらから↓
<https://gsis.connpass.com/event/338462/>

発信機関：熊本大学 大学院 教授システム学専攻／教授システム学教育実践力開発拠点

関連リンク

[熊本大学 大学院 教授システム学専攻](#)

問い合わせ先

熊本大学 大学院 教授システム学専攻／教授システム学教育実践力開発拠点
096-342-2895
kyoten@go.gsis.kumamoto-u.ac.jp

図：researchmapのプレスリリースを活用した「GSIS-LT 連続WS」のPR

また、2024年12月14日に開催したGSIS-LT 連続WS(第7回)「Moodle4.5標準の生成AI機能と拡張」は、そのコンテンツを活用し、非同期オンライン講座化を行いました。プラットフォームとしてudemyを利用し、2025年1月より、無料講座として提供を開始しました。2025年3月26日現在で60名の受講登録があり16名が受講中や完了となっています。

ITとソフトウェア > その他のIT・ソフトウェア



Moodle4.5標準の生成AI機能と拡張

GSIS-LT 連続WS7

新規 5.0 ★★★★★ (3件の評価) 50人の受講生 43分のオンデマンドビデオ

作成者: 敏博 喜多

🇯🇵 日本語 🇯🇵 日本語

コースへ移動

学習内容 コースの内容 レビュー 講師

- ✓ Moodle4.5での生成AIを利用した文章生成、画像生成、コンテンツ要約の基礎的な機能を知る
- ✓ 実際のMoodle4.5サイトでの生成AI機能の利用方法がわかる
- ✓ Moodleでの生成AIサービスのAPIキーの設定方法がわかる
- ✓ Moodleプラグインによる小テスト問題自動生成の機能を知る

図：udemyのコースMoodle4.5標準の生成AI機能と拡張
(<https://www.udemy.com/course/moodle45ai/>)

2025/01/14 | 製品, サービス

情報通信 / 学習支援システム

Moodle4.5標準の生成AI機能と拡張（無料オンライン講座）

  喜多 敏博

Moodleは、国内大学をはじめ世界中でオンライン学習に利用されているオープンソースLMSです。2024年10月に公開されたMoodle4.5には、生成AIを利用した文章生成、画像生成、コンテンツ要約の基礎的な機能が取り入れられており、生成AIサービスのAPIキーを設定すればすぐにその機能を利用することができます。これらのAI機能についての説明と、実際のMoodle4.5サイトでの実演を行います。また、プラグインのインストールによる、小テスト問題自動生成などのAI機能の追加についても実演を交えて紹介します。

（2024年12月の熊本大学教授システム学専攻ラーニングテクノロジー連続ワークショップの収録動画を元にした講座です。）

受講料： 無料（udemyアカウントが必要です）
講座URL：<https://www.udemy.com/course/moodle45ai/?referralCode=5501FC172A40899BC467>

コースの概要（46分）：

- ・ Moodle4.5で標準的に備える生成AI機能
- ・ Moodle4.5標準の生成AI機能についての外部リソース
- ・ プラグインによる小テスト問題自動生成
- ・ 小テスト問題自動生成プラグインについての外部リソース
- ・ 小テスト

発信機関： 熊本大学 半導体・デジタル研究教育機構, 総合情報学部 教授システム学分野

関連リンク	Moodle4.5標準の生成AI機能と拡張（無料オンライン講座）
問い合わせ先	熊本大学 半導体・デジタル研究教育機構, 総合情報学部 教授システム学分野 096-342-2895 kyoten@go.gsis.kumamoto-u.ac.jp

 いいね！ 0

 Tweet



図：researchmapのプレスリリースでのudemyコースの告知・PR

実践事例集の公開

本取り組みとして実施したワークショップ・研究会で提供した学習コンテンツや資料は、基本的にMoodle上で誰でもアクセスできるように「実践事例集」として公開されています。

教育支援ツール活用のための実践事例集

ダッシュボード / コース / 2021_moodle活用 / Moodle

事例一覧 Moodle Zoom 全体

本ページでは2021年度に熊本大学教授システム学研究センターが提供したワークショップを元に、MoodleやZoomといったICTツールの活用に役立つような情報を掲載しています。興味があるものをご利用ください。

Moodle編

自動採点テストで独習させたい【Moodle】

小テストの設定方法やランダム化について解説しています。

サンプル有

アクセスする

学生相互のやりとりで学習させたい【Moodle】

提出物が全員に見えるようにし、相互にコメントを書かせる方法等について解説しています。

アクセスする

学生の状況をモニターしたい【Moodle】

学生の出席（Moodleコースに入ったか）を確認する方法等について解説しています

アクセスする

Zoom編

Zoom講義中に問いかけて反応を見たい【Zoom】

提出物が全員に見えるようにし、相互にコメントを書かせる方法等について解説しています。

アクセスする

ラーニングテクノロジストの育成



教授システム学専攻は2022年度より、ラーニングテクノロジストを育成するカリキュラム（博士前期課程）を提供します。詳しくは以下のリンク先でご確認ください。

- 教授システム学専攻：博士前期課程カリキュラム
- 教授システム学専攻：ラーニングテクノロジスト詳細

Moodleの利用方法をもっと知る



以下のサイトでは、このページで紹介しているMoodleの利用方法について、より詳細に情報を掲載しています。

- 熊本大学：eラーニング推進室
- Moodle公式ドキュメント

図：教育支援ツール活用のための実践事例集

各トピックの説明ページ例は下図の通りです。小テストの種類や作成方法といった一般的な情報だけでなく、「毎回違う問題を出題したい」や「複数の小テストの総合点を出したい」等、より高度な設定についても説明をしています。

さらに、自組織のMoodleへリストア（ファイルをアップロード）するだけで、設定済みの小テストを入れることができるサンプルをいくつか提供することで、自力での設定が困難な人でも機能を活用できる仕組みを提供しています。

また、ツールの活用方法に関する説明だけでなく、本センターがこれまでに提供してきた教育改善スキル修得オンラインプログラムで紹介されている学習コンテンツ等、機能と関連する、学習設計の観点からも役立つような情報も参考情報として掲載しています。

教育支援ツール活用のための実践事例集

ダッシュボード / コース / 2021_moodle活用 / 学習活動設定編

[事例一覧](#) [学習活動設定編](#) [学習活動評価編](#) [全体](#)

自動採点テストで独習させたい【Moodle】

概要

Moodleでは、「クイズ」機能を利用して、知識やスキルを習得できるまで、学習者に練習をしてもらうことができます。以下にクイズの形式の説明、サンプルを掲載していますので、ご利用ください。

小テストの種類や作成方法：

- 小テストを作成する（作成方法や種類に関する説明）
- 問題のタイプの一覧
- [ドラッグ&ドロップテキスト](#)
- 穴埋め問題（Cloze）

小テストと関連する設定：

- 小テストの設定「レビューオプション」（学生からの見え方を確認したい）
- 小テストでランダムに出題（毎回、違う問題を出題したい）
- 評定計算（複数の小テストの総合点を出力したい）

いくつかの小テストなどの点数を積み付けして、総合点を出力するには⇒「評定」の評定項目に「計算」を使うのが分かりやすい。自由に計算式を書いて、総合点に対する配点（重み付け）の調整ができる。

サンプル：自身のMoodleへリストア（挿入）できます。リストア方法はこちら

- Moodle小テスト：多肢選択式
- Moodle小テスト：ドラッグ&ドロップテキスト
- Moodle小テスト：穴埋め問題
- Moodle小テスト：〇×問題

実用イメージと参考情報

クイズ機能を利用することで、例えば、「（１）授業の前にLMS上で学習し、クイズに合格することを授業参加のための条件とする」や「（２）3回の授業ごとにテストを行い、授業についていけない学習者をフォローする」といった利用方法が考えられます。詳しくは以下のリンクをご参照ください。

【参考】教育改善スキル修得オンラインプログラム「科目デザイン編」モジュール3

このプログラムでは、何度でもテストにチャレンジできる「再チャレンジ可」や、授業を学習目標ごとにブロック化するかし、ブロックごとに学習目標の達成をチェックする「多段階評価」を提案しています。

ラーニングテクノロジストの育成



教授システム学専攻は2022年度より、ラーニングテクノロジストを育成するカリキュラム（博士前期課程）を提供します。詳しくは以下のリンク先でご確認ください。

- 教授システム学専攻：博士前期課程カリキュラム
- 教授システム学専攻：ラーニングテクノロジスト詳細

Moodleの利用方法をもっと知る



以下のサイトでは、このページで紹介しているMoodleの利用方法について、より詳細に情報を掲載しています。

- 熊本大学：eラーニング推進室
- Moodle公式ドキュメント

図：教育支援ツール活用のための実践事例集
例：自動採点小テストで独習させたい

2025年3月31日

コンテンツ制作：

熊本大学 半導体・デジタル研究教育機構 教授システム学教育実践力開発拠点

監修者：

喜多敏博（半導体・デジタル研究教育機構 教授システム学教育実践力開発拠点長）

編集担当者：

山下藍（半導体・デジタル研究教育機構 特任助教）

鈴木真保（大学院教授システム学専攻博士後期課程・
教授システム学教育実践力開発拠点連携研究員）

篠塚麻衣子（半導体・デジタル研究教育機構 特定事業研究員）